

# 研修開催要領等（令和元年度）

各地域で学校教育において中心的な役割を担う校長、副校長・教頭、中堅教員及び事務職員等に対する研修（学校経営研修）

1. 教職員等中央研修	
第1回 校長研修 .....	1
第2回 校長研修 .....	3
第3回 校長研修 .....	5
第1回 副校長・教頭等研修 .....	7
第2回 副校長・教頭等研修 .....	9
第3回 副校長・教頭等研修 .....	11
第4回 副校長・教頭等研修 .....	13
第1回 中堅教員研修 .....	15
第2回 中堅教員研修 .....	17
第3回 中堅教員研修 .....	19
第4回 中堅教員研修 .....	21
第5回 中堅教員研修 .....	23
第1回 次世代リーダー育成研修 .....	25
第2回 次世代リーダー育成研修 .....	27
第1回 事務職員研修 .....	29
第2回 事務職員研修 .....	31
第3回 事務職員研修 .....	33

各学校や地域における研修のマネジメントを推進する指導者の養成等を目的とする研修（指導者養成研修）

1. 学校組織マネジメント指導者養成研修	
第1回 .....	35
第2回 .....	37
2. カリキュラム・マネジメント指導者養成研修	
第1回 .....	39
第2回 .....	41
3. 生徒指導指導者養成研修 .....	43
4. 教育相談指導者養成研修 .....	45
5. いじめの問題に関する指導者養成研修	
中央指導者研修 .....	47
仙台会場 .....	49
京都会場 .....	51
福岡会場 .....	53

6. 外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修	55
7. 外国語指導助手研修	
来日直後オリエンテーション（4月期・A日程・B日程・C日程）	57
8. 英語教育海外派遣研修	61
9. 体力向上マネジメント指導者養成研修	63
10. 健康教育指導者養成研修	66
11. 食育指導者養成研修	68
12. 学校安全指導者養成研修	70
13. 言語活動指導者養成研修	72
14. 道徳教育指導者養成研修	
中央指導者研修（第1回）	75
中央指導者研修（第2回）	79
北海道・東北ブロック	82
関東・甲信越ブロック	84
東海・北陸ブロック	86
近畿ブロック	88
中国・四国ブロック	90
九州・沖縄ブロック	92
15. 学校教育の情報化指導者養成研修	94
16. 人権教育指導者養成研修	96
17. キャリア教育指導者養成研修	
第1回	98
第2回	102
18. 幼児教育指導者養成研修	106

## 地方公共団体からの委託等により共益的事業として実施する研修（委託研修）

1. 産業・情報技術等指導者養成研修	
農業：A-1（新学習指導要領を念頭にした地域振興や地域資源の活用に資する農業教育の講義と実習）	108
工業：B-1（教科「工業」における授業改善に関する講義と演習～工業科におけるPBL実践法～）	110
商業：C-1（新学習指導要領を踏まえた教科「商業」における授業改善に関する講義と実習）	112
水産：D-1（水中における工学装置に関する講義と実習）	114
家庭：E-1（社会の変化に対応した衣食住、ヒューマンサービス等の生活産業に関する講義と実習）	116
看護：F-1（保健医療福祉の変化に対応した看護実践力を育成する授業に関する講義と演習）	118
情報：G-1（次期学習指導要領に対応した教科「情報」の授業改善に関する講義と実習）	120
技術・家庭（技術）：I-1（技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力の育成を目指した技術分野の指導と評価）	122
技術・家庭（技術）：I-2（情報技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力の育成を目指した技術分野の指導と評価）	124
技術・家庭（家庭）：J-1（技術・家庭科（家庭分野）における新学習指導要領に関する講義と実習）	126
2. 産業教育実習助手研修	
教科「工業」及び工業科教育法に関する講義と実習	128
3. 産業・理科教育教員派遣研修	130

## I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第1回校長研修【第446回】								
担当グループ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室								
研修目的	10年後の学校のあるべき姿を設定し、その実現を自校及び地域で推進できる力量を習得し、各地域の中核となる校長を育成する。								
受講対象	小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の校長等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者 ※主として小学校								
開催期日	令和元年6月10日（月）～令和元年6月14日（金）			5日間					
受講人数	標準定員 (計画人数)	40	人	受講者数	65	人	参加率	162.5%	
開催場所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）								

※ 中央研修全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,880 人、参加率 110.6%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	55	10	0	0	0	0	65
割合 (%)	84.6	15.4	0.0	0.0	0.0	0.0	
	65						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に課題をもって臨む形式であったので、より鮮明に課題意識をもって聴講することができた。</li> <li>・研修プログラムがまさに学校経営を行う上での課題となる内容でした。更に学校に戻っていかせるようなヒントやプログラムが用意されとても有意義でした。</li> <li>・受動的な受講ではなく、講師陣、センタースタッフ、全国の校長、事務がチームとなり10年後の学校を見据えた資質・能力を養う研修だったことが、研修を進めながら実感できました。</li> <li>・どの講座でも講義・演習・協議をとりいれ自分たちで内容を深めていけた点は非常に役にたった。</li> <li>・「学校マネジメントの設計」では1グループに1名の講師の方が担当し助言いただき深まった。</li> <li>・他県の現状について、情報交換できる機会があると尚良かった。</li> <li>・マネジメントの成功例や企業の方のお話（これからは学校と企業もつながっていくと考えられる）など、具体的な内容が盛り込まれていると良い。</li> <li>・タブレット等ICTを活用し、効率よく進行、記録したり資料等をWEBで検索できるような研修形態はいかがか。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校長研修・事務職員研修を同時期に開催し、一部の内容を合同で行った。また昨年度まで2回開催であった校長研修を学校種別（小、中、高・特）の3回開催とした。</li> <li>・研修の一部に教職大学院の教員をグループのファシリテーターとして講師招聘し、地域ブロック別協議を行い、研修後の成果活用の改善を図った。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校長研修と事務職員研修を校種別に同時期に実施し、一部の内容を合同で行う。</li> <li>・教職大学院の教員をファシリテーターとした研修内容について継続を図る。</li> <li>・マネジメントについて先を見通す「時間軸」と、地域・社会の「空間軸」でおさえられるように研修内容の配列について改善を図る。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

## 令和元年度 教職員等中央研修【第1回校長研修】

(小学校)

6月10日(月)	6月11日(火)	6月12日(水)	6月13日(木)	6月14日(金)
/	8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング
	休憩	休憩	休憩	休憩
9:00~9:45 ※受付	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)
9:45~10:15 ※オリエンテーション	講義・演習・協議 ※コミュニティ・マネジメント	講義 スタッフ・マネジメント	講義・演習・協議 学校マネジメントプランの設計	演習 ※学校改善プランの設計
10:15~10:30 ※開講式	香川大学	早稲田大学	「スクール・マネジメント」	教職員支援機構
休憩	教授	教授	講師団	つくば中央研修センター
10:45~12:15 講義 ※教育政策の諸動向 文部科学省	清國 祐二	河村 茂雄		研修プロデュース室担当
12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩
13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義・演習 ※学校組織マネジメント	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義 カリキュラム・マネジメント	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義・演習・協議 学校マネジメントプランの設計	13:15~14:45 講義・演習 ※リスクマネジメント 鳴門教育大学 教授 阪根 健二	13:15~14:45 講義・演習 ※研修成果の活用 教職員支援機構 次世代教育推進センター長 大杉 昭英
国土館大学 教授 北神 正行	千葉大学 特任教授 天笠 茂	「スクール・マネジメント」 講師団	休憩	休憩
			15:00~16:30 講義・演習 ※タイムマネジメント 教職員支援機構 つくば中央研修センター長 葛上 秀文	15:00~15:15 ※閉講式
休憩	休憩	休憩	休憩	
16:45~17:15 ※ユニットミーティング	16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 ※ユニットミーティング	

※ 事務職員研修と合同

## I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第2回校長研修【第448回】							
担当グループ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研修目的	10年後の学校のあるべき姿を設定し、その実現を自校及び地域で推進できる力量を習得し、各地域の中核となる校長を育成する。							
受講対象	小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の校長等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者 ※主として中学校							
開催期日	令和元年6月24日（月）～令和元年6月28日（金）			5日間				
受講人数	標準定員 (計画人数)	40	人	受講者数	50	人	参加率	125.0%
開催場所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）							

※ 中央研修全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,880 人、参加率 110.6%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	40	9	1	0	0	0	50
割合 (%)	80.0	18.0	2.0	0.0	0.0	0.0	
	49	98.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・10年後の理想の学校を考えることを通して、現任校の課題ややるべきことが明確になり、帰校したらやってみようという実践の意欲を持つことができた。</li> <li>・学校を経営していく視点として、10年先を見通すという意識の改革につながった。10年後の姿を意識したのが他にはない研修でした。</li> <li>・グループ活動に専門家の先生の助言をいただき、グループでの有意義な話し合いや作業を行うことができました。</li> <li>・チームとしての学校の視点で事務職員との合同演習はよかった。校長同士での意見の相違はありますが、新たな気づきは、事務職員から得られました。</li> <li>・講義・演習が次の講義につながり、大きなテーマのもと統一感ある内容になっていた。充実した内容であった。</li> <li>・参加者と学校づくりを話し合う時間が、非常に貴重な時間となり、今後の学校経営を考えるうえでとても有効だった。</li> <li>・2日目のユニットミーティングは、その日の振り返りをグループでしたかったです。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校長研修・事務職員研修を同時期に開催し、一部の内容を合同で行った。また昨年度まで2回開催であった校長研修を学校種別（小、中、高・特）の3回開催とした。</li> <li>・研修の一部に教職大学院の教員をグループのファシリテーターとして講師招聘し、地域ブロック別協議を行い、研修後の成果活用の改善を図った。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校長研修と事務職員研修を校種別に同時期に実施し、一部の内容を合同で行う。</li> <li>・教職大学院の教員をファシリテーターとした研修内容について継続を図る。</li> <li>・マネジメントについて先を見通す「時間軸」と、地域・社会の「空間軸」でおさえられるように研修内容の配列について改善を図る。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

## 令和元年度 教職員等中央研修【第2回校長研修】

(中学校)

6月24日(月)	6月25日(火)	6月26日(水)	6月27日(木)	6月28日(金)
/	8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング
	休憩	休憩	休憩	休憩
9:00~9:45 ※受付	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)
9:45~10:15 ※オリエンテーション	講義・演習・協議 ※コミュニティ・マネジメント	講義 スタッフ・マネジメント	講義・演習・協議 学校マネジメントプランの設計	演習 ※学校改善プランの設計
10:15~10:30 ※開講式	香川大学	早稲田大学	「スクール・マネジメント」	教職員支援機構
休憩	教授	教授	講師団	つくば中央研修センター
10:45~12:15 講義 ※教育政策の諸動向 文部科学省	清國 祐二	河村 茂雄		研修プロデュース室担当
12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩	12:15~13:15 昼食・休憩
13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義・演習 ※学校組織マネジメント	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義 カリキュラム・マネジメント	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義・演習・協議 学校マネジメントプランの設計	13:15~14:45 講義・演習 ※リスクマネジメント 鳴門教育大学 教授 阪根 健二	13:15~14:45 講義・演習 ※研修成果の活用 教職員支援機構 次世代教育推進センター長 大杉 昭英
国土館大学 教授 北神 正行	千葉大学 特任教授 天笠 茂	「スクール・マネジメント」 講師団	休憩	休憩
			15:00~16:30 講義・演習 ※タイムマネジメント 教職員支援機構 つくば中央研修センター長 葛上 秀文	15:00~15:15 ※閉講式
休憩	休憩	休憩	休憩	
16:45~17:15 ※ユニットミーティング	16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 ※ユニットミーティング	

※ 事務職員研修と合同

## I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第3回校長研修【第457回】							
担当グループ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研修目的	10年後の学校のあるべき姿を設定し、その実現を自校及び地域で推進できる力量を習得し、各地域の中核となる校長を育成する。							
受講対象	小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の校長等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者 ※主として高等学校・特別支援学校							
開催期日	令和元年10月7日（月）～令和元年10月11日（金）			5日間				
受講人数	標準定員 (計画人数)	60	人	受講者数	51	人	参加率	85.0%
開催場所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）							

※ 中央研修全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,880 人、参加率 110.6%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	43	8	0	0	0	0	51
割合 (%)	84.3	15.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
	51		100.0				

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・マネジメント研修に絞ってあるため、研修（学び）の目的がはっきりしていて、今後確実に役立ちます。5日間の全体の流れが大変わかりやすかったと思う。</li> <li>・社会に開かれた教育課程のための地域とのつながり、職員と共に共同で取り組む学校運営に在り方、そしてカリキュラム・マネジメント等、現在の学校経営としての課題と方向性を導き出せる内容であり、具体的で、すぐに着手できる研修であった。</li> <li>・研修終了後のユニット・ミーティングでのインプットとアウトプットや、自室に戻っての学びのシートで、1日の研修の整理と振り返りをグループ・個人と順を追って行う流れがよかった。</li> <li>・「学校マネジメントプランの設計」でグループに一人、大学の先生がついてくれたのは、とても良かった。意見交換しやすいし、何よりも今後に向けての人間関係が構築できたのは大きな収穫であった。</li> <li>・「学校マネジメントプランの設計」で高校の課題を話し合い設計するよりは、特別支援学校を同じグループと協議を深める方が、より研修の内容を深められると感じた。</li> <li>・「リスクマネジメント」は新聞の例で考えさせるのではなく、実際にそのような場面を想定して管理職としてどう行動するのかの演習が欲しかった。</li> <li>・県の研修では受けられない、そんな方の講義を今後お願いします。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校長研修・事務職員研修を同時期に開催し、一部の内容を合同で行った。また昨年度まで2回開催であった校長研修を学校種別（小、中、高・特）の3回開催とした。</li> <li>・研修の一部に教職大学院の教員をグループのファシリテーターとして講師招聘し、地域ブロック別協議を行い、研修後の成果活用の改善を図った。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校長研修と事務職員研修を校種別に同時期に実施し、一部の内容を合同で行う。</li> <li>・教職大学院の教員をファシリテーターとした研修内容について継続を図る。</li> <li>・マネジメントについて先を見通す「時間軸」と、地域・社会の「空間軸」でおさえられるように研修内容の配列について改善を図る。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

## 令和元年度 教職員等中央研修【第3回校長研修】

(高校・特別支援)

10月7日(月)	10月8日(火)	10月9日(水)	10月10日(木)	10月11日(金)
/	8:45～8:55 ミーティング	8:45～8:55 ミーティング	8:45～8:55 ミーティング	8:45～8:55 ミーティング
	休憩	休憩	休憩	休憩
9:00～9:45 ※受付	9:00～12:15 (休憩:15分を含む)	9:00～12:15 (休憩:15分を含む)	9:00～12:15 (休憩:15分を含む)	9:00～12:15 (休憩:15分を含む)
9:45～10:15 ※オリエンテーション	講義・演習・協議 ※コミュニティ・マネジメント	講義 スタッフ・マネジメント	講義・演習・協議 学校マネジメントプランの設計	演習 ※学校改善プランの設計
10:15～10:30 ※開講式	香川大学 教授 清國 祐二	早稲田大学 教授 河村 茂雄	「スクール・マネジメント」 講師団	文部科学省 初等中等教育局参事官(高等教育担当)
休憩				室長 安彦 広斉
10:45～12:15 講義 ※教育政策の諸動向 文部科学省				滋賀大学教職大学院 教授 大野 裕己
12:15～13:15 昼食・休憩	12:15～13:15 昼食・休憩	12:15～13:15 昼食・休憩	12:15～13:15 昼食・休憩	12:15～13:15 昼食・休憩
13:15～16:30 (休憩:15分を含む) 講義・演習 ※学校組織マネジメント	13:15～16:30 (休憩:15分を含む) 講義 カリキュラム・マネジメント	13:15～16:30 (休憩:15分を含む) 講義・演習・協議 学校マネジメントプランの設計	13:15～14:45 講義・演習 ※リスクマネジメント 高崎経済大学 講師 飯野 眞幸	13:15～14:45 講義・演習 ※研修成果の活用 教職員支援機構 次世代教育推進センター長 大杉 昭英
国土館大学 教授 北神 正行	千葉大学 教授 天笠 茂	「スクール・マネジメント」 講師団	休憩	休憩
			15:00～16:30 講義・演習 ※タイムマネジメント 愛媛大学 教授 露口 健司	15:00～15:15 ※閉講式
休憩	休憩	休憩	休憩	
16:45～17:15 ※ユニットミーティング	16:45～17:15 ユニットミーティング	16:45～17:15 ユニットミーティング	16:45～17:15 ※ユニットミーティング	

※事務職員研修と合同



## I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第1回副校長・教頭等研修【451回】							
担当グループ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研修目的	ステークホルダーが求めるものを踏まえ、自校をマネジメントできる力量を習得し、各地域の中核となる副校長・教頭等を育成する。							
受講対象	幼稚園の園長・副園長等、小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の副校長・教頭、教育委員会等の指導主事等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者 主幹教諭については、各教育委員会の判断により「副校長・教頭等研修」に推薦することができる。 ※主として小学校・中学校・特別支援学校							
開催期日	令和元年7月29日（月）～令和元年8月8日（木）					9日間		
受講人数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	106	人	参加率	106.0%
開催場所	京都テルサ（京都府京都市）							

※ 中央研修全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,880 人、参加率 110.6%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった				あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義		概ね有意義						
人数 (人)	94	12	0	0	0	0	0	0	106
割合 (%)	88.7	11.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	106		100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の組み立てがよく、講義ごとのつながりを感じ思考できた。</li> <li>・つながりを考えたプログラム構成で、より理解が深まった。全ての内容がシームレスにつながり、組み合わせることで、いろいろな問題に対処できるように組まれていた。</li> <li>・研修内容について、どういう領域がどのようにプログラムされているかという説明が初めにあったので、見通しをもって取り組めた。最初からゴールを意識させて下さり、研修に自分なりの目標・目的をもっと臨むことができました。</li> <li>・10年以上先を見越して、今の学校教育に必要なことや教頭としての取組について全ての講義が一貫していた。</li> <li>・学校を広く思考することができました。全体を捉える視点が新鮮でした。10年後の学校がどうなっているのか深く考えたこともなかったのですが、今からつながっていることを踏まえ、やるべきこと、やらなければならないことを整理し、始めていく、広げていくことが重要であり、課題だと思いました。</li> <li>・これからの学校運営において、今まさに実践すべきことはもちろん、10年後・15年後を見据えた学校経営についても学べたことは、今後の自分にとって大変貴重な経験だと思った。</li> <li>・スクール・マネジメントの内容、学校改善、実践開発の内容と3つの領域について学んだことが有意義であった。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方改革に対応し、タイム・マネジメントやスタッフ・マネジメント等の講座を設けた。</li> <li>・スクールリーダーとしての学校の組織改善の視点に立ち、「チーム学校の構築」をスクール・マネジメントの領域「学校組織マネジメント」、「カリキュラム・マネジメント」、「コミュニティ・マネジメント」等、学校が組織的に教育目標を達成するための内容に変更し、主体的・協働的な協議・演習を取り入れながら、多様な角度からマネジメントの手法を学ぶようにした。</li> <li>・東京開催を近畿開催に変更した。近畿開催分は、スクール・コンプライアンスを試行的に実施せず10日間から9日間に短縮し、ユニットミーティングにおいて学校改善の方策や、その日の講義を振り返りについてフリーディスカッションを行った。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営演習とスクール・コンプライアンスの実施のあり方について見直す。</li> <li>・今年度の取組を踏まえ、研修内容を精選し研修期間を8日間に短縮したA日程（10日間→8日間）を2回実施するとともに、今後の副校長・教頭等研修としてスクールマネジメント領域の内容に特化したB日程（5日間：新設）を2回実施する。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

令和元年度 教職員等中央研修 第1回副校長・教頭等研修

7月29日(月)	7月30日(火)	7月31日(水)	8月1日(木)	8月2日(金)	
	8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング	
	休憩	休憩	休憩	休憩	
	9:00~9:45 受付	9:00~12:15 (休憩15分を含む)	9:00~12:15 (休憩15分を含む)	9:00~12:15 (休憩15分を含む)	9:00~12:15 (休憩15分を含む)
	9:45~10:15 オリエンテーション	講義・演習 教育法規	講義・演習 カリキュラム・マネジメント	講義・演習 スタッフ・マネジメント	講義・演習 コミュニティ・マネジメント
10:15~10:30 開講式	清水法律事務所 弁護士 清水 幹裕	明星大学 教授 吉富 芳正	別府大学 教授 佐藤 敬子	香川大学 教授 清國 祐二	
休憩					
10:45~12:15 協議・発表 校内研修プログラムの開発①	清水法律事務所 弁護士 清水 幹裕	明星大学 教授 吉富 芳正	別府大学 教授 佐藤 敬子	香川大学 教授 清國 祐二	
昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩	
13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:15~16:30 (休憩15分を含む)	
講義・演習 学校組織マネジメント	講義・演習 タイム・マネジメント	講義・演習 財務マネジメント	講義・演習 メンタルヘルス・マネジメント	講義・演習 リスク・マネジメント	
中部学院大学 教授 篠原 清昭	帝京大学 准教授 小入羽 秀敬	愛知教育大学 准教授 風岡 治	早稲田大学 教授 河村 茂雄	塩竈市立第一中学校 校長 身崎 裕司	
休憩	休憩	休憩	休憩	休憩	
16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 ユニットミーティング	
8月5日(月)	8月6日(火)	8月7日(水)	8月8日(木)		
8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング		
休憩	休憩	休憩	休憩		
9:00~12:15 (休憩15分を含む)	9:00~12:15 (休憩15分を含む)	9:00~12:15 (休憩15分を含む)	9:00~10:30 協議・発表 校内研修プログラムの開発②		
講義・演習 生徒指導の推進	講義・演習 学校ビジョンの構築	講義・演習 道徳教育の推進	10:45~12:15 講義 教育政策の諸動向 文部科学省		
日本大学 教授 藤平 敦	兵庫教育大学 教授 浅野 良一	高松大学 教授 七條 正典			
昼休憩	昼休憩	昼休憩	12:20~12:30 閉講式		
13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:15~16:30 (休憩15分を含む)			
講義・演習 インクルーシブ教育の推進	講義・演習 学校ビジョンの構築	講義・演習 学校マネジメントプランの設計			
FR教育臨床研究所 所長 花輪 敏男	兵庫教育大学 教授 浅野 良一	教職員支援機構 つくば中央研修センター センター長 葛上 秀文			
休憩	休憩	休憩			
16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 ユニットミーティング			

## I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第2回副校長・教頭等研修【第455回】								
担当グループ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室								
研修目的	ステークホルダーが求めるものを踏まえ、自校をマネジメントできる力量を習得し、各地域の中核となる副校長・教頭等を育成する。								
受講対象	幼稚園の園長・副園長等、小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の副校長・教頭、教育委員会等の指導主事等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者 主幹教諭については、各教育委員会の判断により「副校長・教頭等研修」に推薦することができる。 ※主として高等学校・特別支援学校								
開催期日	令和元年9月24日（火）～令和元年10月4日（金）			10日間					
受講人数	標準定員 (計画人数)	120	人	受講者数	120	人	参加率	100.0%	
開催場所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）								

※ 中央研修全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,880 人、参加率 110.6%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	117	3	0	0	0	0	120
割合 (%)	97.5	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・他県の先生方と交流を深めることができた。講義も興味深く、大変参考になった。</li> <li>・一流の講師陣から直に講義を受けられたことで、日頃の業務についての根拠等について整理することができた。</li> <li>・日常では時間をかけて学ぶ機会を持つことができない。10日間、じっくりと様々な視点で学べたことは有意義でした。</li> <li>・学校経営という視点で様々な面から論理的に説明していただいたことが良かった。</li> <li>・現在、所属校で次年度からの学校経営計画を策定しているところであるため、特に浅野先生の「学校ビジョンの構築」の内容が大変参考になった。</li> <li>・普段、必要と感じながらも忙しさに追われ、じっくり法令を読み込むことができていなかったもので、スクール・コンプライアンスの時間は大変有意義であった。</li> <li>・教育委員会事務局に勤務してしばらく経つが、これまでの様々な経験（担当した施策など）の理論的な裏付けを学び、自分の中で個々のピースがはまったように感じた。</li> <li>・管理職として幅広い知識が得られるように配慮しており、大変良いプログラムだったと思います。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方改革に対応し、タイム・マネジメントやスタッフ・マネジメント等の講座を設けた。</li> <li>・スクールリーダーとしての学校の組織改善の視点に立ち、「チーム学校の構築」をスクール・マネジメントの領域「学校組織マネジメント」、「カリキュラム・マネジメント」、「コミュニティ・マネジメント」等、学校が組織的に教育目標を達成するための内容に変更し、主体的・協働的な協議・演習を取り入れながら、多様な角度からマネジメントの手法を学ぶことができたようにした。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営演習とスクール・コンプライアンスの実施のあり方について見直す。</li> <li>・今年度の取組を踏まえ、研修内容を精選し研修期間を8日間に短縮したA日程（10日間→8日間）を2回実施するとともに、今後の副校長・教頭等研修としてスクールマネジメント領域の内容に特化したB日程（5日間：新設）を2回実施する。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

令和元年度 教職員等中央研修 第2回副校長・教頭等研修

9月24日(火)	9月25日(水)	9月26日(木)	9月27日(金)	9月28日(土)
	8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング
	休憩	休憩	休憩	休憩
9:00~9:45 受付	9:00~12:15 (休憩15分を含む)  講義・演習 教育法規  清水法律事務所 弁護士 清水 幹裕	9:00~12:15 (休憩15分を含む)  講義・演習 カリキュラム・マネジメント  東京学芸大学 准教授 末松 裕基	9:00~12:15 (休憩15分を含む)  講義・演習 スタッフ・マネジメント  別府大学 教授 佐藤 敬子	9:00~12:15 (休憩15分を含む)  講義・演習 コミュニティ・マネジメント  香川大学 教授 清國 祐二
9:45~10:15 オリエンテーション				
10:15~10:30 開講式				
休憩				
10:45~12:15 講義 教育政策の諸動向 文部科学省	休憩	休憩	休憩	休憩
13:15~16:30 (休憩15分を含む)  講義・演習 学校組織マネジメント  筑波大学 教授 浜田 博文	13:15~16:30 (休憩15分を含む)  講義・演習 タイム・マネジメント  帝京大学 准教授 小入羽 秀敬	13:15~16:30 (休憩15分を含む)  講義・演習 財務マネジメント  日本大学 教授 末富 芳	13:15~16:30 (休憩15分を含む)  講義・演習 メンタルヘルス・マネジメント  早稲田大学 教授 河村 茂雄	13:15~16:30 (休憩15分を含む)  講義・演習 リスク・マネジメント  塩竈市立第一中学校 校長 身崎 裕司
休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 学校運営演習①	16:45~17:15 学校運営演習②	16:45~17:15 学校運営演習③	16:45~17:15 学校運営演習④
9月30日(月)	10月1日(火)	10月2日(水)	10月3日(木)	10月4日(金)
8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング	8:45~9:00 ユニットミーティング	8:45~8:55 ミーティング
休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
9:00~12:15 (休憩15分を含む)  講義・演習 生徒指導の推進  日本大学 教授 藤平 敦	9:00~12:15 (休憩15分を含む)  講義・演習 学校ビジョンの構築  兵庫教育大学 教授 浅野 良一	9:00~12:15 (休憩15分を含む)  講義・演習 道徳教育の推進  くらしき作陽大学 教授 秋山 博正	9:15~11:40 (休憩:15分×1回を含む)  演習・協議 スクール・コンプライアンス	9:00~12:15 協議・演習・発表 校内研修プログラムの開発
休憩	休憩	休憩	休憩	
13:15~16:30 (休憩15分を含む)  講義・演習 インクルーシブ教育の推進  FR教育臨床研究所 所長 花輪 敏男	13:15~16:30 (休憩15分を含む)  講義・演習 学校ビジョンの構築  兵庫教育大学 教授 浅野 良一	13:30~17:15 (休憩:15分×2回を含む)  演習・協議 スクール・コンプライアンス	13:00~16:45 (休憩:15分×2回を含む)  演習・協議 スクール・コンプライアンス	12:20~12:30 閉講式
休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
16:45~17:15 学校運営演習⑤	16:45~17:15 学校運営演習⑥		17:00~17:15 ミーティング	

## I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第3回副校長・教頭等研修【第458回】							
担 当 課 グ ル ー プ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研 修 目 的	ステークホルダーが求めるものを踏まえ、自校をマネジメントできる力量を習得し、各地域の中核となる副校長・教頭等を育成する。							
受 講 対 象	幼稚園の園長・副園長等、小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の副校長・教頭、教育委員会等の指導主事等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者 主幹教諭については、各教育委員会の判断により「副校長・教頭等研修」に推薦することができる。 ※主として幼稚園・小学校・中学校							
開 催 期 日	令和2年11月5日（火）～令和2年11月15日（金）					10日間		
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	140	人	受講者数	138	人	参加率	98.6%
開 催 場 所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）							

※ 中央研修全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,880 人、参加率 110.6%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	129	8	0	0	1	0	138
割合 (%)	94.2	5.8	0.0	0.0	0.7	0.0	
	137						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校マネジメントにおける重要なポイントが網羅されており、新たな視点を与えて頂き、多くの刺激を受けることができました。</li> <li>・副校長・教頭等に必要「スクール・マネジメント」「学校改善」「実践開発」について、バランスよく研修させていただきました。それらを基に実践かつ総合的な学校経営力となるように、研修のまとめとしてスクール・コンプライアンス演習・協議、研修成果レポート作成というアウトプットがあったことにより、ゴールを明確にして主体的に研修に取り組むことができました。</li> <li>・2週間の組み立て方・深まり方、とても良かったです。そして、あのタイミングで浅野先生の総括的な1日。いろいろな学びがびったりつながった気がしました。</li> <li>・スクール・マネジメント、学校改善、実践開発の講座がバランスよく組み立てられており、最終日の活用レポート課題→目標→内容等がスムーズにイメージできて記入できた。</li> <li>・生徒指導や道徳教育については、研修のターゲットが教頭向けでない内容に感じた。道徳については、管理職として道徳教育をどう進めていくかをもう少し知りたかった。</li> <li>・できれば、学びたい内容についてもっと深く学ぶ機会があるとよいと思う（例：内容は選択）</li> </ul> <p>幼稚園の生徒指導の実際の講義は良かったが、せつかくなので、小や中の先生方にも聞いてほしい。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方改革に対応し、タイム・マネジメントやスタッフ・マネジメント等の講座を設けた。</li> <li>・スクールリーダーとしての学校の組織改善の視点に立ち、「チーム学校の構築」をスクール・マネジメントの領域「学校組織マネジメント」、「カリキュラム・マネジメント」、「コミュニティ・マネジメント」等、学校が組織的に教育目標を達成するための内容に変更し、主体的・協働的な協議・演習を取り入れながら、多様な角度からマネジメントの手法を学ぶことができるようにした。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営演習とスクール・コンプライアンスの実施のあり方について見直す。</li> <li>・今年度の取組を踏まえ、研修内容を精選し研修期間を8日間に短縮したA日程（10日間→8日間）を2回実施するとともに、今後の副校長・教頭等研修としてスクールマネジメント領域の内容に特化したB日程（5日間：新設）を2回実施する。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

令和元年度 教職員等中央研修 第3回副校長・教頭等研修

11月5日(火)	11月6日(水)	11月7日(木)	11月8日(金)	11月9日(土)	
<div style="text-align: center;">/</div>	8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング	
	休憩	休憩	休憩	休憩	
	9:00~9:45 受付	9:00~12:15 (休憩15分を含む)	9:00~12:15 (休憩15分を含む)	9:00~12:15 (休憩15分を含む)	9:00~12:15 (休憩15分を含む)
	9:45~10:15 オリエンテーション	講義・演習 教育法規	講義・演習 カリキュラム・マネジメント	講義・演習 スタッフ・マネジメント	講義・演習 コミュニティ・マネジメント
	10:15~10:30 開講式	清水法律事務所 弁護士 清水 幹裕	東京学芸大学 准教授 末松 裕基	別府大学 教授 佐藤 敬子	香川大学 教授 清國 祐二
10:45~12:15 講義 教育政策の諸動向 文部科学省	清水法律事務所 弁護士 清水 幹裕	東京学芸大学 准教授 末松 裕基	別府大学 教授 佐藤 敬子	香川大学 教授 清國 祐二	
休憩	休憩	休憩	休憩	休憩	
13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:15~16:30 (休憩15分を含む)	
講義・演習 学校組織マネジメント	講義・演習 財務マネジメント	講義・演習 タイム・マネジメント	講義・演習 メンタルヘルス・マネジメント	講義・演習 リスク・マネジメント	
中部学院大学 教授 篠原 清昭	愛知教育大学 准教授 風岡 治	愛媛大学 教授 露口 健司	早稲田大学 教授 河村 茂雄	塩竈市立第一中学校 校長 身崎 裕司	
休憩	休憩	休憩	休憩	休憩	
16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 学校運営演習①	16:45~17:15 学校運営演習②	16:45~17:15 学校運営演習③	16:45~17:15 学校運営演習④	
11月11日(月)	11月12日(火)	11月13日(水)	11月14日(木)	11月15日(金)	
8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング	8:45~9:00 ユニットミーティング	8:45~8:55 ミーティング	
休憩	休憩	休憩	休憩	休憩	
9:00~12:15 (休憩15分を含む)	9:00~12:15 (休憩15分を含む)	9:00~12:15 (休憩15分を含む)	9:15~11:40 (休憩:15分×1回を含む)	9:00~12:15 協議・演習・発表 校内研修プログラムの開発	
講義・演習 生徒指導の推進	講義・演習 学校ビジョンの構築	講義・演習 道徳教育の推進	演習・協議 スクール・コンプライアンス		
日本大学 教授 藤平 敦 國學院大学 教授 神長 美津子	兵庫教育大学 教授 浅野 良一	大阪教育大学 名誉教授 藤永 芳純			
休憩	休憩	休憩	休憩	12:20~12:30 閉講式	
13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:30~17:15 (休憩:15分×2回を含む)	13:00~16:45 (休憩:15分×2回を含む)		
講義・演習 インクルーシブ教育の推進	講義・演習 学校ビジョンの構築	演習・協議 スクール・コンプライアンス	演習・協議 スクール・コンプライアンス		
FR教育臨床研究所 所長 花輪 敏男	兵庫教育大学 教授 浅野 良一				
休憩	休憩				
16:45~17:15 学校運営演習⑤	16:45~17:15 学校運営演習⑥		17:00~17:15 ミーティング		

## I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第4回副校長・教頭等研修【第461回】						
担当グループ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室						
研修目的	ステークホルダーが求めるものを踏まえ、自校をマネジメントできる力量を習得し、各地域の中核となる副校長・教頭等を育成する。						
受講対象	幼稚園の園長・副園長等、小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の副校長・教頭、教育委員会等の指導主事等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者 主幹教諭については、各教育委員会の判断により「副校長・教頭等研修」に推薦することができる。						
開催期日	令和2年2月3日（月）～ 令和2年2月14日（金）				10日間		
受講人数	標準定員 (計画人数)	160	人	受講者数	160	参加率	100.0%
開催場所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）						

※ 中央研修全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,880 人、参加率 110.6%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	154	6	0	0	0	0	160
割合 (%)	96.3	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

2. 研修内容に関する主な意見

- ・中央研修だけあって、毎回お越しいただく講師の方々のレベルが高く、何より話術がすごく、時間の経過がとても早く感じました。
- ・管理職として身につけておかなければいけない様々なマネジメントについて講義を聴き、再確認と新たな知識を得ることができたので良かった。
- ・マネジメントというキーワードを軸に、教頭・副校長としてさらには校長として必要な視点を学ぶことができた。講師の方や講義内容が異なっても、それぞれのつながりや共通して大切なところが見え、深い理解につながった。
- ・カリキュラム・マネジメント、メンタルヘルス・マネジメント、学校ビジョンの構築については大変興味深く聞き、新しい発想のヒント、学校経営等のツボを与えていただけた。
- ・学校運営のために、管理職として必要な資質・能力を高めるための幅広い内容の研修が組み立てられていたので、どの内容も集中して受講することができた。
- ・研修の組み立て方がすごく良いと感じました（1日の午前・午後の組み立て方や前後日の組み立て方）。
- ・財務マネジメントについては、もう少し明確に財務に関わることを学べるとよかった（とても期待をしていた講義であったので）。
- ・時間的な関係もあるが、他校の事例についてもっと学びたかった。

## III 研修内容・方法の見直し等

### 前年度を踏まえ

- ・働き方改革に対応し、タイム・マネジメントやスタッフ・マネジメント等の講座を設けた。
- ・スクールリーダーとしての学校の組織改善の視点に立ち、「チーム学校の構築」をスクール・マネジメントの領域「学校組織マネジメント」、「カリキュラム・マネジメント」、「コミュニティ・マネジメント」等、学校が組織的に教育目標を達成するための内容に変更し、主体的・協働的な協議・演習を取り入れながら、多様な角度からマネジメントの手法を学ぶことができるようにした。

### 次年度に向けて

- ・学校運営演習とスクール・コンプライアンスの実施のあり方について見直す。
- ・今年度の取組を踏まえ、研修内容を精選し研修期間を8日間に短縮したA日程（10日間→8日間）を2回実施するとともに、今後の副校長・教頭等研修としてスクールマネジメント領域の内容に特化したB日程（5日間：新設）を2回実施する。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

令和元年度 教職員等中央研修 第4回副校長・教頭等研修

2月3日(月)	2月4日(火)	2月5日(水)	2月6日(木)	2月7日(金)
9:00~9:45 受付 9:45~10:15 オリエンテーション 10:15~10:30 開講式 休憩 10:45~12:15 講義 教育政策の諸動向 文部科学省	8:45~8:55 ミーティング 休憩	8:45~8:55 ミーティング 休憩	8:45~8:55 ミーティング 休憩	8:45~8:55 ミーティング 休憩
	9:00~12:15 (休憩15分を含む) 講義・演習 教育法規	9:00~12:15 (休憩15分を含む) 講義・演習 カリキュラム・マネジメント	9:00~12:15 (休憩15分を含む) 講義・演習 タイム・マネジメント	9:00~12:15 (休憩15分を含む) 講義・演習 コミュニティ・マネジメント
	清水法律事務所 弁護士 清水 幹裕	東京学芸大学 准教授 末松 裕基	帝京大学 准教授 小入羽 秀敬	香川大学 教授 清國 祐二
	昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩
13:15~16:30 (休憩15分を含む) 講義・演習 学校組織マネジメント 宮城教育大学 教授 本図 愛実	13:15~16:30 (休憩15分を含む) 講義・演習 スタッフ・マネジメント 別府大学 教授 佐藤 敬子	13:15~16:30 (休憩15分を含む) 講義・演習 財務マネジメント 筑波大学 准教授 佐藤 博志	13:15~16:30 (休憩15分を含む) 講義・演習 リスク・マネジメント 塩竈市立第一中学校 校長 身崎 裕司	13:15~16:30 (休憩15分を含む) 講義・演習 メンタルヘルス・マネジメント 早稲田大学 教授 河村 茂雄
休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 学校運営演習①	16:45~17:15 学校運営演習②	16:45~17:15 学校運営演習③	16:45~17:15 学校運営演習④
2月9日(日)	2月10日(月)	2月12日(水)	2月13日(木)	2月14日(金)
8:45~9:00 ミーティング 休憩	8:45~9:00 ミーティング 休憩	8:45~9:00 ミーティング 休憩	8:45~9:00 ユニットミーティング 休憩	8:45~9:00 ミーティング 休憩
9:00~12:15 (休憩15分を含む) 講義・演習 生徒指導の推進 日本大学 教授 藤平 敦	9:00~12:15 (休憩15分を含む) 講義・演習 学校ビジョンの構築 兵庫教育大学 教授 浅野 良一	9:00~12:15 (休憩15分を含む) 講義・演習 道德教育の推進 大阪教育大学 名誉教授 藤永 芳純	9:15~11:40 (休憩:15分×1回を含む) 演習・協議 スクール・コンプライアンス	9:00~12:15 協議・演習・発表 校内研修プログラムの開発
昼休憩	昼休憩	昼休憩・準備	昼休憩・準備	12:20~12:30
13:15~16:30 (休憩15分を含む) 講義・演習 インクルーシブ教育の推進 FR教育臨床研究所 所長 花輪 敏男	13:15~16:30 (休憩15分を含む) 講義・演習 学校ビジョンの構築 兵庫教育大学 教授 浅野 良一	13:30~17:15 (休憩:15分×2回を含む) 演習・協議 スクール・コンプライアンス	13:00~16:45 (休憩:15分×2回を含む) 演習・協議 スクール・コンプライアンス	閉講式
休憩	休憩			
16:45~17:15 学校運営演習⑤	16:45~17:15 学校運営演習⑥		17:00~17:15 ミーティング	



## I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第1回中堅教員研修【第445回】							
担当グループ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研修目的	管理職の視点を持ち、マネジメントが浸透した学校とするために必要な力量を習得し、各地域の中核となる中堅教員を育成する。							
受講対象	小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の教諭・主幹教諭・指導教諭等で、今後、各地域の中核としての活躍が期待される者のうち、教職経験が概ね10～20年の者（大臣指針で示された「第二ステージ（充実・円熟期）」の成長段階を想定） ※主として高等学校・特別支援学校							
開催期日	令和元年5月20日（月）～令和元年5月31日（金）			10日間				
受講人数	標準定員 (計画人数)	80	人	受講者数	75	人	参加率	93.8%
開催場所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）							

※ 中央研修全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,880 人、参加率 110.6%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	70	4	0	0	0	1	75
割合 (%)	94.6	5.4	0.0	0.0	0.0	1.3	
	74	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の都道府県の現状を聞き、知る良い機会であった。</li> <li>・各分野で活躍されている第一線の講師による講義を受けることができた。そのことによって、各内容を深く理解でき、学校に戻って取り組む方向性が見えてきた。</li> <li>・これまであまり意識してこなかった管理職としての視点に立つことによって、今までの自分の立場では見えなかったものが見えたり、考え方や感じ方が変わったりするきっかけとなったから。また、全国の先生方と知り合えたことも、大変有意義であった。</li> <li>・質疑応答の時間もほしい（5分でも）。</li> <li>・マネジメント力がこれからの時代も、私たちの世代にも大事なことは十分わかるが、学校組織、カリキュラム、コミュニティ、スタッフと共通している曖昧な部分がしこりとして残っている。区別や区切りできないものがあると思うが、講義の中で、あまりにも同じ論点の繰り返しになってしまうのは、もったいないと思う。</li> <li>・タイム・マネジメントについては、講師の先生の専門分野ではなかったように見えた。できれば、民間で活躍している人や、効率化を専門に研究されている方に、具体的なタイム・マネジメントや効率化の話を知りたい。</li> <li>・学校安全管理については、判例を交えながら、必ずやるべき。</li> <li>・せっかく県から推薦を受けて来たのだから、一日を振り返って、今日学んだことをしっかりと復習できる時間がもう少し欲しかった。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミドルリーダーの視点からスクールリーダーの視点へ移行し、自校をよりよい学校にリードするための研修体系を構築した。具体的には「スクールマネジメント」「学校改善」「実践開発」という3領域に講座を整理した。</li> <li>・スクール・コンプライアンスについては、受講者が見通しを持った上で、効率的に実施するために、運営方法等を見直した。具体的にはスクール・コンプライアンスの内容や運営方法に課題が多かったため、問題数や協議をする際の人数等を改善した。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクール・コンプライアンスの内容について、地域間の情報交換や文部科学省講師との質疑・応答等の時間を新たに加え、より充実するよう改善する。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

令和元年度 教職員等中央研修 第1回中堅教員研修

5月20日(月)	5月21日(火)	5月22日(水)	5月23日(木)	5月24日(金)
	8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング
	休憩	休憩	休憩	休憩
9:00~9:45 受付	9:00~12:15 (休憩15分を含む)  講義・演習 教育法規  日本女子大学 教授 坂田 仰	9:00~12:15 (休憩15分を含む)  講義・演習 タイム・マネジメント  日本大学 教授 佐藤 晴雄	9:00~12:15 (休憩15分を含む)  講義・演習 コミュニティ・マネジメント  島根大学 准教授 中村 怜詞	9:00~12:15 (休憩15分を含む)  講義・演習 新しい学びの推進  信州大学 教授 伏木 久始
9:45~10:15 オリエンテーション				
10:15~10:30 開講式				
休憩				
10:45~12:15 講義 教育政策の諸動向 文部科学省	日本女子大学 教授 坂田 仰	日本大学 教授 佐藤 晴雄	島根大学 准教授 中村 怜詞	信州大学 教授 伏木 久始
昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩
13:15~16:30 (休憩15分を含む)  講義・演習 学校組織マネジメント  九州大学 教授 元兼 正浩	13:15~16:30 (休憩15分を含む)  講義・演習 カリキュラム・マネジメント  大阪教育大学 教授 田村 知子	13:15~16:30 (休憩15分を含む)  講義・演習 生徒指導の推進  鹿児島国際大学 教授 大坪 治彦	13:15~16:30 (休憩15分を含む)  講義・演習 リスク・マネジメント  宮城教育大学 准教授 小田 隆史	13:15~16:30 (休憩15分を含む)  講義・演習 道徳教育の推進  兵庫教育大学 教授 谷田 増幸
休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 学校運営演習①	16:45~17:15 学校運営演習②	16:45~17:15 学校運営演習③	16:45~17:15 学校運営演習④
5月27日(月)	5月28日(火)	5月29日(水)	5月30日(木)	5月31日(金)
8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング	8:45~9:00 ユニットミーティング	8:45~8:55 ミーティング
休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
9:00~12:15 (休憩15分を含む)  講義・演習 学校ビジョンの構築  愛媛大学 教授 露口 健司	9:00~12:15 (休憩15分を含む)  講義・演習 インクルーシブ教育の推進  新潟大学 教授 長澤 正樹	9:00~12:15 (休憩15分を含む)  講義・演習 スタッフ・マネジメント  神田外語大学 客員教授 嶋崎 政男	9:15~11:40 (休憩:15分×1回を含む)  協議・演習 スクール・コンプライアンス	9:00~12:15 (休憩15分を含む)  講義・演習 校内研修プログラムの開発
昼休憩	昼休憩	昼休憩・準備	昼休憩・準備	12:20~12:30 閉講式
13:15~16:30 (休憩15分を含む)  講義・演習 学校ビジョンの構築  愛媛大学 教授 露口 健司	13:15~16:30 (休憩15分を含む)  講義・演習 メンタルヘルス・マネジメント  明治大学 教授 諸富 祥彦	13:30~17:15 (休憩:15分×2回を含む)  演習・協議 スクール・コンプライアンス	13:00~16:40 (休憩:15分×2回を含む)  演習・協議 スクール・コンプライアンス	
休憩	休憩			
16:45~17:15 学校運営演習⑤	16:45~17:15 学校運営演習⑥		17:00~17:15 ミーティング	

## I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第2回中堅教員研修【第450回】								
担当グループ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室								
研修目的	管理職の視点を持ち、マネジメントが浸透した学校とするために必要な力量を習得し、各地域の中核となる中堅教員を育成する。								
受講対象	小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の教諭・主幹教諭・指導教諭等で、今後、各地域の中核としての活躍が期待される者のうち、教職経験が概ね10～20年の者（大臣指針で示された「第二ステージ（充実・円熟期）」の成長段階を想定） ※主として小学校								
開催期日	令和元年7月22日（月）～令和元年8月2日（金）			10日間					
受講人数	標準定員 (計画人数)	200	人	受講者数	227	人	参加率	113.5%	
開催場所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）								

※ 中央研修全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,880 人、参加率 110.6%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	202	25	0	0	0	0	227
割合 (%)	89.0	11.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	227						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・今学校で直面している問題や今後の動向を知ることができたので、とても有意義であった。</li> <li>・専門的なお話や現在の教育に関する最新の情報などが聞けてよかった。具体的な取組や方策についても考えることができてよかった。</li> <li>・演習が入っている研修は自分の中でも考えを整理することができ、見通しを持つことができた。講義のみではなく、やはり演習が入っているとよい。</li> <li>・今後、中堅教員として求められることやこれからの教育の在り方など、興味関心の高まる内容が多く、学ぶことが楽しかったです。また、今、教育現場で直面する課題についても理解を深めることができました。</li> <li>・清水先生のお話は違う職種から教育現場を見た内容で、とても良かった。</li> <li>・スクールコンプライアンスについて学ぶ良い機会になった。文科省の方に直接聞くことができ、法律の裏にあるものや、活用の仕方についても知ったり考えたりすることができた。</li> <li>・研修の中には、重複するものがあったり、講義テーマと合っていないものもあったように思う。</li> <li>・講義内容に対して日程や時間が短いせいか、各講義の後半が急ぎ足で頭がついていかない講義もあったことが残念です。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミドルリーダーの視点からスクールリーダーの視点へ移行し、自校をよりよい学校にリードするための研修体系を構築した。具体的には「スクールマネジメント」「学校改善」「実践開発」という3領域に講座を整理した。</li> <li>・スクール・コンプライアンスについては、受講者が見通しを持った上で、効率的に実施するために、運営方法等を見直した。具体的にはスクール・コンプライアンスの内容や運営方法に課題が多かったため、問題数や協議をする際の人数等を改善した。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクール・コンプライアンスの内容について、地域間の情報交換や文部科学省講師との質疑・応答等の時間を新たに加え、より充実するよう改善する。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

令和元年度 教職員等中央研修 第2回中堅教員研修

7月22日(月)	7月23日(火)	7月24日(水)	7月25日(木)	7月26日(金)	
<div style="text-align: center;">  </div>	8:45～8:55 ミーティング	8:45～8:55 ミーティング	8:45～8:55 ミーティング	8:45～8:55 ミーティング	
	休憩	休憩	休憩	休憩	
	9:00～9:45 受付	9:00～12:15 (休憩15分を含む)	9:00～12:15 (休憩15分を含む)	9:00～12:15 (休憩15分を含む)	9:00～12:15 (休憩15分を含む)
	9:45～10:15 オリエンテーション	講義・演習 教育法規	講義・演習 コミュニティ・マネジメント	講義・演習 タイム・マネジメント	講義・演習 新しい学びの推進
	10:15～10:30 開講式				
10:45～12:15 講義 教育政策の諸動向 文部科学省	清水弁護士事務所 弁護士 清水 幹裕	島根大学 准教授 中村 怜詞	明星大学 常勤講師 神林 寿幸	信州大学 教授 伏木 久始	
昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩	
13:15～16:30 (休憩15分を含む)	13:15～16:30 (休憩15分を含む)	13:15～16:30 (休憩15分を含む)	13:15～16:30 (休憩15分を含む)	13:15～16:30 (休憩15分を含む)	
講義・演習 学校組織マネジメント  広島大学 教授 曾余田 浩史	講義・演習 カリキュラム・マネジメント  明星大学 教授 吉富 芳正	講義・演習 メンタルヘルス・マネジメント  明治大学 教授 諸富 祥彦	講義・演習 リスク・マネジメント  大阪市立大学 准教授 辻野 けんま	講義・演習 道徳教育の推進  兵庫教育大学 教授 谷田 増幸	
休憩	休憩	休憩	休憩	休憩	
16:45～17:15 ユニットミーティング	16:45～17:15 学校運営演習①	16:45～17:15 学校運営演習②	16:45～17:15 学校運営演習③	16:45～17:15 学校運営演習④	
7月29日(月)	7月30日(火)	7月31日(水)	8月1日(木)	8月2日(金)	
8:45～8:55 ミーティング	8:45～8:55 ミーティング	8:45～8:55 ミーティング	8:45～9:00 ユニットミーティング	8:45～8:55 ミーティング	
休憩	休憩	休憩	休憩	休憩	
9:00～12:15 (休憩15分を含む)	9:00～12:15 (休憩15分を含む)	9:00～12:15 (休憩15分を含む)		9:15～11:40 (休憩:15分×1回を含む)	9:00～12:15 (休憩15分を含む)
講義・演習 生徒指導の推進  愛媛大学 名誉教授 平松 義樹	講義・演習 学校ビジョンの構築  茨城大学 教授 加藤 崇英	講義・演習 スタッフ・マネジメント  東京聖栄大学 教授 有村 久春	協議・演習 スクール・コンプライアンス	講義・演習 校内研修プログラムの開発	
昼休憩	昼休憩	昼休憩・準備	昼休憩・準備	12:20～12:30 閉講式	
13:15～16:30 (休憩15分を含む)	13:15～16:30 (休憩15分を含む)	13:30～17:15 (休憩:15分×2回を含む)	13:00～16:45 (休憩:15分×2回を含む)		
講義・演習 インクルーシブ教育の推進  新潟大学 教授 長澤 正樹	講義・演習 学校ビジョンの構築  茨城大学 教授 加藤 崇英	演習・協議 スクール・コンプライアンス	演習・協議 スクール・コンプライアンス		
休憩	休憩				
16:45～17:15 学校運営演習⑤	16:45～17:15 学校運営演習⑥		17:00～17:15 ミーティング		

## I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第3回中堅教員研修【第453回】								
担 当 課 グ ル ー プ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室								
研 修 目 的	管理職の視点を持ち、マネジメントが浸透した学校とするために必要な力量を習得し、各地域の中核となる中堅教員を育成する。								
受 講 対 象	小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の教諭・主幹教諭・指導教諭等で、今後、各地域の中核としての活躍が期待される者のうち、教職経験が概ね10～20年の者（大臣指針で示された「第二ステージ（充実・円熟期）」の成長段階を想定） ※主として中学校								
開 催 期 日	令和元年8月13日（火）～令和元年8月23日（金）			10日間					
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	180	人	受講者数	173	人	参加率	96.1%	
開 催 場 所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）								

※ 中央研修全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,880 人、参加率 110.6%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	156	16	0	0	0	1	173
割合 (%)	90.7	9.3	0.0	0.0	0.0	0.6	
	172						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国の先生方と出会い、情報交換することができ、多くのことが学べた。</li> <li>・最新の教育行政情報を知ることができた。また、これから必要となる知識や考え方を養うことができたことも大きな理由である。</li> <li>・ミドルリーダーとして、何が求められているか、何ができるかといったことを漠然と考えていたが、各論的に整理された講座を受けることで、具体的に捉えることができるようになった。</li> <li>・特にどの講義もレベルが高く、国の中心であり、また、国の先頭を走っている教授先生方の貴重なお話を聴くことができた。</li> <li>・最新の教育施策や動向について学習することができてよかった。特にミドルリーダーの役割について考えさせる内容ばかりで、充実していた。</li> <li>・学校組織やメンタルヘルスのマネジメントなど、学校ですぐに役立てるような研修が多く、とてもためになりました。</li> <li>・自校に戻って事後研修のために、講義のスライド資料をすべて頂けると、更に理解が深まると考えたので、今後検討していただけたとありがたいと思いました。</li> <li>・ワークショップ型の研修をもう少し増やすと良いと思います。講義は似た内容もあったので、担当の先生同士の調整がうまくできると時間を有効に活用できると思います。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミドルリーダーの視点からスクールリーダーの視点へ移行し、自校をよりよい学校にリードするための研修体系を構築した。具体的には「スクールマネジメント」「学校改善」「実践開発」という3領域に講座を整理した。</li> <li>・スクール・コンプライアンスについては、受講者が見通しを持った上で、効率的に実施するために、運営方法等を見直した。具体的にはスクール・コンプライアンスの内容や運営方法に課題が多かったため、問題数や協議をする際の人数等を改善した。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクール・コンプライアンスの内容について、地域間の情報交換や文部科学省講師との質疑・応答等の時間を新たに加え、より充実するよう改善する。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

令和元年度 教職員等中央研修 第3回中堅教員研修

8月13日(火)	8月14日(水)	8月15日(木)	8月16日(金)	8月17日(土)
9:00~9:45 受付 9:45~10:15 オリエンテーション 10:15~10:30 開講式 休憩 10:45~12:15 講義 教育政策の諸動向 文部科学省	8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング
	休憩	休憩	休憩	休憩
	9:00~12:15 (休憩15分を含む)	9:00~12:15 (休憩15分を含む)	9:00~12:15 (休憩15分を含む)	9:00~12:15 (休憩15分を含む)
	講義・演習 教育法規	講義・演習 タイム・マネジメント	講義・演習 新しい学びの推進	講義・演習 リスク・マネジメント
	日本女子大学 教授 坂田 仰	帝京大学 准教授 小入羽 秀敬	國學院大學 教授 田村 学	宮城教育大学 准教授 小田 隆史
昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩
13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:15~16:30 (休憩15分を含む)
講義・演習 学校組織マネジメント	講義・演習 カリキュラム・マネジメント	講義・演習 メンタルヘルス・マネジメント	講義・演習 コミュニティ・マネジメント	講義・演習 道德教育の推進
九州大学 教授 元兼 正浩	甲南女子大学 教授 村川 雅弘	明治大学 教授 諸富 祥彦	島根大学 准教授 中村 怜詞	畿央大学 教授 島 恒生
休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 学校運営演習①	16:45~17:15 学校運営演習②	16:45~17:15 学校運営演習③	16:45~17:15 学校運営演習④
8月19日(月)	8月20日(火)	8月21日(水)	8月22日(木)	8月23日(金)
8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング	8:45~9:00 ユニットミーティング	8:45~8:55 ミーティング
休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
9:00~12:15 (休憩15分を含む)	9:00~12:15 (休憩15分を含む)	9:00~12:15 (休憩15分を含む)	9:15~11:40 (休憩:15分×1回を含む)	9:00~12:15 (休憩15分を含む)
講義・演習 生徒指導の推進	講義・演習 学校ビジョンの構築	講義・演習 スタッフ・マネジメント	協議・演習 スクール・コンプライアンス	講義・演習 校内研修プログラムの開発
愛媛大学 名誉教授 平松 義樹	宮城教育大学 教授 本図 愛実	東京聖栄大学 教授 有村 久春		
昼休憩	昼休憩	昼休憩・準備	昼休憩・準備	12:20~12:30 閉講式
13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:15~16:30 (休憩15分を含む)	13:30~17:15 (休憩:15分×2回を含む)	13:00~16:45 (休憩:15分×2回を含む)	
講義・演習 インクルーシブ教育の推進	講義・演習 学校ビジョンの構築	演習・協議 スクール・コンプライアンス	演習・協議 スクール・コンプライアンス	
新潟大学 教授 長澤 正樹	宮城教育大学 教授 本図 愛実			
休憩	休憩			
16:45~17:15 学校運営演習⑤	16:45~17:15 学校運営演習⑥		17:00~17:15 ミーティング	

## I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第4回中堅教員研修【第459回】							
担当グループ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研修目的	管理職の視点を持ち、マネジメントが浸透した学校とするために必要な力量を習得し、各地域の中核となる中堅教員を育成する。							
受講対象	小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の教諭・主幹教諭・指導教諭等で、今後、各地域の中核としての活躍が期待される者のうち、教職経験が概ね10～20年の者（大臣指針で示された「第二ステージ（充実・円熟期）」の成長段階を想定）							
開催期日	令和元年11月18日（月）～令和元年11月29日（金）			10日間				
受講人数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	160	人	参加率	160.0%
開催場所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）							

※ 中央研修全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,880 人、参加率 110.6%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	145	11	0	0	0	4	160
割合 (%)	92.9	7.1	0.0	0.0	0.0	2.5	
	156						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国から来られている先生からたくさんの情報を共有でき、教員として頑張っていこうという意欲がわきました。また、講義でもたくさんの知識を得ることができました。</li> <li>・全国的に有名な講師の先生方より、近年の情報等を教えていただいた。</li> <li>・最新の教育の課題について再認識したり、専門家の意見や考えを知ることができた。</li> <li>・今まで考えたことのない視点で考えることができた。今後の自分の立場を考えるようになった。</li> <li>・「集中して学ぶ場」「学校の勤務を離れて学ぶ」という点で良かった。</li> <li>・様々な内容のことを学べたし、現場に戻って生かせること、活用できることが見つかった。また、様々な地域の方と交流でき、これまで当たり前だと思っていたことが当たり前でないことに気づけた。</li> <li>・どの講義においても現在・未来の学校教育がどのように向かっていけばよいか、各学校がどのように学校改革を進めていけばよいか。また、教師が目指す姿について学ばせていただきました。講師の先生方が現場の教員についてよく理解して下さった上で指導頂いたので、とても理解しやすく、心に染みるありがたいものでした。</li> <li>・マネジメントについて、リーガルマインドを持つこと、インクルーシブ教育、カリキュラム・マネジメント、新しい学び方など、時代に合った学校運営や授業改善など、学ぶことができました。現場で行っていることについて、改めて裏づけることができたこと、新たな課題が発見できたことです。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミドルリーダーの視点からスクールリーダーの視点へ移行し、自校をよりよい学校にリードするための研修体系を構築した。具体的には「スクールマネジメント」「学校改善」「実践開発」という3領域に講座を整理した。</li> <li>・スクール・コンプライアンスについては、受講者が見通しを持った上で、効率的に実施するために、運営方法等を見直した。具体的にはスクール・コンプライアンスの内容や運営方法に課題が多かったため、問題数や協議をする際の人数等を改善した。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクール・コンプライアンスの内容について、地域間の情報交換や文部科学省講師との質疑・応答等の時間を新たに加え、より充実するよう改善する。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

令和元年度 教職員等中央研修 第4回中堅教員研修

11月18日(月)	11月19日(火)	11月20日(水)	11月21日(木)	11月22日(金)
	8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング
	休憩	休憩	休憩	休憩
9:00~9:45 受付	9:00~12:15 (休憩15分を含む)  講義・演習 教育法規  日本女子大学 教授 坂田 仰	9:00~12:15 (休憩15分を含む)  講義・演習 タイム・マネジメント  愛媛大学 教授 露口 健司	9:00~12:15 (休憩15分を含む)  講義・演習 コミュニティ・マネジメント  島根大学 准教授 中村 怜詞	9:00~12:15 (休憩15分を含む)  講義・演習 インクルーシブ教育の推進  新潟大学 教授 長澤 正樹
9:45~10:15 オリエンテーション				
10:15~10:30 開講式				
休憩				
10:45~12:15 講義 教育政策の諸動向 文部科学省				
昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩
13:15~16:30 (休憩15分を含む)  講義・演習 学校組織マネジメント  広島大学 教授 曾余田 浩史	13:15~16:30 (休憩15分を含む)  講義・演習 カリキュラム・マネジメント  甲南女子大学 教授 村川 雅弘	13:15~16:30 (休憩15分を含む)  講義・演習 メンタルヘルス・マネジメント  明治大学 教授 諸富 祥彦	13:15~16:30 (休憩15分を含む)  講義・演習 リスク・マネジメント  大阪市立大学 准教授 辻野 けんま	13:15~16:30 (休憩15分を含む)  講義・演習 道徳教育の推進 京都産業大学 教授 柴原 弘志 國學院大學 教授 澤田 浩一
休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 学校運営演習①	16:45~17:15 学校運営演習②	16:45~17:15 学校運営演習③	16:45~17:15 学校運営演習④
11月25日(月)	11月26日(火)	11月27日(水)	11月28日(木)	11月29日(金)
8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング	8:45~9:00 ユニットミーティング	8:45~8:55 ミーティング
休憩	休憩	休憩		休憩
9:00~12:15 (休憩15分を含む)  講義・演習 生徒指導の推進  愛媛大学 名誉教授 平松 義樹	9:00~12:15 (休憩15分を含む)  講義・演習 学校ビジョンの構築  茨城大学 教授 加藤 崇英	9:00~12:15 (休憩15分を含む)  講義・演習 スタッフ・マネジメント  東京聖栄大学 教授 有村 久春	休憩  9:15~11:40 (休憩:15分×1回を含む)  協議・演習 スクール・コンプライアンス	9:00~12:15 (休憩15分を含む)  講義・演習 校内研修プログラムの開発
昼休憩	昼休憩	昼休憩・準備	昼休憩・準備	12:20~12:30 閉講式
13:15~16:30 (休憩15分を含む)  講義・演習 新しい学びの推進  岡山大学 教授 高旗 浩志	13:15~16:30 (休憩15分を含む)  講義・演習 学校ビジョンの構築  茨城大学 教授 加藤 崇英	13:30~17:15 (休憩:15分×2回を含む)  演習・協議 スクール・コンプライアンス	13:00~16:45 (休憩:15分×2回を含む)  演習・協議 スクール・コンプライアンス	
休憩	休憩			
16:45~17:15 学校運営演習⑤	16:45~17:15 学校運営演習⑥		17:00~17:15 ミーティング	



## I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第5回中堅教員研修【第460回】								
担当グループ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室								
研修目的	管理職の視点を持ち、マネジメントが浸透した学校とするために必要な力量を習得し、各地域の中核となる中堅教員を育成する。								
受講対象	小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の教諭・主幹教諭・指導教諭等で、今後、各地域の中核としての活躍が期待される者のうち、教職経験が概ね10～20年の者（大臣指針で示された「第二ステージ（充実・円熟期）」の成長段階を想定）								
開催期日	令和2年1月14日（火）～令和2年1月24日（金）			10日間					
受講人数	標準定員 (計画人数)	60	人	受講者数	71	人	参加率	118.3%	
開催場所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）								

※ 中央研修全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,880 人、参加率 110.6%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	65	6	0	0	0	0	71
割合 (%)	91.5	8.5	0.0	0.0	0.0	0.0	
	71	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国の先生方と意見交流やグループ討議等で情報交換や共有できたことは、今後の教員生活で必ず役立つものであった。</li> <li>・全国で有数の講師陣から最新の情報を得ることができたから、大変有意義だった。</li> <li>・各分野の第一線で活躍されている講師の方から講義を受けることができた。</li> <li>・各講義内容が今の教育的課題と合致しており、知りたい内容ばかりであった。また、演習等も多数あり、現場に戻ってすぐに使えるものばかりであった。さらに専門的用語や理論などもよく理解できた。</li> <li>・今（今後）、自身が必要としており、また課題としている内容であったので、非常に参考になりました。戻ったらすぐに活かしていきたいと思います。</li> <li>・講義の内容で質問したいことがあったり、自校の取組について意見をいただけるような時間が設定してあると良いと思った。</li> <li>・講義内容によっては盛り込まれ過ぎており、理解が深められなかったものもあった（自分の勉強不足）。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミドルリーダーの視点からスクールリーダーの視点へ移行し、自校をよりよい学校にリードするための研修体系を構築した。具体的には「スクールマネジメント」「学校改善」「実践開発」という3領域に講座を整理した。</li> <li>・スクール・コンプライアンスについては、受講者が見通しを持った上で、効率的に実施するために、運営方法等を見直した。具体的にはスクール・コンプライアンスの内容や運営方法に課題が多かったため、問題数や協議をする際の人数等を改善した。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクール・コンプライアンスの内容について、地域間の情報交換や文部科学省講師との質疑・応答等の時間を新たに加え、より充実するよう改善する。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

令和元年度 教職員等中央研修 第5回中堅教員研修

1月14日(火)	1月15日(水)	1月16日(木)	1月17日(金)	1月18日(土)
<p>9:00~9:45 受付</p> <p>9:45~10:15 オリエンテーション</p> <p>10:15~10:30 開講式</p> <p>休憩</p> <p>10:45~12:15 講義 教育政策の諸動向 文部科学省</p>	<p>8:45~8:55 ミーティング</p>	<p>8:45~8:55 ミーティング</p>	<p>8:45~8:55 ミーティング</p>	<p>8:45~8:55 ミーティング</p>
	<p>9:00~12:15 (休憩15分を含む)</p>	<p>9:00~12:15 (休憩15分を含む)</p>	<p>9:00~12:15 (休憩15分を含む)</p>	<p>9:00~12:15 (休憩15分を含む)</p>
	<p>講義・演習 教育法規</p>	<p>講義・演習 タイム・マネジメント</p>	<p>講義・演習 コミュニティ・マネジメント</p>	<p>講義・演習 新しい学びの推進</p>
	<p>日本女子大学 教授 坂田 仰</p>	<p>帝京大学 准教授 小入羽 秀敬</p>	<p>島根大学 准教授 中村 怜詞</p>	<p>岡山大学 教授 高旗 浩志</p>
	<p>昼休憩</p>	<p>昼休憩</p>	<p>昼休憩</p>	<p>昼休憩</p>
<p>13:15~16:30 (休憩15分を含む)</p> <p>講義・演習 学校組織マネジメント</p> <p>茨城大学 教授 加藤 崇英</p>	<p>13:15~16:30 (休憩15分を含む)</p> <p>講義・演習 カリキュラム・マネジメント</p> <p>甲南女子大学 教授 村川 雅弘</p>	<p>13:15~16:30 (休憩15分を含む)</p> <p>講義・演習 メンタルヘルス・マネジメント</p> <p>明治大学 教授 諸富 祥彦</p>	<p>13:15~16:30 (休憩15分を含む)</p> <p>講義・演習 リスク・マネジメント</p> <p>淑徳大学 教授 黒川 雅子</p>	<p>13:15~16:30 (休憩15分を含む)</p> <p>講義・演習 道德教育の推進</p> <p>畿央大学 教授 島 恒生</p> <p>文部科学省初等中等教育局 教科調査官 飯塚 秀彦</p>
<p>休憩</p>	<p>休憩</p>	<p>休憩</p>	<p>休憩</p>	<p>休憩</p>
<p>16:45~17:15 ユニットミーティング</p>	<p>16:45~17:15 学校運営演習①</p>	<p>16:45~17:15 学校運営演習②</p>	<p>16:45~17:15 学校運営演習③</p>	<p>16:45~17:15 学校運営演習④</p>
1月20日(月)	1月21日(火)	1月22日(水)	1月23日(木)	1月24日(金)
<p>8:45~8:55 ミーティング</p>	<p>8:45~8:55 ミーティング</p>	<p>8:45~8:55 ミーティング</p>	<p>8:45~9:00 ユニットミーティング</p>	<p>8:45~8:55 ミーティング</p>
<p>休憩</p>	<p>休憩</p>	<p>休憩</p>	<p>休憩</p>	<p>休憩</p>
<p>9:00~12:15 (休憩15分を含む)</p> <p>講義・演習 生徒指導の推進</p> <p>愛媛大学 名誉教授 平松 義樹</p>	<p>9:00~12:15 (休憩15分を含む)</p> <p>講義・演習 学校ビジョンの構築</p> <p>滋賀大学 教授 大野 裕己</p>	<p>9:00~12:15 (休憩15分を含む)</p> <p>講義・演習 スタッフ・マネジメント</p> <p>東京聖栄大学 教授 有村 久春</p>	<p>9:15~11:40 (休憩:15分×1回を含む)</p> <p>協議・演習 スクール・コンプライアンス</p>	<p>9:00~12:15 (休憩15分を含む)</p> <p>講義・演習 校内研修プログラムの開発</p>
<p>昼休憩</p>	<p>昼休憩</p>	<p>昼休憩・準備</p>	<p>昼休憩・準備</p>	<p>12:20~12:30 閉講式</p>
<p>13:15~16:30 (休憩15分を含む)</p> <p>講義・演習 インクルーシブ教育の推進</p> <p>新潟大学 教授 長澤 正樹</p>	<p>13:15~16:30 (休憩15分を含む)</p> <p>講義・演習 学校ビジョンの構築</p> <p>滋賀大学 教授 大野 裕己</p>	<p>13:30~17:15 (休憩:15分×2回を含む)</p> <p>演習・協議 スクール・コンプライアンス</p>	<p>13:00~16:45 (休憩:15分×2回を含む)</p> <p>演習・協議 スクール・コンプライアンス</p>	
<p>休憩</p>	<p>休憩</p>			
<p>16:45~17:15 学校運営演習⑤</p>	<p>16:45~17:15 学校運営演習⑥</p>		<p>17:00~17:15 ミーティング</p>	

## I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第1回次世代リーダー育成研修【第452回】							
担 当 課 グ ル ー プ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研 修 目 的	教員ステージからスクールリーダーステージへ移行するために必要な力量を習得し、各地域の中核となる次世代リーダーを育成する。							
受 講 対 象	小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の教諭・主幹教諭・指導教諭等で、今後、各地域の中核としての活躍が期待される者のうち、教職経験が概ね10年前後の者（30代の若手教員を想定）							
開 催 期 日	令和元年8月5日（月）～令和元年8月9日（金）					5日間		
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	80	人	受講者数	131	人	参加率	163.8%
開 催 場 所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）							

※ 中央研修全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,880 人、参加率 110.6%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	123	8	0	0	0	0	131
割合 (%)	93.9	6.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
	131						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国から中堅の先生方が集まり、交流することはあまりない機会だった。その中で多くの協議や交流ができたことは大変貴重な機会となった。今までは自分の教科や役職の視点で考えることが多かったが、5日間の講義を通して様々な視点で考えることができた。</li> <li>・学校という組織をより俯瞰的に見るための視点を多く学ぶことができた。また、組織の力というものを、これまでよりも強く感じる事が出来た。</li> <li>・自校の取組やこれまでの経験を理論的に整理し、再検討（評価）することができた。</li> <li>・広いところ（組織など）から具体的に迫っていくような内容構成だったので、視野を広げ、そこに新しい視点が入っていくような感じがして、とても良かった。</li> <li>・研修の内容自体は充実していて良かったが、内容によっては納得できるものももちろんあるけれど疑問に思うものもあったので、講義後に振り返りをする時間や整理をする時間をもう少し確保してほしい。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度よりユニット数（標準定員数）を増とし、早期ミドルリーダー育成のニーズに対応した。</li> <li>・対象となる教職経験概ね10年前後の教諭は、日々の教育実践をより効果的に推進することが求められることを踏まえ、「道徳教育」「生徒指導」「インクルーシブ教育」に関する講座を新設した。</li> </ul> <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協議時間（ミーティング等）の時間不足を感じた受講者が多かったため、テーマを精選する・協議時間をより多く取る等、協議の持ち方について再検討する。</li> <li>・都道府県、指定都市教育委員会の研修でも十分取り組まれていると考えられる内容については、講座を精選し、リーダー育成に特化した内容に改善を図る。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

## 令和元年度 教職員等中央研修【第1回次世代リーダー育成研修】

8月5日(月)	8月6日(火)	8月7日(水)	8月8日(木)	8月9日(金)
8月5日(月)	8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング
	休憩	休憩	休憩	休憩
9:00~9:45 受付	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)
9:45~10:15 オリエンテーション	講義・演習・協議 カリキュラム・マネジメント	講義・演習・協議 生徒指導の推進	講義・演習・協議 道徳教育の推進	講義・演習・協議 インクルーシブ教育の推進
10:15~10:30 開講式	筑波大学	関西外国語大学	畿央大学	FR教育臨床研究所
休憩	教授 根津 朋実	教授 新井 肇	教授 島 恒生	所長 花輪 敏男
10:45~12:15 教育政策の諸動向 文部科学省				
12:15~13:15 昼休憩	12:15~13:15 昼休憩	12:15~13:15 昼休憩	12:15~13:15 昼休憩	12:15~13:15 昼休憩
13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義・演習・協議 学校組織マネジメント	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義・演習・協議 学校ビジョンの構築	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義・演習・協議 新しい学びの推進	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義・演習・協議 リスク・マネジメント	13:15~14:45 講義・演習・協議 校内研修プログラムの開発
群馬大学 准教授 高橋 望	愛媛大学 教授 露口 健司	早稲田大学 教授 藤井 千春	福岡教育大学 准教授 河内 祥子	休憩
				15:00~15:15 閉講式
休憩	休憩	休憩	休憩	
16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 ユニットミーティング (リフレクションを含む)	16:45~17:15 ユニットミーティング (リフレクションを含む)	16:45~17:15 ユニットミーティング (リフレクションを含む)	

## I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第2回次世代リーダー育成研修【第454回】							
担 当 課 グ ル ー プ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研 修 目 的	教員ステージからスクールリーダーステージへ移行するために必要な力量を習得し、各地域の中核となる次世代リーダーを育成する。							
受 講 対 象	小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の教諭・主幹教諭・指導教諭等で、今後、各地域の中核としての活躍が期待される者のうち、教職経験が概ね10年前後の者（30代の若手教員を想定）							
開 催 期 日	令和元年8月26日（月）～令和元年8月30日（金）			5日間				
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	80	人	受講者数	56	人	参加率	70.0%
開 催 場 所	独立行政法人教職員支援機構つくば中央研修センター（茨城県つくば市）							

※ 中央研修全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,880 人、参加率 110.6%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	56	0	0	0	0	0	56
割合 (%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	56	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・全国各地からの様々な校種の先生方と刺激の多い意見交換ができた。グループワークも有意義だった。  
 ・最新の教育情報を学ぶことができ、講義を通してミドルリーダーとしての心構えを学べた。あやふやに理解していた点と点が、少しずつ線・面として広がりをもてた。  
 ・講義・演習が組み込まれていたもので、知識だけでなく実践できる内容が多くて嬉しかったです。  
 ・どの講座も、その道の専門家（第一人者）が熱心に講義してくださり、知識の部分だけでなく、覚悟や情熱という点においても非常に刺激を受け、また頑張りたい！と胸が高まった。  
 ・講義だけでなくグループワーク形式もあったので、校内研修等で活用できる内容であったと感じました。また、違う校種の先生方とのグループワーク活動では、同じ校種では気づかない、多面的・多角的な視点があるということがわかったので、私自身、今回の研修は大変深い学びになったと思います。  
 ・今の自分自身の立場で悩んでいる点が少しずつ明確になってきたこと、自身の授業づくりや生徒・教員との関わり方などだけでなく、学校や市に持ち帰ることができるような研修内容が多かった。  
 ・講義の中に質疑応答が組み込まれていないことに疑問を感じた。仲間の質問というのは、全体を活性化すると思います。  
 ・研修内容の中には、そのテーマについて、もっと周りの先生方との意見交換がしたかった講義もあった。

## III 研修内容・方法の見直し等

### 前年度を踏まえ

・昨年度よりユニット数（標準定員数）を増とし、早期ミドルリーダー育成のニーズに対応した。  
 ・対象となる教職経験概ね10年前後の教諭は、日々の教育実践をより効果的に推進することが求められることを踏まえ、「道徳教育」「生徒指導」「インクルーシブ教育」に関する講座を新設した。

### 次年度に向けて

・協議時間（ミーティング等）の時間不足を感じた受講者が多かったため、テーマを精選する・協議時間をより多く取る等、協議の持ち方について再検討する。  
 ・都道府県、指定都市教育委員会の研修でも十分取り組まれていると考えられる内容については、講座を精選し、リーダー育成に特化した内容に改善を図る。  
 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

## 令和元年度 教職員等中央研修【第2回次世代リーダー育成研修】

8月26日(月)	8月27日(火)	8月28日(水)	8月29日(木)	8月30日(金)
/	8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング
	休憩	休憩	休憩	休憩
9:00~9:45 受付	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)
9:45~10:15 オリエンテーション	講義・演習・協議 カリキュラム・マネジメント	講義・演習・協議 生徒指導の推進	講義・演習・協議 道徳教育の推進	講義・演習・協議 インクルーシブ教育の推進
10:15~10:30 開講式	筑波大学	関西外国語大学	兵庫教育大学	FR教育臨床研究所
休憩	教授	教授	教授	所長
10:45~12:15 教育政策の諸動向 文部科学省	根津 朋実	新井 肇	谷田 増幸	花輪 敏男
12:15~13:15 昼休憩	12:15~13:15 昼休憩	12:15~13:15 昼休憩	12:15~13:15 昼休憩	12:15~13:15 昼休憩
13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義・演習・協議 学校組織マネジメント	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義・演習・協議 学校ビジョンの構築	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義・演習・協議 新しい学びの推進	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義・演習・協議 リスク・マネジメント	13:15~14:45 講義・演習・協議 校内研修プログラムの開発
国土館大学 教授 北神 正行	群馬大学 准教授 高橋 望	早稲田大学 教授 藤井 千春	福岡教育大学 准教授 河内 祥子	休憩
休憩	休憩	休憩	休憩	15:00~15:15 閉講式
16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 ユニットミーティング (リフレクションを含む)	16:45~17:15 ユニットミーティング (リフレクションを含む)	16:45~17:15 ユニットミーティング (リフレクションを含む)	

## I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第1回事務職員研修【第430回】							
担当グループ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研修目的	校長とともに、学校の改善に即時に対応するため必要な力量を習得し、各地域の中核となる事務職員を育成する。							
受講対象	小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の事務長、学校事務の共同実施におけるリーダー的な役割を担う担当者またはそれに準じる者であって、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者 ※主として小学校							
開催期日	令和元年6月10日（月）～令和元年6月14日（金）					5日間		
受講人数	標準定員 (計画人数)	80	人	受講者数	109	人	参加率	136.3%
開催場所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）							

※ 中央研修全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,880 人、参加率 110.6%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	85	24	0	0	0	0	109
割合 (%)	78.0	22.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	109						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習等、グループ・ユニットなど参加型の部分も多く、参加者の様々な考え方などもお聞きでき話し合えて、有意義な研修を受けさせていただきました。</li> <li>・研修の流れに一貫性があり、系統だっており、必要な知識を効果的に学ぶことができた。</li> <li>・10年後の学校を想像しての学校マネジメントプランの設計は、初めは大変だなと思いましたが、皆で意見を出し合い一つのものを作り上げ、達成感がありよかったです。ただ、計画を作成することの大変さ・プレゼン力の必要性がよくわかりました。</li> <li>・今回、10年後を想像するということがどの研修でも出てきた。今まで、そのようなことを考えて仕事をしたことがなかったのと、とまどいもあったが、いろいろな見方、考え方ができることに気付いた。視点を変えてまた学校での仕事にとりくめようと思う。</li> <li>・10年後の理想の学校を描く演習だが、もう少し具体的な実行プランまで立てられるとよかった。ここは自分たちで判断して、10年後を見据えながらも、1年後までの計画を立ててみるのもよかったかもしれない。</li> <li>・校長とのグループワークをもっと増やすことができると更に良いと思う。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校長研修、事務職員研修を同時期に実施し、一部の内容を合同で行うことにより、事務職員の立場からの学校経営参画について、現場の校長との協議を通じて深めるような内容とした。</li> <li>・昨年度2回開催だったものを校種別（小、中、高・特）に3回開催した。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校長研修と事務職員研修を校種別に同時期に実施し、一部の内容を合同で行う。</li> <li>・教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を効果的に組み合わせるために、カリキュラム・マネジメントの講義を設け、理解を深める。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

## 令和元年度 教職員等中央研修 第1回事務職員研修 日程表

(小学校)

6月10日(月)	6月11日(火)	6月12日(水)	6月13日(木)	6月14日(金)
/	8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング
	休憩	休憩	休憩	休憩
9:00~9:45 ※受付	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)
9:45~10:15 ※オリエンテーション	講義・演習・協議 ※コミュニティ・マネジメント	講義・演習 スタッフ・マネジメント	演習 学校マネジメントプランの設計	演習 ※学校改善プランの設計
10:15~10:30 ※開講式	香川大学 教授 清國 祐二	国立教育政策研究所 総括研究官 藤原 文雄	国立教育政策研究所 総括研究官 藤原 文雄	教職員支援機構 つくば中央研修センター 研修プロデュース室担当
休憩				
10:45~12:15 講義 ※教育政策の諸動向 文部科学省				
12:15~13:15 昼休憩	12:15~13:15 昼休憩	12:15~13:15 昼休憩	12:15~13:15 昼休憩	12:15~13:15 昼休憩
13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義・演習 ※学校組織マネジメント	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義・演習 財務マネジメント	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 演習 学校マネジメントプランの設計	13:15~14:45 講義・演習 ※リスク・マネジメント 鳴門教育大学 教授 阪根 健二	13:15~14:45 講義・演習 ※研修成果の活用 教職員支援機構 次世代教育推進センター長 大杉 昭英
国土館大学 教授 北神 正行	大阪教育大学 特任准教授 田中 真秀	国立教育政策研究所 総括研究官 藤原 文雄	休憩	休憩
			15:00~16:30 講義・演習 ※タイム・マネジメント 教職員支援機構 つくば中央研修センター長 葛上 秀文	15:00~15:15 ※閉講式
休憩	休憩	休憩	休憩	
16:45~17:15 ※ユニットミーティング	16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 ※ユニットミーティング	

※校長研修と合同



## I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第2回事務職員研修【第449回】							
担当グループ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研修目的	校長とともに、学校の改善に即時に対応するため必要な力量を習得し、各地域の中核となる事務職員を育成する。							
受講対象	小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の事務長、学校事務の共同実施におけるリーダー的な役割を担う担当者またはそれに準じる者であって、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者 ※主として中学校							
開催期日	令和元年6月24日（月）～令和元年6月28日（金）			5日間				
受講人数	標準定員 (計画人数)	80	人	受講者数	77	人	参加率	96.3%
開催場所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）							

※ 中央研修全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,880 人、参加率 110.6%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	60	17	0	0	0	0	77
割合 (%)	77.9	22.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
	77	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・最も新しい国の動向や教育についての話を聞くことができとてもよかったです。色々な研修を受けることによって、自分の研修したいことが明確になり、良かったです。</li> <li>・グループで10年後の学校について考え、ポスターにまとめるのは大変な作業だったが、チームで作りあげるという感覚がわかり有意義だった。</li> <li>・校長先生方と一緒に受講させていただいたことで、私たち事務職員の立場でも校長を補佐するメンバーであると、学校を改善するチームの一員であると認識できた。本当に貴重な研修となりました。</li> <li>・今の学校に求められているマネジメントが網羅されていて、幅広い知識の吸収と考え方ができるようになり、大変有意義でした。</li> <li>・どの研修も、意識改革につながるものだった。ここへ参加する前と参加してからの姿が変化しそうなくらい良い体験だった。確実に日々の業務に対する目線が変わると思う。</li> <li>・10年後の学校というテーマを基に、初日から全て繋がっているカリキュラムのため、自分の考え方を整理しやすかったです。</li> <li>・ユニットを組んで問題解決のために話し合う場面が多く、課題の共有、新たな視点、進んでいく勇気などを味わえた。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校長研修、事務職員研修を同時期に実施し、一部の内容を合同で行うことにより、事務職員の立場からの学校経営参画について、現場の校長との協議を通じて深めるような内容とした。</li> <li>・昨年度2回開催だったものを校種別（小、中、高・特）に3回開催した。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校長研修と事務職員研修を校種別に同時期に実施し、一部の内容を合同で行う。</li> <li>・教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を効果的に組み合わせるために、カリキュラム・マネジメントの講義を設け、理解を深める。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

## 令和元年度 教職員等中央研修 第2回事務職員研修 日程表

(中学校)

6月24日(月)	6月25日(火)	6月26日(水)	6月27日(木)	6月28日(金)
/	8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング
	休憩	休憩	休憩	休憩
9:00~9:45 ※受付	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)
9:45~10:15 ※オリエンテーション	講義・演習・協議 ※コミュニティ・マネジメント	講義・演習 スタッフ・マネジメント	演習 学校マネジメントプランの設計	演習 ※学校改善プランの設計
10:15~10:30 ※開講式	香川大学	国立教育政策研究所	国立教育政策研究所	教職員支援機構
休憩	教授	総括研究官	総括研究官	つくば中央研修センター
10:45~12:15 講義 ※教育政策の諸動向 文部科学省	清國 祐二	藤原 文雄	藤原 文雄  全国公立小中学校 事務職員研究会	研修プロデュース室担当
12:15~13:15 昼休憩	12:15~13:15 昼休憩	12:15~13:15 昼休憩	12:15~13:15 昼休憩	12:15~13:15 昼休憩
13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義・演習 ※学校組織マネジメント	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義・演習 財務マネジメント	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 演習 学校マネジメントプランの設計	13:15~14:45 講義・演習 ※リスク・マネジメント 鳴門教育大学 教授 阪根 健二	13:15~14:45 講義・演習 ※研修成果の活用 教職員支援機構 次世代教育推進センター長 大杉 昭英
国土館大学 教授 北神 正行	大阪教育大学 特任准教授 田中 真秀	国立教育政策研究所 総括研究官 藤原 文雄	休憩	休憩
休憩	休憩	休憩	15:00~16:30 講義・演習 ※タイム・マネジメント 教職員支援機構 つくば中央研修センター長 葛上 秀文	15:00~15:15 ※閉講式
16:45~17:15 ※ユニットミーティング	16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 ※ユニットミーティング	

※校長研修と合同

## I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第3回事務職員研修【第457回】							
担当グループ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研修目的	校長とともに、学校の改善に即時に対応するため必要な力量を習得し、各地域の中核となる事務職員を育成する。							
受講対象	小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の事務長、学校事務の共同実施におけるリーダー的な役割を担う担当者またはそれに準じる者であって、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者 ※主として高等学校・特別支援学校							
開催期日	令和元年10月7日（月）～令和元年10月11日（金）			5日間				
受講人数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	111	人	参加率	111.0%
開催場所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）							

※ 中央研修全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,880 人、参加率 110.6%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	86	24	1	0	0	0	111
割合 (%)	77.5	21.6	0.9	0.0	0.0	0.0	
	110						
	99.1						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークが多く取り入れられており、他県の事務長の意見を直接聞いて有意義だった。</li> <li>・今と未来をつなげる作業を重視しているところが良かった。理想を常に意識して、現実のあり様を替えていく。そのためのスキルやマインドはいかにあるべきかを自分自身の裏テーマにしていたので、それに沿う内容で満足です。</li> <li>・ワールドカフェ方式など協働して課題解決を図るため、考え深める研修内容は特に良かった。研修で学んだロジックモデルは、今後活用したい。</li> <li>・バックキャストの考え方を学んだことが良かった。</li> <li>・一部において予習の指示があったが、より多くの単元で求めても良いと思う。より深く掘り下げた講義が可能になると思います。</li> <li>・研修を受ける側の背景（所属が抱える課題）は同じではないことは承知した上で、人材育成の成功例などを聞いてみたかった。</li> <li>・校長先生方と共に考える時間をもっとあれば良かった。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校長研修、事務職員研修を同時期に実施し、一部の内容を合同で行うことにより、事務職員の立場からの学校経営参画について、現場の校長との協議を通じて深めるような内容とした。</li> <li>・昨年度2回開催だったものを校種別（小、中、高・特）に3回開催した。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校長研修と事務職員研修を校種別に同時期に実施し、一部の内容を合同で行う。</li> <li>・教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を効果的に組み合わせるために、カリキュラム・マネジメントの講義を設け、理解を深める。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

## 令和元年度 教職員等中央研修 第3回事務職員研修 日程表

(高校・特別支援)

10月7日(月)	10月8日(火)	10月9日(水)	10月10日(木)	10月11日(金)
/	8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング	8:45~8:55 ミーティング
	休憩	休憩	休憩	休憩
9:00~9:45 ※受付	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)	9:00~12:15 (休憩:15分を含む)
9:45~10:15 ※オリエンテーション	講義・演習・協議 ※コミュニティ・マネジメント	講義・演習 スタッフ・マネジメント	演習 学校マネジメントプランの設計	演習 ※学校改善プランの設計
10:15~10:30 ※開講式	香川大学 教授 清國 祐二	国立教育政策研究所 総括研究官 藤原 文雄	国立教育政策研究所 総括研究官 藤原 文雄  全国公立高等学校 事務職員協会	文部科学省 <small>初等中等教育局参事官(高等教育担当)</small> 室長 安彦 広斉
休憩				滋賀大学教職大学院 教授 大野 裕己
10:45~12:15 講義 ※教育政策の諸動向 文部科学省				
12:15~13:15 昼休憩	12:15~13:15 昼休憩	12:15~13:15 昼休憩	12:15~13:15 昼休憩	12:15~13:15 昼休憩
13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義・演習 ※学校組織マネジメント	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 講義・演習 財務マネジメント	13:15~16:30 (休憩:15分を含む) 演習 学校マネジメントプランの設計	13:15~14:45 講義・演習 ※リスク・マネジメント 高崎経済大学 講師 飯野 眞幸	13:15~14:45 講義・演習 ※研修成果の活用 教職員支援機構 次世代教育推進センター長 大杉 昭英
国土館大学 教授 北神 正行	日本大学 教授 末富 芳	国立教育政策研究所 総括研究官 藤原 文雄  全国公立高等学校 事務職員協会	休憩	休憩
			15:00~16:30 講義・演習 ※タイム・マネジメント 愛媛大学 教授 露口 健司	15:00~15:15 ※閉講式
休憩	休憩	休憩	休憩	
16:45~17:15 ※ユニットミーティング	16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 ユニットミーティング	16:45~17:15 ※ユニットミーティング	

※校長研修と合同

## I 研修概要

研修名	学校組織マネジメント指導者養成研修（第1回）							
担当グループ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研修目的	学校は、校長のリーダーシップの下、カリキュラム、地域との連携、学校の資源等が一体的にマネジメントされ、教職員や学校内外の多様な人材が、それぞれの専門性を生かして能力を発揮する必要がある。本研修では、1) 学校ビジョンの構築、学校教育目標の具現化をマネジメントする専門的知見を活用し、組織的な取組を推進する力、2) 学校、地域の教職員の専門性向上を推進する力、を習得した指導者の養成を図る。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者</li> <li>・幼稚園の園長、副園長、及び小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭、養護教諭等であって、各地域において本研修の内容を踏まえた研修の企画、運営または講師等としての活動を行う予定である者</li> <li>・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生（教職経験のある者に限る）</li> </ul>							
開催期日	令和元年9月2日（月）～令和元年9月6日（金）					5日間		
受講人数	標準定員 (計画人数)	160	人	受講者数	186	人	参加率	116.3%
開催場所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体標準定員 240 人、受講者数 303 人、参加率 126.3%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	168	18	0	0	0	0	186
割合 (%)	90.3	9.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
	186						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師の先生方の話が分かりやすく、しっかりした理論から学ぶことができたことと、それを定着させるための演習もあり、内容を身につけることができた。</li> <li>・戦略マップを作成していくという研修へ向けて、効果的に講義等が配列されていたこと。理解がスムーズになったと思う。また、地元に戻ったのちに伝講するという流れにもつながり、とても良いと思った。</li> <li>・これまで学校組織マネジメントについて知っているようでわからなかった部分を明確にしてもらえたと思います。講師の先生方の図式化や文章化が理解に役立ちました。</li> <li>・全コマ、全スケジュール、大変よく考えられているなどと思いました。</li> <li>・1日目から5日目に向けた研修のロードマップをもう少し分かりやすく提示していただけると、より理解が深まると思いました。</li> <li>・著名講師による迫力のある研修でした。1日目、5日目の協議については、協議の目的、視点等が参加者個々の考えにより共有されていなかったため、指示等が必要であると感じた。</li> <li>・『学校組織マネジメント上の課題の分析』の内容が、『学校ビジョンの戦略(1)』の講義の後だと、自分自身理解しやすかったと思いました。グループ協議はねらいに迫れていたのかどうか、消化不良でした。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修日程を4日間から5日間に延長し、研修成果の活用について演習する講座を設けた。</li> <li>・受講ニーズが増加していることを鑑み、研修の並行開催を廃止し、2回開催とした。また、適切な人数で研修実施ができるよう、各開催の受入人数については講師と確認の上、調整した。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講ニーズの高さから、引き続き2回開催を維持する。</li> <li>・講師への質問時間の確保または、質問の送信とフィードバックの機会を提供する。</li> <li>・ミーティングの時間や初日午後の演習等について、「目的」を明確に伝え、よりよい演習となるよう改善する。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり



## I 研修概要

研修名	学校組織マネジメント指導者養成研修（第2回）								
担当グループ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室								
研修目的	学校は、校長のリーダーシップの下、カリキュラム、地域との連携、学校の資源等が一体的にマネジメントされ、教職員や学校内外の多様な人材が、それぞれの専門性を生かして能力を発揮する必要がある。本研修では、1)学校ビジョンの構築、学校教育目標の具現化をマネジメントする専門的知見を活用し、組織的な取組を推進する力、2)学校、地域の教職員の専門性向上を推進する力、を習得した指導者の養成を図る。								
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者</li> <li>・幼稚園の園長、副園長、及び小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭、養護教諭等であって、各地域において本研修の内容を踏まえた研修の企画、運営または講師等としての活動を行う予定である者</li> <li>・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生（教職経験のある者に限る）</li> </ul>								
開催期日	令和元年10月21日(月)～令和元年10月26日(土)			5日間					
受講人数	標準定員 (計画人数)	80	人	受講者数	117	人	参加率	146.3%	
開催場所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）								

※ 全体標準定員 240人、受講者数 303人、参加率 126.3%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	112	3	0	0	0	2	117
割合 (%)	97.4	2.6	0.0	0.0	0.0	1.7	
	115	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までどのような方法で行うか分からなかった学校組織マネジメント、学校教育目標重点目標の立て方、コミュニティ・スクールの取り組み方など、様々なことを知ることができた。また、進める上で戦略の方法をグループで考えることにより、アイデアをたくさん頂くことができ、大変有意義であった。</li> <li>・戦略マップ作成を事例校で実際に行ってみることで、手順が具体的に分かり、勤務校ですぐ実践できるし、指導者として話をするのができると感じた。</li> <li>・学校を組織的に捉えることに対する考えが大きく変わった。現状の把握、課題の共有、具体的方策、目指す姿などの視点、及び留意点等を実際に経営する際の拠り所としたい。</li> <li>・働き方改革・コミュニティ・スクール・QUを使つての組織づくり等、多面的に組織マネジメントについて学べたので、大変良かった。</li> <li>・全国の管理職（候補）の方々との意見交換できたことがとても有意義だった。私たちは、日本の子どもたちの教育に携わっているのだ、と改めて感じた。</li> <li>・少し重複する部分か何人かの講師からあったので、調整していただければよかった。</li> <li>・1日目午後と4日目の午後については、取り組む内容の焦点がぼやけていたように思う。どちらもねらいはしっかり定めた方がよいと思った。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修日程を4日間から5日間に延長し、研修成果の活用について演習する講座を設けた。</li> <li>・受講ニーズが増加していることを鑑み、研修の並行開催を廃止し、2回開催とした。また、適切な人数で研修実施ができるよう、各開催の受入人数については講師と確認の上、調整した。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講ニーズの高さから、引き続き2回開催を維持する。</li> <li>・講師への質問時間の確保または、質問の送信とフィードバックの機会を提供する。</li> <li>・ミーティングの時間や初日午後の演習等について、「目的」を明確に伝え、よりよい演習となるよう改善する。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

# 令和元年度学校組織マネジメント指導者養成研修(第2回)日程表

10月21日(月)	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:15
	受付 9:00-9:30	オリエンテーション 9:30-10:10	開講式 10:25-10:45	政策に見る新しい学校経営の動向 文部科学省 10:45-12:15	昼休憩 12:15-13:15	学校組織マネジメント上の課題の分析(1) 協議 教職員支援機構 13:15-14:45	学校組織マネジメント上の課題の分析(2) 協議 教職員支援機構 15:00-16:30	休憩	16:30-17:15							
10月23日(水)	ミーティング 8:45-9:00	実践発表・協議 学校ビジョンと戦略(1) ～管理職とリーダー教員にとつてのマネジメントの課題～ 国士館大学 教授 北神正行 9:00-10:30	休憩	実践発表・協議 ア 学校組織の活性化 事例発表者：茨城県教育庁高校教育課 課長補佐 谷津勲 指導助言者：国士館大学 教授 北神正行 10:45-12:15	昼休憩 12:15-13:15	実践発表・協議 イ 学校と地域の連携・協働 事例発表者：岩手県大槌町立大槌学園 学園長 松橋文明 指導助言者：国士館大学 教授 北神正行 13:15-14:45	学校組織マネジメント上の課題の分析(2) 実践発表・協議 学校ビジョンと戦略(2) ～管理職とリーダー教員にとつてのマネジメントの課題～ 国士館大学 教授 北神正行 15:00-16:30	休憩								
10月24日(木)	ミーティング 8:45-9:00	実践発表・協議 学校組織マネジメントの実践に向けて ～学校の戦略マップを作る(1)～ 兵庫教育大学大学院 教授 浅野良一 9:00-10:30	休憩	実践発表・協議 ア 学校組織マネジメントの実践に向けて ～学校の戦略マップを作る(2)～ 兵庫教育大学大学院 教授 浅野良一 10:45-12:15	昼休憩 12:15-13:15	実践発表・協議 イ 学校組織マネジメントの実践に向けて ～学校の戦略マップを作る(3)～ 兵庫教育大学大学院 教授 浅野良一 13:15-14:45	学校組織マネジメント上の課題の分析(2) 実践発表・協議 学校組織マネジメントの実践に向けて ～学校の戦略マップを作る(4)～ 兵庫教育大学大学院 教授 浅野良一 15:00-16:30	休憩								
10月25日(金)	ミーティング 8:45-9:00	実践発表・協議 やる気を引き出す ヒューマンリソース・マネジメント(1) 早稲田大学 教授 河村茂雄 9:00-10:30	休憩	実践発表・協議 やる気を引き出す ヒューマンリソース・マネジメント(2) 早稲田大学 教授 河村茂雄 10:45-12:15	昼休憩 12:15-13:15	実践発表・協議 イ 学校組織マネジメントの実践に向けて ～学校の戦略マップを作る(3)～ 上越教育大学 教授 安藤知子 13:15-14:45	学校組織マネジメント上の課題の分析(2) 実践発表・協議 学校組織マネジメントの実践に向けて ～学校の戦略マップを作る(4)～ 上越教育大学 教授 安藤知子 15:00-16:30	休憩								
10月27日(土)	ミーティング 8:45-9:00	実践発表・協議 研修成果の活用 教職員支援機構 9:00-12:15														
閉講式																



## I 研修概要

研 修 名	カリキュラム・マネジメント指導者養成研修 第1回								
担 当 課 グ ル ー プ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室								
研 修 目 的	学校は、地域や学校の実態等に即し、学校の資源、特色を生かした適切な教育課程を編成し、実施する必要がある。 新学習指導要領においても、「カリキュラム・マネジメント」の重要性が特に示されている。 本研修では、新学習指導要領に基づいて、学校において、校長のリーダーシップの下、組織的、計画的に「カリキュラム・マネジメント」を展開するための手立て、カリキュラムの自己点検・評価に関する手法等を習得する。そして、1) 各学校における教育課程の編成・実施の改善に関する専門的知見を活用して組織的な取組を推進する力、2) 学校や地域の教職員の「カリキュラム・マネジメント」に関する専門性向上を推進する力、を習得した指導者の養成を図る。								
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者</li> <li>・小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者</li> <li>・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生（教職経験のある者に限る）</li> </ul>								
開 催 期 日	令和元年7月8日（月）～令和元年7月12日（金）			5日間					
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	162	人	参加率	162.0%	
開 催 場 所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）								

※ 全体標準定員 180 人、受講者数 313 人、参加率 173.9%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	139	22	1	0	0	0	162
割合 (%)	85.8	13.6	0.6	0.0	0.0	0.0	
	161						
	99.4						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・最先端の講師陣の話を聞いて理解が進んだ。また、グループの先生方や様々な先生方との交流から学ぶ者も大きかった。</li> <li>・カリキュラム・マネジメントが求められている背景から意義や概念、実践していくための方策（様々な側面から）、研修の進め方まで広範にわたって学ぶことができました。</li> <li>・講義内容が充実し、講師の先生方の講義組み立ても素晴らしく、カリ・マネの理解が深まりました。</li> <li>・系統立ててプログラムが組まれており、日を増すごとにカリマネについての理解が深まる内容であった。また、5日間の日程だったので、ゆっくりと考えを整理する時間が確保できたのもよかった。</li> <li>・4日目の午後の「『カリキュラム・マネジメント』を推進するための教員研修プランの作成」の講座は、一気にトーンダウンする感じであった。前日作った文書の共有・相互評価、または『「カリキュラム・マネジメント」における教員研修の進め方』の講義を受けての「校内研修プランを立てる」という活動の方がより有意義であると思う。</li> <li>・カリキュラム・マネジメントの取組の課題の意図が分からなかったため、どう書けばよいか迷った。もう少し事前の課題として、研修内容と一致するものにしてほしかった。</li> <li>・これから職場に戻り還元することを考えると、提出課題や演習2の内容は学校の教員と指導行政とで、内容、又は様式が異なるとよい。職種に応じたまとめを希望します。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講人数増加に伴って2回開催とした。</li> <li>・本研修の系統性を検討して研修の構造を明確化した。</li> <li>・職種別の班編制をしながら、職種混合と職種別の班編制を実施した。</li> </ul> <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修ニーズの違いを踏まえ、受講対象を指導主事と学校からの参加者に分ける。</li> <li>・研修成果の活用の在り方について検討する。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

令和元年度 カリキュラム・マネジメント指導者養成研修（第1回） 日程表

9:30	10:00	10:45	12:15	13:15	14:45	15:00	16:30	17:00
第1日	受付	オリエンテーション	講義1 新学習指導要領とカリキュラム・マネジメント 一学習指導要領総則の記述を中心に— 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 学校教育官 石田有記 目的：新学習指導要領における「カリキュラム・マネジメント」の位置づけや学校に求められていることを理解する	昼休憩	講義2 「カリキュラム・マネジメント」の新たな展開 —新学習指導要領の告示に関わって— 千葉大学 特任教授 天笠茂 目的：「カリキュラム・マネジメント」とは何か、学校組織におけるその役割と方法について具体的な理解を深める	休憩	事例発表 「カリキュラム・マネジメント」の実践 事例発表者：新潟県立教育センター 指導助言者：千葉大学 特任教授 天笠茂 目的：事例発表を通して自身が身につけるべき力を理解する	振り返り

9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	14:45	15:00	16:30	17:00
第2日	カリキュラム評価によるカリキュラム改善 大阪教育大学 教授 田村知子 目的：教育課程を改善するためにどのようにカリキュラムを評価すればよいか、学校評価とカリキュラム評価の関係を中心に学ぶ	休憩	講義3 「カリキュラム・マネジメント」の課題 A小学校部会；高崎健康福祉大学 教授 栗原幸正 B中学校部会；甲南女子大学 教授 村川雅弘 C高等学校部会；松本大学 教授 山崎保寿 D特別支援学校部会；福岡教育大学 教授 一木薫 目的：事例発表をもとにした協議を通して、教育課程の編成・実施を中核とした学校改善の要件について理解を深める	昼休憩	講義・演習1 「カリキュラム・マネジメント」におけるカリキュラム評価の手法 筑波大学 教授 根津朋実 甲南女子大学 教授 村川雅弘 目的：学校改善を支援するためのカリキュラム評価の手法について学ぶ	休憩	事例発表 「カリキュラム・マネジメント」を推進するための教員研修プランの作成 教職員支援機構 目的：これまで学んできたことを活用して、「カリキュラム・マネジメント」を推進するための研修を企画する	振り返り

9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	14:45	15:00	16:30	17:00
第3日	事例発表・協議 「カリキュラム・マネジメント」の課題 A小学校部会；高崎健康福祉大学 教授 栗原幸正 B中学校部会；甲南女子大学 教授 村川雅弘 C高等学校部会；松本大学 教授 山崎保寿 D特別支援学校部会；福岡教育大学 教授 一木薫 目的：事例発表をもとにした協議を通して、教育課程の編成・実施を中核とした学校改善の要件について理解を深める	休憩	講義4 教育課程の編成・実施のための教職員の組織化 上越教育大学 教授 安藤知子 目的：教育課程の編成・実施を推進するためにどのように教職員を組織化すればよいか学ぶ	昼休憩	講義・演習2 「カリキュラム・マネジメント」を推進するための教員研修プランの作成 教職員支援機構 目的：これまで学んできたことを活用して、「カリキュラム・マネジメント」を推進するための研修を企画する	休憩	事例発表 「カリキュラム・マネジメント」を推進するための教員研修プランの作成 教職員支援機構 目的：これまで学んできたことを活用して、「カリキュラム・マネジメント」を推進するための研修を企画する	振り返り

9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	14:45	15:00	16:30	17:00
第4日	事例発表・協議 「カリキュラム・マネジメント」の課題 A小学校部会；高崎健康福祉大学 教授 栗原幸正 B中学校部会；甲南女子大学 教授 村川雅弘 C高等学校部会；松本大学 教授 山崎保寿 D特別支援学校部会；福岡教育大学 教授 一木薫 目的：事例発表をもとにした協議を通して、教育課程の編成・実施を中核とした学校改善の要件について理解を深める	休憩	講義5 「カリキュラム・マネジメント」における教員研修の進め方 奈良教育大学 教授 赤沢早人 目的：「カリキュラム・マネジメント」における教員研修の役割について理論的に学ぶ	昼休憩	講義・演習2 「カリキュラム・マネジメント」を推進するための教員研修プランの作成 教職員支援機構 目的：これまで学んできたことを活用して、「カリキュラム・マネジメント」を推進するための研修を企画する	休憩	事例発表 「カリキュラム・マネジメント」を推進するための教員研修プランの作成 教職員支援機構 目的：これまで学んできたことを活用して、「カリキュラム・マネジメント」を推進するための研修を企画する	振り返り

9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	14:45	15:00	16:15	17:00
第5日	引き続き講義・演習2	休憩	講義6 「カリキュラム・マネジメント」と組織化 千葉大学 特任教授 天笠茂 目的：本研究を振り返るとともに、「カリキュラム・マネジメント」の組織的な取組について理解を深める	昼休憩	講義・演習2 「カリキュラム・マネジメント」を推進するための教員研修プランの作成 教職員支援機構 目的：これまで学んできたことを活用して、「カリキュラム・マネジメント」を推進するための研修を企画する	休憩	事例発表 「カリキュラム・マネジメント」を推進するための教員研修プランの作成 教職員支援機構 目的：これまで学んできたことを活用して、「カリキュラム・マネジメント」を推進するための研修を企画する	振り返り

## I 研修概要

研 修 名	カリキュラム・マネジメント指導者養成研修 第2回							
担 当 課 グ ル ー プ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研 修 目 的	学校は、地域や学校の実態等に即し、学校の資源、特色を生かした適切な教育課程を編成し、実施する必要がある。 新学習指導要領においても、「カリキュラム・マネジメント」の重要性が特に示されている。 本研修では、新学習指導要領に基づいて、学校において、校長のリーダーシップの下、組織的、計画的に「カリキュラム・マネジメント」を展開するための手立て、カリキュラムの自己点検・評価に関する手法等を習得する。そして、1)各学校における教育課程の編成・実施の改善に関する専門的知見を活用して組織的な取組を推進する力、2)学校や地域の教職員の「カリキュラム・マネジメント」に関する専門性向上を推進する力、を習得した指導者の養成を図る。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者</li> <li>・小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者</li> <li>・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生（教職経験のある者に限る）</li> </ul>							
開 催 期 日	令和元年12月16日（月）～令和元年12月20日（金）			5日間				
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	80	人	受講者数	151	人	参加率	188.8%
開 催 場 所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体標準定員 180人、受講者数 313人、参加率 173.9%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	136	14	0	0	0	1	151
割合 (%)	90.7	9.3	0.0	0.0	0.0	0.7	
	150						100.0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム・マネジメントを実際に進めていくための理論や取り組み方が、自分の中で明確になってきた。</li> <li>・カリキュラム・マネジメントについて、理論と演習を通して実践的に学ぶことができました。班編成を変えて受講できたので、より多くの視点に触れることができました。</li> <li>・5日間の研修の中で、様々な講師の方からの講義を拝聴し、多くのことを学ぶことができました。それぞれの先生方により、講義の視点が違い、多面的にカリキュラム・マネジメントについて考えることができました。</li> <li>・実際に学校現場に勤務していらした講師の先生の事例を基にした話がとても分かりやすかった。グループで協議しながらの演習も、いろいろな考えが参考になり、楽しく学ぶことができました。</li> <li>・カリキュラム・マネジメントについて、いろいろな視点からたくさん話が聞けたことが良かった。校種別での研修は、特に、自校に持ち帰ってすぐに活用できる内容も多く、大変良かった。</li> <li>・理論から始まり（行政説明を含め、理論を知ることの大切さ）、実践・演習等、様々な研修形態から多くの内容を学びとることができました。</li> <li>・指導主事は実際の学校の実態が想像しにくい点があるため、演習内容、資料の改善をお願いしたい。</li> <li>・テーマの内容が広義のものであったため、講師による解釈の違いを、こちらがうまく飲み込んで処理しなければならなかったことが大変であった。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講人数増加に伴って2回開催とした。</li> <li>・本研修の系統性を検討して研修の構造を明確化した。</li> <li>・校種別の班編成をしながら、職種混合と職種別の班編成を実施した。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修ニーズの違いを踏まえ、受講対象を指導主事と学校からの参加者に分ける。</li> <li>・研修成果の活用の在り方について検討する。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

令和元年度 カリキュラム・マネジメント指導者養成研修（第2回） 日程表

9:30	10:00	10:45	12:15	13:15	14:45	15:00	16:30	17:00
第1日	受付	オリエンテーション	開講式	講義1 新学習指導要領とカリキュラム・マネジメント —学習指導要領総則の記述を中心に— 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 学校教育官 石田有記 目的：新学習指導要領における「カリキュラム・マネジメント」の位置づけや学校に求められていることを理解する	昼休憩	講義2 「カリキュラム・マネジメント」の新たな展開 —新学習指導要領の告示に関わって— 千葉大学 特任教授 天笠茂 目的：「カリキュラム・マネジメント」とは何か、学校組織におけるその役割と方法について具体的な理解を深める	事例発表 「カリキュラム・マネジメント」の実践 事例発表者：新潟県立教育センター 指導助言者：千葉大学 特任教授 天笠茂 目的：事例発表を通して自身が身につけるべき力を理解する	振り返り

9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	14:45	15:00	16:30	17:00
第2日	カリキュラム評価によるカリキュラム改善 大阪教育大学 教授 田村知子 目的：教育課程を改善するためにどのようにカリキュラムを評価すればよいか、学校評価とカリキュラム評価の関係を中心に学ぶ	昼休憩	講義・演習1 「カリキュラム・マネジメント」におけるカリキュラム評価の手法 筑波大学 教授 根津朋実 甲南女子大学 教授 村川雅弘 目的：学校改善を支援するためのカリキュラム評価の手法について学ぶ	昼休憩	講義・演習2 「カリキュラム・マネジメント」におけるカリキュラム評価の手法 筑波大学 教授 根津朋実 甲南女子大学 教授 村川雅弘 目的：学校改善を支援するためのカリキュラム評価の手法について学ぶ	休憩		振り返り

9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	14:45	15:00	16:30	17:00
第3日	事例発表・協議 「カリキュラム・マネジメント」の課題 A小学校部会：高崎健康福祉大学 教授 栗原幸正 B中学校部会：甲南女子大学 教授 村川雅弘 C高等学校部会：松本大学 教授 山崎保寿 D特別支援学校部会：福岡教育大学 教授 一木薫 目的：事例発表をもとにした協議を通して、教育課程の編成・実施を中核とした学校改善の要件について理解を深める	昼休憩		講義5 「カリキュラム・マネジメント」における教員研修の進め方 愛知教育大学 教授 倉本哲男 目的：「カリキュラム・マネジメント」における教員研修の役割について理論的に学ぶ	昼休憩			振り返り

9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	14:45	15:00	16:30	17:00
第4日	教育課程の編成・実施のための教職員の組織化 上越教育大学 教授 安藤知子 目的：教育課程の編成・実施を推進するためにどのように教職員を組織化すればよいか学ぶ	講義・演習2 「カリキュラム・マネジメント」を推進するための教員研修プランの作成 教職員支援機構 目的：これまで学んできたことを活用して、「カリキュラム・マネジメント」を推進するための研修を企画する	講義・演習1 「カリキュラム・マネジメント」の新たな展開 —新学習指導要領の告示に関わって— 千葉大学 特任教授 天笠茂 目的：「カリキュラム・マネジメント」とは何か、学校組織におけるその役割と方法について具体的な理解を深める	講義・演習2 「カリキュラム・マネジメント」を推進するための教員研修プランの作成 教職員支援機構 目的：これまで学んできたことを活用して、「カリキュラム・マネジメント」を推進するための研修を企画する	講義・演習3 「カリキュラム・マネジメント」の新たな展開 —新学習指導要領の告示に関わって— 千葉大学 特任教授 天笠茂 目的：「カリキュラム・マネジメント」とは何か、学校組織におけるその役割と方法について具体的な理解を深める	講義・演習4 「カリキュラム・マネジメント」の新たな展開 —新学習指導要領の告示に関わって— 千葉大学 特任教授 天笠茂 目的：「カリキュラム・マネジメント」とは何か、学校組織におけるその役割と方法について具体的な理解を深める	講義・演習5 「カリキュラム・マネジメント」の新たな展開 —新学習指導要領の告示に関わって— 千葉大学 特任教授 天笠茂 目的：「カリキュラム・マネジメント」とは何か、学校組織におけるその役割と方法について具体的な理解を深める	振り返り

9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	14:45	15:00	15:15	17:00
第5日	カリキュラム・マネジメントと組織化 千葉大学 特任教授 天笠茂 目的：本研修を振り返るとともに、「カリキュラム・マネジメント」の組織的な取組について理解を深める	講義・演習2 「カリキュラム・マネジメント」を推進するための教員研修プランの作成 教職員支援機構 目的：これまで学んできたことを活用して、「カリキュラム・マネジメント」を推進するための研修を企画する	講義・演習3 「カリキュラム・マネジメント」の新たな展開 —新学習指導要領の告示に関わって— 千葉大学 特任教授 天笠茂 目的：「カリキュラム・マネジメント」とは何か、学校組織におけるその役割と方法について具体的な理解を深める	講義・演習4 「カリキュラム・マネジメント」の新たな展開 —新学習指導要領の告示に関わって— 千葉大学 特任教授 天笠茂 目的：「カリキュラム・マネジメント」とは何か、学校組織におけるその役割と方法について具体的な理解を深める	講義・演習5 「カリキュラム・マネジメント」の新たな展開 —新学習指導要領の告示に関わって— 千葉大学 特任教授 天笠茂 目的：「カリキュラム・マネジメント」とは何か、学校組織におけるその役割と方法について具体的な理解を深める	講義・演習6 「カリキュラム・マネジメント」の新たな展開 —新学習指導要領の告示に関わって— 千葉大学 特任教授 天笠茂 目的：「カリキュラム・マネジメント」とは何か、学校組織におけるその役割と方法について具体的な理解を深める	講義・演習7 「カリキュラム・マネジメント」の新たな展開 —新学習指導要領の告示に関わって— 千葉大学 特任教授 天笠茂 目的：「カリキュラム・マネジメント」とは何か、学校組織におけるその役割と方法について具体的な理解を深める	閉講式

## I 研修概要

研 修 名	生徒指導指導者養成研修							
担 当 課 グ ル ー プ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研 修 目 的	生徒指導は、学校がその教育目標を達成するための重要な機能の一つである。このことから、学校では、生徒指導の実践に際し教職員間の共通理解を図り、組織的・体系的生徒指導の取組をしている。しかし、社会の変化が著しい現代において、いじめ、暴力行為、自殺、不登校などは依然として学校教育推進上の大きな課題となっている。そのため、学校や教育委員会等による、児童生徒の問題行動等の未然防止、早期発見・早期解決の推進が一層求められている。 本研修では習得した内容を踏まえ、各地域における研修講師等として、1) 生徒指導に関する諸課題の改善に専門的知見を活用し、組織的な取組を推進する力、2) 学校、地域において教職員の専門性向上を推進する力、を發揮できる指導者の養成を図る。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者</li> <li>・小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭等</li> <li>・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生（教職経験のある者に限る）</li> </ul>							
開 催 期 日	令和元年7月1日（月）～令和元年7月5日（金）					5日間		
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	135	人	参加率	135.0%
開 催 場 所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）							

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	122	13	0	0	0	0	135
割合 (%)	90.4	9.6	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	135						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新の国の動向や、全国で活躍されている講師による情報や理論が貴重だった。</li> <li>・演習でたくさんの先生と交流を深め、多様な意見を聞き、自分の考えを新たに持つことができた。</li> <li>・経験則を頼りに行ってきた生徒指導について、様々な知識や事例を学ぶことで、自分自身の考えについて整理することができた。</li> <li>・SNSの講義を聴きたかったが、あまりにも速く、時間も短かったのが心残りだった。</li> <li>・事例研究の時間では数多くの先生方の意見を聞くことができ、勉強になった。</li> <li>・時間不足の講義が多かった。もっとじっくりと、講師の先生方のお話を聞きたかった。</li> <li>・不登校の問題について扱われなかったのはなぜか。全国的にも問題になっているテーマだと思う。</li> <li>・事例研究だけに来られた講師の先生についても、講義の時間を設定して欲しかった。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修期間を8日間から5日間とし、受講者が、研修を受講しやすい体制を整えた。</li> </ul>
<p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導の在り方のひとつとして、学校内に閉じた指導、支援ではなく、校外との連携の視点も重視した研修内容とする。</li> <li>・『生徒指導指導者養成研修』と『教育相談指導者養成研修』の一部の内容を合同で実施する。生徒指導と教育相談の視点の融合により、よりよい指導の在り方を目指す。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

# 令和元年度生徒指導指導者養成研修日程表

期日(曜)	8:45	9:00	9:30	10:10	10:30	10:45	11:45	12:15	13:15	14:45	15:00	16:30	16:45	17:15
1	7月1日(月)	受付 (9:00~9:30)	オリエンテーション (9:30~10:10)	開講式 (10:10~10:30)	休憩	講義 生徒指導とチーム学校 文部科学省 初等中等教育局児童生徒課 生徒指導室長 松木 秀彰	昼休憩	講義・演習 生徒指導に関するマネジメント 関西外国語大学 教授 新井 肇	休憩	講義・演習 生徒指導に関するマネジメント 関西外国語大学 教授 新井 肇	休憩	講義・演習 生徒指導に関するマネジメント 関西外国語大学 教授 新井 肇	休憩	研修の企画①
2	7月2日(火)	ミーティング	学校・家庭・地域・外部機関との連携 神田外国語大学 客員教授 嶋崎 政男	講義・演習 チーム学校のためのコーチング 別府大学 教授 佐藤 敬子	昼休憩	講義 チーム学校のためのコーチング 別府大学 教授 佐藤 敬子	昼休憩	講義・演習 いじめの未然防止と対応 日本大学 教授 藤平 敦	休憩	講義・演習 いじめの未然防止と対応 日本大学 教授 藤平 敦	休憩	講義・演習 いじめの未然防止と対応 日本大学 教授 藤平 敦	休憩	研修の企画②
3	7月3日(水)	ミーティング	ネットラブラルの未然防止及び解決に向けた指導と対応 兵庫県立大学 准教授 竹内 和雄	講義・演習 ネットラブラルの未然防止及び解決に向けた指導と対応 兵庫県立大学 准教授 竹内 和雄	休憩	講義・演習 ネットラブラルの未然防止及び解決に向けた指導と対応 兵庫県立大学 准教授 竹内 和雄	昼休憩	講義・演習 生徒指導と学校コンプライアンス 日本女子大学 教授 坂田 仰	休憩	講義・演習 生徒指導と学校コンプライアンス 日本女子大学 教授 坂田 仰	休憩	講義・演習 生徒指導と学校コンプライアンス 日本女子大学 教授 坂田 仰	休憩	研修の企画③
4	7月4日(木)	ミーティング	事例研究(ユニット) 兵庫教育大学大学院 愛媛大学 名誉教授 平松 義樹 日本教育カウンセラー協会 理事 藤川 章 清和大学 非常勤講師 柳生 和男 関西外国語大学 教授 新井 肇 日本大学 教授 藤平 敦	講義・演習 事例研究(ユニット) 兵庫教育大学大学院 愛媛大学 名誉教授 平松 義樹 日本教育カウンセラー協会 理事 藤川 章 清和大学 非常勤講師 柳生 和男 関西外国語大学 教授 新井 肇 日本大学 教授 藤平 敦	休憩	協議・演習 事例研究(ユニット) 兵庫教育大学大学院 愛媛大学 名誉教授 平松 義樹 日本教育カウンセラー協会 理事 藤川 章 清和大学 非常勤講師 柳生 和男 関西外国語大学 教授 新井 肇 日本大学 教授 藤平 敦	昼休憩	協議・演習 事例研究(ユニット) 兵庫教育大学大学院 愛媛大学 名誉教授 平松 義樹 日本教育カウンセラー協会 理事 藤川 章 清和大学 非常勤講師 柳生 和男 関西外国語大学 教授 新井 肇 日本大学 教授 藤平 敦	休憩	協議・演習 事例研究(ユニット) 兵庫教育大学大学院 愛媛大学 名誉教授 平松 義樹 日本教育カウンセラー協会 理事 藤川 章 清和大学 非常勤講師 柳生 和男 関西外国語大学 教授 新井 肇 日本大学 教授 藤平 敦	休憩	協議・演習 事例研究(ユニット) 兵庫教育大学大学院 愛媛大学 名誉教授 平松 義樹 日本教育カウンセラー協会 理事 藤川 章 清和大学 非常勤講師 柳生 和男 関西外国語大学 教授 新井 肇 日本大学 教授 藤平 敦	休憩	ミーティング
5	7月5日(金)	ミーティング	協議・演習 事例研究(グループ)	協議・演習 事例研究(グループ)	休憩	協議・演習 事例研究(グループ)	昼休憩	研修の企画④ 演習 教職員支援機構 研修プロデューサー	閉講式					

## I 研修概要

研修名	教育相談指導者養成研修							
担当講師	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研修目的	いじめ、不登校、暴力行為など生徒指導上の諸問題は、依然として憂慮すべき状況にある。さらに、虐待や貧困など新しい形の問題が顕在化し、生徒指導上の問題は一層多様化、深刻化している。これらの問題に適切に対応するためには、教員個人が問題を抱え込むことなく、「チーム学校」の観点から学校全体で組織的に取り組むことや、外部機関や家庭、地域との連携・協働を促進して、効果的に教育相談を推進することが求められている。 本研修では、学校全体で校長のリーダーシップの下に、日々の教育活動、学校の資源と外部関係機関等をマネジメントした組織的な教育相談体制を構築し、効果的に教育相談を実践するための手法等を習得する。さらに、学校が組織的に子供たちの教育相談に取り組むことで、1) 教育相談に関する諸課題の改善に専門的知見を活用し、組織的な取組を推進する力、2) 学校、地域の教職員の専門性向上を推進する力、を習得した指導者の養成を図る。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者</li> <li>・幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の教職員であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者</li> <li>・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生（教職経験のある者に限る）</li> </ul>							
開催期日	令和元年6月4日（火）～令和元年6月7日（金）			4日間				
受講人数	標準定員 (計画人数)	60	人	受講者数	97	人	参加率	161.7%
開催場所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）							

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	89	8	0	0	0	0	97
割合 (%)	91.8	8.2	0.0	0.0	0.0	0.0	
	97	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国各地の様々な校種・役職の方々とともに研修することができ、専門的な知識やスキル向上だけでなく、情報交換や考えの交流ができたことが大変有意義だったと思います。</li> <li>・理論だけでなく、具体的な実践例を学ぶことができ、大変勉強になりました。早速学校に帰って伝達し、自分も行動に移していこうと思います。</li> <li>・新しく知ることも多く、また、持ち帰って生かせるものがたくさんあった。内容や量なども良かった。</li> <li>・教育相談に関して、たくさんの講義・演習があり勉強になった。また、今後の実践に生かせるものばかりであった。他の県の方とも知り合うことができ、ネットワークが広がった。</li> <li>・自身の教育相談課指導主事としての勤務も4年目に入り、本県の課題・学校現場のニーズにより、具体的に応えていくための業務内容・研修内容について整理をしたいと考えておりました。4日間の研修で、その方向性が確認できました。</li> <li>・つくばの研修ということで、研修の仕立て自体に、もう少し対話のあるものになると思っていたが、実際は講義形式となっているものが多かったと思います。もう少しペアやグループを組んでいるところを生かして、意見交換や協働作業が入った研修の仕立てでもよかったのではないかと思います</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度から設けた講義・演習「不登校児童・生徒の支援と教育相談」「特別支援教育と教育相談」に関する講義は、引き続き、受講者から肯定的な意見・感想が寄せられた。講義とともに演習（ペアでの意見交換）を行った。</li> <li>・チーム学校として実際に対応しているスクールソーシャルワーカーからの講義実施について、研修3日目午前に事例を通して理解を深め、研修3日目午後にはチーム学校の構築について演習を通してさらに理解を深めた。</li> <li>・現代的な諸課題についてさらに重点的に取り上げるため、講義・演習「性同一性障害に係わる児童生徒の教育相談」と講義・演習「児童虐待に係わる児童生徒への対応」を新設した。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『生徒指導指導者養成研修』と『教育相談指導者養成研修』の一部の内容を合同で実施する。生徒指導と教育相談の視点の融合により、よりよい指導の在り方を目指す。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

令和元年度教育相談指導者養成研修日程表

8:45 9:00 9:30 10:10 10:30 10:45 12:15 13:15 14:45 15:00 16:30 16:40 17:00

6月4日(火)	8:45 9:00	受付	9:30	オリエンテーション	10:10 10:30 10:45	休憩	12:15	講義1 『チーム学校』の構築と教育相談 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 課長補佐 廣石 孝	13:15	昼休憩	14:45	講義2 教育相談の効果的な実践(1) ～不登校児童生徒の支援と 教育相談～ FR教育臨床研究所 所長 花輪 敏男	15:00	休憩	講義3 教育相談の効果的な実践(2) ～特別支援教育と教育相談～ FR教育臨床研究所 所長 花輪 敏男	16:30 16:40	休憩・準備	研修成果の活用①
6月5日(水)	8:45 9:00	講義・演習1 教育相談の在り方(1) ～教育相談の充実に向けて～ 立正大学 特任教授 鹿嶋 真弓	9:30	講義・演習2 教育相談の在り方(2) ～教育相談の課題と実践～ 立正大学 特任教授 鹿嶋 真弓	10:10 10:30 10:45	休憩	12:15	講義・演習3 性同一性障害に係わる 児童生徒の教育相談 鳴門教育大学 教授 葛西 真記子	13:15	昼休憩	14:45	講義・演習4 児童虐待に係わる 児童生徒への対応 児童心理治療施設 静岡県立吉原林間学園 治療指導課長 市原 真記	15:00	休憩	講義・演習5 『チーム学校』の構築(3)(4) ～チーム体制の構築を考える～ 日本教育カウンセラー協会 理事 藤川 章	16:30 16:40	休憩・準備	研修成果の活用②
6月6日(木)	8:45 9:00	講義・事例発表 『チーム学校』の構築(1)(2) ～実践事例から学ぶ～ 専門スタッフの参画①②③ 日本教育カウンセラー協会 理事 藤川 章	9:30	講義・演習6 教育相談に関するマネジメントの推進 ～マネジメントの効果的な進め方を学ぶ～ 神田外語大学 客員教授 嶋崎 政男	10:10 10:30 10:45	休憩	12:15	講義・演習7 研修成果の活用④ 教職員支援機構	13:15	昼休憩	14:45	講義・演習5 『チーム学校』の構築(3)(4) ～チーム体制の構築を考える～ 日本教育カウンセラー協会 理事 藤川 章	15:00	閉講式	研修成果の活用③			
6月7日(金)	8:45 9:00	講義・演習6 教育相談に関するマネジメントの推進 ～マネジメントの効果的な進め方を学ぶ～ 神田外語大学 客員教授 嶋崎 政男	9:30	講義・演習7 研修成果の活用④ 教職員支援機構	10:10 10:30 10:45	休憩	12:15	講義・演習7 研修成果の活用④ 教職員支援機構	13:15	昼休憩	14:45	講義・演習7 研修成果の活用④ 教職員支援機構	15:00	閉講式	研修成果の活用③			



## I 研修概要

研修名	いじめの問題に関する指導者養成研修（つくば会場）								
担当グループ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室								
研修目的	いじめ防止対策推進法（平成25年）において、いじめは、すべての児童生徒に関わる問題であるとしている。そして、いじめの防止等の対策は、1）いじめられた児童生徒の心身に深刻な影響を及ぼす許されない行為であることについて、児童生徒が十分に理解できるようにすること、2）いじめを受けた児童生徒の生命・心身を保護するため、関係諸機関が緊密に連携することとしている。これらのことを、組織的かつ総合的に取り組むことで、問題の根絶をめざしている。 本研修では、学校が組織的にいじめの未然防止および早期発見に取り組むことで、上記の目的を達成するには、1）いじめの問題に関する諸課題の改善に専門的知見を活用し、組織的な取組を推進する力、2）学校、地域の教職員の専門性向上を推進する力、を習得した指導者の養成を図る。								
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者</li> <li>・小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭</li> <li>・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生（教職経験のある者に限る）</li> </ul>								
開催期日	令和元年5月7日（月）～令和元年5月10日（金）			5日間					
受講人数	標準定員 (計画人数)	120	人	受講者数	107	人	参加率	89.2%	
開催場所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）								

※ 全体標準定員 360 人、受講者数 397 人、参加率 110.3%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった				あまり意義 なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義		概ね有意義						
人数 (人)	97	10	90.7	9.3	0	0	0	0	107
割合 (%)	107		100.0		0.0	0.0	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習が適切に設定され、自ら考える研修であったので、今後の自身の運営する研修に生かしていきたいです。</li> <li>・事前課題はA4/1枚のみということで、過度な負担にならず、ありがたかったです。</li> <li>・自分自身（学校）の課題を明確にした上で研修に臨むことができたので良かったと思う。</li> <li>・どの先生方の講義も内容が濃く、大変勉強になりました。学校に戻り、校内研修で自校の教職員にしっかりと伝えていきたいと思います。</li> <li>・講義の内容がどれもすばらしかったですし、共通点も多く、大事な「柱」が理解できたと思います。</li> <li>・いじめ予防対策推進法が施行されてから間もなく、現場に周知・徹底していくためには、まだ時間が必要だと感じている。まだ法律に対して、学校は認識が決して高くはない。そういった観点から、本研修の持つ意味は大きいと感じる。</li> <li>・たいへん勉強になりましたが、情報量が多かったり、欲しい資料がもらえなかったりしたところが残念でした。また、資料に書かれている内容の説明がなかったり、急いで進んでしまうところも残念でした。</li> <li>・テーマが「いじめ」なので、重いものであると覚悟していましたが、成功例や前向きになれる例などがあると元気になったとは思っています。ご検討ください。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「いじめの問題に関する保護者との連携、信頼関係構築の在り方」ではロールプレイの演習を行なった。</li> <li>・4会場すべての研修期間を4日間に統一し、全会場で同一内容の研修を実施した。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめの定義や四層構造についての説明が重複しないように調整する。</li> <li>・「いじめの問題に関する保護者との連携、信頼関係構築の在り方」ではロールプレイの演習を行なったが、時間配分に課題があったため、適切な演習時間を確保する。</li> <li>・研修内容について、引き続き「未然防止」に焦点を当てつつ、「早期発見～適切な対応」の部分にも十分に触れることとする。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

# 令和元年度 いじめの問題に関する指導者養成研修(つくば会場) 日程表

	8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	12:00	13:00	14:00	14:15	15:15	15:30	17:00
5/7	受付 (30分)	オリエンテーション	休憩 20分	「いじめの問題に関する現状と取組」 文部科学省 (90分) 10:30-12:00	昼休憩(60分)	「いじめの問題の捉え方」 (1) 専門教育大学 特任教授 森田 洋司 (60分) 13:00-14:00	休憩	「いじめの問題の捉え方」 (2) 専門教育大学 特任教授 森田 洋司 (60分) 14:15-15:15	休憩	「いじめの問題への組織的取組」 協議 教職員支援機構 研修プロフェッサー (90分) 15:30-17:00		
5/8	受付	「いじめの問題への組織的な取組の 考え方と実践(1)」 関西外国語大学 教授 新井 肇 (90分) 9:00-10:30	休憩	「いじめの問題への組織的な取組の 考え方と実践(2)」 関西外国語大学 教授 新井 肇 (90分) 10:45-12:15	昼休憩(60分)	「法を踏まえたいじめの問題への対応」 (1) 日本女子大学 教授 坂田 仰 (90分) 13:15-14:45	講義・協議 「法を踏まえたいじめの問題への対応」 (2) 日本女子大学 教授 坂田 仰 (90分) 15:00-16:30	講義・協議 「法を踏まえたいじめの問題への対応」 (2) 日本女子大学 教授 坂田 仰 (90分) 15:00-16:30	講義・協議 「いじめの問題に関する保護者との連携、信頼関係構築の在り方(1)」 神田外語大学 客員教授 嶋崎 政男 (90分) 13:15-14:45	講義・協議 「いじめの問題に関する保護者との連携、信頼関係構築の在り方(2)」 神田外語大学 客員教授 嶋崎 政男 (90分) 15:00-16:30	講義・協議 「いじめの問題に関する保護者との連携、信頼関係構築の在り方(1)」 神田外語大学 客員教授 嶋崎 政男 (90分) 13:15-14:45	講義・協議 「いじめの問題に関する保護者との連携、信頼関係構築の在り方(2)」 神田外語大学 客員教授 嶋崎 政男 (90分) 15:00-16:30
5/9	受付	「ネットいじめの未然防止及び解決に向けた指導と対応(1)」 兵庫県立大学 准教授 竹内 和雄 (90分) 9:00-10:30	休憩	「ネットいじめの未然防止及び解決に向けた指導と対応(2)」 兵庫県立大学 准教授 竹内 和雄 (90分) 10:45-12:15	昼休憩(60分)	「いじめの問題に関する研修の企画・運営・評価」 教職員支援機構 研修プロフェッサー (90分) 13:15-14:45	講義・協議 「いじめの問題に関する研修の企画・運営・評価」 教職員支援機構 研修プロフェッサー (90分) 13:15-14:45	講義・協議 「いじめの問題に関する研修の企画・運営・評価」 教職員支援機構 研修プロフェッサー (90分) 13:15-14:45	講義・協議 「いじめの問題に関する研修の企画・運営・評価」 教職員支援機構 研修プロフェッサー (90分) 13:15-14:45	閉講式 20分		
5/10	受付	「いじめの問題に関するマネジメントの推進(1)」 日本大学 教授 藤平 敦 (90分) 9:00-10:30	休憩	「いじめの問題に関するマネジメントの推進(2)」 日本大学 教授 藤平 敦 (90分) 10:45-12:15	昼休憩(60分)							

## I 研修概要

研修名	いじめの問題に関する指導者養成研修（仙台会場）							
担当グループ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研修目的	いじめ防止対策推進法（平成25年）において、いじめは、すべての児童生徒に関わる問題であるとしている。そして、いじめの防止等の対策は、1）いじめられた児童生徒の心身に深刻な影響を及ぼす許されない行為であることについて、児童生徒が十分に理解できるようにすること、2）いじめを受けた児童生徒の生命・心身を保護するため、関係諸機関が緊密に連携することとしている。これらのことを、組織的かつ総合的に取り組むことで、問題の根絶をめざしている。 本研修では、学校が組織的にいじめの未然防止および早期発見に取り組むことで、上記の目的を達成するには、1）いじめの問題に関する諸課題の改善に専門的知見を活用し、組織的な取組を推進する力、2）学校、地域の教職員の専門性向上を推進する力、を習得した指導者の養成を図る。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者</li> <li>・小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭</li> <li>・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生（教職経験のある者に限る）</li> </ul>							
開催期日	令和元年9月17日（火）～令和元年9月20日（金）					4日間		
受講人数	標準定員 (計画人数)	80	人	受講者数	58	人	参加率	72.5%
開催場所	フォレスト仙台（宮城県仙台市）							

※ 全体標準定員 360人、受講者数 397人、参加率 110.3%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	54	4	0	0	0	0	58
割合 (%)	93.1	6.9	0.0	0.0	0.0	0.0	
	58	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段なかなか話を聞くことができない講師の先生方からたくさんの貴重な話を伺うことができました。自分の今の立場で参考になること、現場に戻って即実践できることがたくさんあり、多くの学びを得ました。</li> <li>・いじめについて、様々な視点から講義頂いたり、他校種・他県の先生方とワークショップをしたりすることができ、学びが多くありました。勤務校や勤務校のある地区で、少しでも多くの学びを伝講できるように、事後の振り返りをがんばりたい。</li> <li>・「いじめ」対応に特化した内容で、とても深く学ぶことができた。組織、ネット、保護者対応等、いじめに関する内容を様々な観点から考え、意見を交わし合えたことが、大変有意義だった。</li> <li>・今までいじめ問題対応について理解していなかったことを痛感した。しかし、この4日間の研修のおかげで改めていじめ対応を組織で行うことの大切さを中心に多くを学んだ。これからも教員の人間関係や子どもへの教育的愛情を大切に教育に携わって、学んだことを広めていきたいと思います。</li> <li>・できれば、パワーポイントの資料、全ての講義分頂きたいです。</li> <li>・「いじめ問題の組織的な取り組みの考え方と実践」が時間が少し不足しているように感じた。また、「法を踏まえたいじめの問題への対応」の法についての説明が、他の講師と重複していたので改善できるかもしれない。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「いじめの問題に関する保護者との連携、信頼関係構築の在り方」ではロールプレイの演習を行なった。</li> <li>・4会場すべての研修期間を4日間に統一し、全会場で同一内容の研修を実施した。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめの定義や四層構造についての説明が重複しないように調整する。</li> <li>・「いじめの問題に関する保護者との連携、信頼関係構築の在り方」ではロールプレイの演習を行なったが、時間配分に課題があったため、適切な演習時間を確保する。</li> <li>・研修内容について、引き続き「未然防止」に焦点を当てつつ、「早期発見～適切な対応」の部分にも十分に触れることとする。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

# 令和元年度 いじめの問題に関する指導者養成研修(仙台会場) 日程表

	8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	12:00	13:00	14:00	14:15	15:15	15:30	17:00
9/17		受付 (30分)	オリエンテーション (30分)	休憩 20分	開講式 20分	「いじめの問題に関する現状と取組」 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 課長 大濱 健志 (90分) 10:30-12:00	昼休憩(60分)	「いじめの問題の捉え方」 (1) 専門教育大学 特任教授 森田 洋司 (60分) 13:00-14:00	休憩	「いじめの問題の捉え方」 (2) 専門教育大学 特任教授 森田 洋司 (60分) 14:15-15:15	休憩	協議 「いじめの問題への組織的取組 に関する課題の分析」 教職員支援機構 研修プロフェッサー (90分) 15:30-17:00
9/18	受付		「いじめの問題への組織的な取組の 考え方と実践(1)」 関西外国語大学 教授 新井 肇 (90分) 9:00-10:30	「いじめの問題への組織的な取組の 考え方と実践(2)」 関西外国語大学 教授 新井 肇 (90分) 10:45-12:15	昼休憩(60分)	「法を踏まえたいじめの問題への対応」 (1) 弁護士 戸田 重蔵 (90分) 13:15-14:45	「法を踏まえたいじめの問題への対応」 (2) 弁護士 戸田 重蔵 (90分) 15:00-16:30	休憩				「法を踏まえたいじめの問題への対応」 (2) 弁護士 戸田 重蔵 (90分) 15:00-16:30
9/19	受付		「ネットいじめの未然防止及び解決に 向けた指導と対応(1)」 兵庫県立大学 准教授 竹内 和雄 (90分) 9:00-10:30	「ネットいじめの未然防止及び解決に 向けた指導と対応(2)」 兵庫県立大学 准教授 竹内 和雄 (90分) 10:45-12:15	昼休憩(60分)	「いじめの問題に関する保護者との連 携、信頼関係構築の在り方(1)」 日本社会福祉会 前副会長 愛沢 隆一 (90分) 13:15-14:45	「いじめの問題に関する保護者との連 携、信頼関係構築の在り方(2)」 日本社会福祉会 前副会長 愛沢 隆一 (90分) 15:00-16:30	休憩				「いじめの問題に関する保護者との連 携、信頼関係構築の在り方(2)」 日本社会福祉会 前副会長 愛沢 隆一 (90分) 15:00-16:30
9/20	受付		「いじめの問題に関するマネジメント の推進(1)」 日本大学 教授 藤平 敦 (90分) 9:00-10:30	「いじめの問題に関するマネジメント の推進(2)」 日本大学 教授 藤平 敦 (90分) 10:45-12:15	昼休憩(60分)	「いじめの問題に関する研修の企画・ 運営・評価」 教職員支援機構 研修プロフェッサー (90分) 13:15-14:45	閉講式 20分	休憩				

## I 研修概要

研修名	いじめの問題に関する指導者養成研修（京都会場）							
担当グループ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研修目的	いじめ防止対策推進法（平成25年）において、いじめは、すべての児童生徒に関わる問題であるとしている。そして、いじめの防止等の対策は、1）いじめられた児童生徒の心身に深刻な影響を及ぼす許されない行為であることについて、児童生徒が十分に理解できるようにすること、2）いじめを受けた児童生徒の生命・心身を保護するため、関係諸機関が緊密に連携することとしている。これらのことを、組織的かつ総合的に取り組むことで、問題の根絶をめざしている。 本研修では、学校が組織的にいじめの未然防止および早期発見に取り組むことで、上記の目的を達成するには、1）いじめの問題に関する諸課題の改善に専門的知見を活用し、組織的な取組を推進する力、2）学校、地域の教職員の専門性向上を推進する力、を習得した指導者の養成を図る。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者</li> <li>小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭</li> <li>当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生（教職経験のある者に限る）</li> </ul>							
開催期日	令和元年6月3日（月）～令和元年6月6日（木）					4日間		
受講人数	標準定員 (計画人数)	80	人	受講者数	126	人	参加率	157.5%
開催場所	京都テルサ（京都府京都市）							

※ 全体標準定員 360 人、受講者数 397 人、参加率 110.3%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	110	15	0	0	0	1	126
割合 (%)	88.0	12.0	0.0	0.0	0.0	0.8	
	125						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・いじめ問題に関わることを基本的な事から応用まで、また幅広い内容が網羅されており、体系的に学ぶことができた。
- ・意見交換をはさみながら進むことで、悩みを共有したりヒントを得たり理解がより深まったりしました。
- ・ネットいじめや保護者対応など具体的で、明日からでもすぐに実践できそうな内容ばかりだった。学校全体で職員が学びを深めねばならない必要性を強く感じたので、校内研修では是非活用していきたい。
- ・最新の情報や知見を得ることができました。研修のモデルとしても大きな学びをさせていただきました。
- ・講師の先生方の人選が大変に素晴らしいと思います。先生方から大きく知識、そしてたくさんの刺激を頂きました。
- ・講義・グループ協議などが適切に配分されていて、学びやすい流れに企画されていた。
- ・いじめに関して理解が深まる内容で良かったが、授業改善（未然防止）や学級経営より、いじめの早期発見～適切な対応の方を更に詳しく知りたかった。
- ・指導・研修していくにあたってのプレゼン方法やスキルアップできる講座もあれば、更に充実すると思う。

## III 研修内容・方法の見直し等

### 前年度を踏まえ

- ・「いじめの問題に関する保護者との連携、信頼関係構築の在り方」ではロールプレイの演習を行なった。
- ・4会場すべての研修期間を4日間に統一し、全会場で同一内容の研修を実施した。

### 次年度に向けて

- ・いじめの定義や四層構造についての説明が重複しないように調整する。
- ・「いじめの問題に関する保護者との連携、信頼関係構築の在り方」ではロールプレイの演習を行なったが、時間配分に課題があったため、適切な演習時間を確保する。
- ・研修内容について、引き続き「未然防止」に焦点を当てつつ、「早期発見～適切な対応」の部分にも十分に触れることとする。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

# 令和元年度 いじめの問題に関する指導者養成研修(京都会場) 日程表

8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	12:00	13:00	14:00	14:15	15:15	15:30	17:00
6/3	受付 (30分)	オリエンテーション	休憩 20分	「いじめの問題に関する現状と取組」 講義 文部科学省 (90分) 10:30-12:00	昼休憩(60分)	「いじめの問題の捉え方」 講義 鳴門教育大学 特任教授 森田 洋司 (60分) 13:00-14:00	休憩	「いじめの問題の捉え方」 講義 鳴門教育大学 特任教授 森田 洋司 (60分) 14:15-15:15	休憩	「いじめの問題への組織的取組 協議 に関する課題の分析」 教職員支援機構 研修プロデューサー 愛媛大学 名誉教授 平松 義樹 (90分) 15:30-17:00	
6/4	受付	「いじめの問題への組織的な取組の 考え方と実践(1)」 愛媛大学 名誉教授 平松 義樹 (90分) 9:00-10:30	休憩	「いじめの問題への組織的な取組の 考え方と実践(2)」 愛媛大学 名誉教授 平松 義樹 (90分) 10:45-12:15	昼休憩(60分)	「法を踏まえたいじめの問題への対応」 講義・協議 (1) 弁護士 鬼澤 秀昌 (90分) 13:15-14:45	休憩	「法を踏まえたいじめの問題への対応」 講義・協議 (2) 弁護士 鬼澤 秀昌 (90分) 15:00-16:30	休憩	「法を踏まえたいじめの問題への対応」 講義・協議 (2) 弁護士 鬼澤 秀昌 (90分) 15:00-16:30	≡ーテイニング(20分)
6/5	受付	「ネットいじめの未然防止及び解決に 向けた指導と対応(1)」 兵庫県立大学 准教授 竹内 和雄 (90分) 9:00-10:30	休憩	「ネットいじめの未然防止及び解決に 向けた指導と対応(2)」 兵庫県立大学 准教授 竹内 和雄 (90分) 10:45-12:15	昼休憩(60分)	「いじめの問題に関する保護者との連 携、信頼関係構築の在り方(1)」 神田外語大学 客員教授 嶋崎 政男 (90分) 13:15-14:45	休憩	「いじめの問題に関する保護者との連 携、信頼関係構築の在り方(2)」 神田外語大学 客員教授 嶋崎 政男 (90分) 15:00-16:30	休憩	「いじめの問題に関する保護者との連 携、信頼関係構築の在り方(2)」 神田外語大学 客員教授 嶋崎 政男 (90分) 15:00-16:30	≡ーテイニング(20分)
6/6	受付	「いじめの問題に関するマネジメント の推進(1)」 日本大学 教授 藤平 敦 (90分) 9:00-10:30	休憩	「いじめの問題に関するマネジメント の推進(2)」 日本大学 教授 藤平 敦 (90分) 10:45-12:15	昼休憩(60分)	「いじめの問題に関する研修の企画・ 運営・評価」 教職員支援機構 研修プロデューサー (90分) 13:15-14:45	休憩	閉講式 20分	休憩		

## I 研修概要

研 修 名	いじめの問題に関する指導者養成研修（福岡会場）							
担 当 課 グ ル ー プ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研 修 目 的	<p>教員は、児童生徒の命を奪うことにもなるいじめの問題と向き合い、その未然防止及び早期発見と指導に努め、問題の根絶を目指さなければならない。</p> <p>本研修においては、法律及び国の基本方針への理解を深め、特にネットいじめへの対応や保護者との連携の在り方等について学び合うことを通して、組織を育てマネジメントを行う力を身につけた指導者の養成を図る。</p>							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会や教育センター等でいじめの問題を担当する指導主事及びこれに準じる者</li> <li>・小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、教諭であって、各地域において本研修の内容を踏まえた研修の企画・運営又は講師等としての活動を行う（予定を含む）者</li> <li>・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生</li> </ul>							
開 催 期 日	令和元年5月21日（火）～令和元年5月24日（金）			4日間				
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	80	人	受講者数	106	人	参加率	132.5%
開 催 場 所	南近代ビル貸会議室（福岡県福岡市）							

※ 全体標準定員 360 人、受講者数 397 人、参加率 110.3%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	96	8	0	0	0	2	106
割合 (%)	92.3	7.7	0.0	0.0	0.0	1.9	
	104	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な観点から「いじめ」について方策を学習することができた。</li> <li>・いじめの定義・いじめの認知と考え方・組織的な取組の考え方・法を踏まえたいじめの問題への対応・未然防止についてなど、理論的・体系的に学べてよかった。</li> <li>・いじめ問題に関する課題を整理することができ、いじめの問題を組織に取組、切り口を自分の中でつかむことができた。</li> <li>・つかむ・深める・生かす、という流れの中でとても理解が深まり、そして、この後、研修だけでなく学校で生かそうという意欲が高まった。</li> <li>・講師の皆様の過去の実体験を聞かせていただくことで、説得力のある内容となり、自校の状況と比較しながら話を聞くことができました。</li> <li>・グループ協議が取り入れられ、様々な地域や校種の先生方と意見交換等ができてよかった。グループ編成も時々替えられ、多くの先生方と交流できた。</li> <li>・講義内容が多岐に渡り良かった。ただ、内容が重なる点や、テーマから外れた講義内容（一部）があった。</li> <li>・時間オーバーが目立ったので、時間内に終わるとよかったですが、1コマのボリュームから考えると、やむを得ない部分もあるかもしれません。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「いじめの問題に関する保護者との連携、信頼関係構築の在り方」ではロールプレイの演習を行なった。</li> <li>・4会場すべての研修期間を4日間に統一し、全会場で同一内容の研修を実施した。</li> </ul> <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめの定義や四層構造についての説明が重複しないように調整する。</li> <li>・「いじめの問題に関する保護者との連携、信頼関係構築の在り方」ではロールプレイの演習を行なったが、時間配分に課題があったため、適切な演習時間を確保する。</li> <li>・研修内容について、引き続き「未然防止」に焦点を当てつつ、「早期発見～適切な対応」の部分にも十分に触れることとする。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

# 令和元年度 いじめの問題に関する指導者養成研修(福岡会場) 日程表

	8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	12:00	13:00	14:00	14:15	15:15	15:30	17:00
5/21			受付 (30分)	オリエンテーション	休憩 20分	「いじめの問題に関する現状と取組」 講義 文部科学省 (90分) 10:30-12:00	昼休憩(60分)	「いじめの問題の捉え方」 (1) 専門教育大学 特任教授 森田 洋司 (60分) 13:00-14:00	休憩	「いじめの問題の捉え方」 (2) 専門教育大学 特任教授 森田 洋司 (60分) 14:15-15:15	休憩	「いじめの問題への組織的取組」 協義 教職員支援機構 研修プロフェッサー 愛媛大学 名誉教授 平松 義樹 (90分) 15:30-17:00
5/22	受付			「いじめの問題への組織的な取組の考え方と実践(1)」 愛媛大学 名誉教授 平松 義樹 (90分) 9:00-10:30	休憩	「いじめの問題への組織的な取組の考え方と実践(2)」 愛媛大学 名誉教授 平松 義樹 (90分) 10:45-12:15	昼休憩(60分)	「法を踏まえたいじめの問題への対応」 (1) 弁護士 戸田 恵蔵 (90分) 13:15-14:45	講義・協義 「法を踏まえたいじめの問題への対応」 (2) 弁護士 戸田 恵蔵 (90分) 15:00-16:30	休憩	「法を踏まえたいじめの問題への対応」 (2) 弁護士 戸田 恵蔵 (90分) 15:00-16:30	≡ーティング(20分)
5/23	受付			「ネットいじめの未然防止及び解決に向けた指導と対応(1)」 専門教育大学 教授 阪根 健二 (90分) 9:00-10:30	休憩	「ネットいじめの未然防止及び解決に向けた指導と対応(2)」 専門教育大学 教授 阪根 健二 (90分) 10:45-12:15	昼休憩(60分)	「いじめの問題に関する保護者との連携、信頼関係構築の在り方(1)」 神田外語大学 客員教授 嶋崎 政男 (90分) 13:15-14:45	講義・協義 「いじめの問題に関する保護者との連携、信頼関係構築の在り方(2)」 神田外語大学 客員教授 嶋崎 政男 (90分) 15:00-16:30	休憩	「いじめの問題に関する保護者との連携、信頼関係構築の在り方(2)」 神田外語大学 客員教授 嶋崎 政男 (90分) 15:00-16:30	≡ーティング(20分)
5/24	受付			「いじめの問題に関するマネジメントの推進(1)」 日本大学 教授 藤平 敦 (90分) 9:00-10:30	休憩	「いじめの問題に関するマネジメントの推進(2)」 日本大学 教授 藤平 敦 (90分) 10:45-12:15	昼休憩(60分)	「いじめの問題に関する研修の企画・運営・評価」 教職員支援機構 研修プロフェッサー (90分) 13:15-14:45	講義・協義 「いじめの問題に関する研修の企画・運営・評価」 教職員支援機構 研修プロフェッサー (90分) 13:15-14:45	閉講式 20分	休憩	



## I 研修概要

研 修 名	外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修									
担 当 課 グ ル ー プ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室									
研 修 目 的	日本語指導が必要な児童生徒等の増加等を踏まえ、学校教育法施行規則が改正され、日本語の能力に応じた特別の指導を行うための特別の教育課程を編成し、実施することが可能となった。新学習指導要領において「海外から帰国した児童生徒や外国人の児童生徒の指導」の重要性が示されている。さらに、「出入国管理及び難民認定法」が平成30年に改正され、日本語指導が必要な児童生徒等が今後さらに増加することが予想される。このような実態を踏まえ、児童生徒等の実態に応じた適応指導・日本語指導を関係機関と連携し、受入れ体制を整備するなど、組織的・計画的に学校、地域全体で行うことを指導できる教職員の専門性を高める必要がある。 本研修では、新学習指導要領に基づいて、地方公共団体や学校全体での外国人児童生徒等の受入れ体制の整備、関係機関との連携、特別な教育課程の編成や通級による指導を含めた日本語指導の方法等について、必要な知識等を習得する。さらに本研修後の成果活用を通して、1) 外国人児童生徒等に対する教育の推進に専門的知見を活用し、組織的な取組を推進する力、2) 学校や地域において研修を企画・実施し、学校、地域の教職員の専門性向上を推進する力、を習得した指導者の養成を図る。									
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの外国人児童生徒等教育担当者並びにこれらに準じる者</li> <li>・外国人児童生徒等に対する日本語指導等について経験を有する小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校等の主幹教諭、指導教諭及び教諭等であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者として活動を行う者</li> <li>・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生</li> </ul>									
開 催 期 日	令和元年6月18日（火）～令和元年6月21日（金）					4日間				
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	124	人	参加率	124.0%		
開 催 場 所	三重県総合教育センター（三重県津市）									

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	108	14	1	0	1	0	124
割合 (%)	87.1	11.3	0.8	0.0	0.8	0.0	
	122	98.4					

2. 研修内容に関する主な意見

・様々な講座を受けて、基礎的なことから先進地域の教育まで知ることができた。  
 ・理論だけでなく実践例、また、自分やグループで考えて、実際にすぐ使える、役立てることができる内容だった。  
 ・実践的な内容や各種資料提供は、今後活用できるため良かった。  
 ・グループ協議の時間を設定していただいたので、他地方の様子がよく分かりました。  
 ・どの研修も内容がすばらしかった。また、90分で各研修がまとまっていたことも良かった。  
 ・講師の方々がお互いの内容を把握しており、つながりのあるものであった。  
 ・すばらしい内容ばかりだが、やや消化不良の感がある。  
 ・コースに分かれましたが、事前に自分に必要なコースを選ぶことがよく分からず難しかったので、できればコース別ではなく、全部の内容を研修したかった。

## III 研修内容・方法の見直し等

**前年度を踏まえ**

- ・各地域で中核となって活躍する指導者養成に焦点化するため、従来の2コース制を廃止し、一本化した。
- ・研修成果の活用を促進するため、事前に研修成果活用計画書を事前課題として課し、研修プラン作成の演習を充実させた。

**次年度に向けて**

- ・実施県の三重県の特徴がより一層出せるように、実践先進校の視察を取り入れる。
- ・日本語と教科の指導・支援について、内容を整理する。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

令和元年度 外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修  
日程表

		9:30	10:00	10:30	11:10	11:20	12:45	13:45	15:15	15:30	17:00
6月18日(火)	受付	開講式・オリエンテーション	<b>講義1</b> <b>「外国人児童生徒等に対する教育の最新の動向」</b> 文部科学省 男女共同参画共生社会学習・安全課長 三好 圭 目的： ・外国人児童生徒等に対する教育行政の最新の動向について理解を深める。 ・新学習指導要領の趣旨の理解を深める。	休憩	<b>講義・協議</b> <b>研修プランを作成する上での課題の明確化</b> 京都教育大学 教授 浜田 麻里 目的： ・本研修の目的と内容について理解する。 ・各自の地域や学校における外国人児童生徒等教育の現状と推進上の課題について分析・把握し、各組織で必要な研修について考える。	昼食・休憩	<b>講義2</b> <b>「外国人児童生徒等教育の考え方」</b> 明治大学 特任教授 佐藤 都衛 目的： 外国人児童生徒等教育の課題と求められる視点について理解を深める。	休憩	<b>講義3</b> <b>「教育委員会・学校・学級の受け入れ体制」</b> 目白大学 専任講師 近田 由紀子 目的： 新学習指導要領を踏まえて、組織的かつ計画的に行う指導について、「外国人児童生徒受け入れの手引き」をもとに理解を深める。		

		8:45	9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	17:00
6月19日(水)	受付	<b>講義・演習1</b> <b>「外国人児童生徒等の心身の発達と学習の過程」</b> 慶應義塾大学 教授 今井 むつみ 目的： 認知発達と言語習得、母語・母文化・アイデンティティ、外国人児童生徒等の心理と適応について学ぶ。	休憩	<b>講義・演習2</b> <b>「日本語指導の理論と方法」</b> 東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ 目的： ・日本語指導の基本的な考え方と指導内容・方法について理解を深める。 ・児童生徒の多様性に応じた「個別の指導計画」作成の必要性について学ぶ。	昼食・休憩	実践発表・協議 ※ A～Dコースの中から各自選択したコースで学ぶ。 「先進事例から学ぶ」 コーディネーター 三重大学教育学部 准教授 服部 明子 【Aコース】「受け入れの子どもへの教育」 松阪市教育委員会事務局学校支援課 指導主事 中谷 優一 松阪市立徳和小学校 教諭 濱井 洋子 松阪市教育委員会事務局学校支援課 人権教育係長 西山 直希 【Bコース】「キャリア教育と社会参画」 三重県立飯野高等学校 教諭 澤口 哲弥 三重県立石薬師高等学校 教諭 古川 真由美 【Cコース】「外国人児童生徒等受け入れの現状と施策」 津市教育委員会事務局人権教育課 副主幹 浅井 美代 三重県教育委員会事務局人権教育課 指導主事 大西 依子 【Dコース】「地域の支援ネットワーク」 公益財団法人三重県国際交流財団 専門員 猪狩 英美 三重県教育委員会事務局職員 目的： 「受け入れの子どもへの教育」「キャリア教育と社会参画」「外国人児童生徒等受け入れの現状と施策」「地域の支援ネットワーク」に関する実践先進校等の発表から、具体的に学び、地域や学校の課題解決を考える。		

		8:45	9:00	12:30	13:30	17:00
6月20日(木)	受付	<b>講義・演習3</b> <b>「日本語と教科の指導・支援」</b> ※ a～eコースの中から各自選択したコースで学ぶ。午後からも同様に別のコースで学ぶ。 【aコース】 港区立筈（こうがい）小学校 教諭 花島 健司 愛知教育大学 准教授 川口 直巳 【bコース】 東京外国語大学大学院 教授 菅長 理恵 広島大学大学院 准教授 櫻井 千穂 【cコース】 豊橋市教育委員会 外国人児童生徒教育相談員 築穂 博子 豊橋市立豊岡中学校 教諭 松波 良宏 目的： a：「個別の指導計画」の作成を通して、特別的教育課程としての日本語指導実施の必要性や指導計画作成上の留意点等について理解を深める。 b：言語能力測定ツール「DLA」の実施方法と結果の活用について学ぶ。 c：「日本語基礎」プログラムの具体的な指導方法について、学習指導案の作成を通して学ぶ。 d：「日本語と教科の統合学習」プログラムの具体的な指導方法について、学習指導案の作成を通して学ぶ。 e：在籍学級における指導・支援の具体的な工夫について学習指導案の作成を通して学ぶ。	休憩	昼食・休憩	休憩	

		8:45	9:00	12:15	12:30
6月21日(金)	受付	<b>講義・演習4</b> <b>「研修成果の活用に向けて」</b> 京都教育大学 教授 浜田 麻里 三重県教育委員会事務局職員 目的： 研修成果を活用して各自の組織での実施を想定した研修プランを作成し、外国人児童生徒等に対する教育を推進するリーダーとしての自覚を深める。	休憩	閉講式	

※日程等については変更することがあります。

## I 研修概要

研修名	外国語指導助手研修(来日直後オリエンテーション)						
担当課	つくば中央研修センター 研修プロデュース室						
研修目的	我が国の外国語教育を推進し、国際社会に生きる子供達を育成するため、全国の外国語指導助手（ALT）に対して、日本の外国語教育等について適切に理解し、各学校において一層効果的な職務遂行ができるようにするために必要な知識等を習得させる。（JETプログラムにより日本に招致した外国語指導助手（ALT）に対する来日直後オリエンテーション（一般財団法人自治体国際化協会主催）の一環として実施）						
受講対象	総務省・外務省・文部科学省の協力の下に実施しているJETプログラムにより招致した外国語指導助手（ALT）						
開催期日	(4月期) 平成31年4月15日 (月)					1日間	
	(A日程) 令和元年7月29日 (月)					1日間	
	(B日程) 令和元年8月5日 (月)					1日間	
	(第2次) 令和元年8月19日 (月)					1日間	
受講人数	定員 (計画人数)	4月期	1,600人	受講者数	1,854人	参加率	—
		A日程					—
		B日程					—
		第2次					—
	計	1,600人	計	1,854人	計	115.9%	
開催場所	4月期=ルポール麹町（東京都千代田区） A日程、B日程、第2次=京王プラザホテル（東京都新宿区）						

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった				あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義							
人数 (人)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
割合 (%)	—	—	—	—	—	—	—	—	—

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の教育制度がこれまでどのように英語を教えてきて、今後どのように変化していくかを知ることができた。</li> <li>（特別支援教育の説明では）特別支援を必要とする子どもたちが授業に積極的に参加するための様々な技術について学ぶことは、印象的で今後の励みになりました。</li> <li>（模擬授業を体験して）ALTとして自分に何が期待されているか、どのような授業をするべきかがよくわかった。</li> <li>授業の作り方や発表の仕方など、様々な学びやアイデアをもらいました。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運営面について、受講者の要望に対応できるよう、自治体国際化協会と文部科学省との情報共有を積極的に行った。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運営面について、受講者の要望に対応できるよう、引き続き自治体国際化協会と文部科学省との情報共有を積極的に行い、効率のかつ円滑に運営していく必要がある。</li> <li>新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

**2019 Post-Arrival Orientation (April) Schedule**  
**2019年度来日直後オリエンテーション（4月）開催日程**

Time / 時間	Content / 内容						Location / 場所
7:00 - 8:30	Breakfast / 朝食						Emerald エメラルド
9:00 - 9:20	Opening Ceremony / 開会式						Marble マーブル
9:20 - 9:35	Break for moving between rooms / 移動						
Time	ALT Workshops (English)	Location	中国語圏ALT分科会	場所	時間	CIR分科会	場所
9:35 - 10:20	Keynote Speech	Sapphire サファイア	基調演説※通訳	Sapphire サファイア	9:35 - 10:20	基調演説	Ruby ルビー
10:20 - 10:35	Break / 休憩						
10:35 - 11:15	JET Programme Essential Information and Disaster Preparedness	Sapphire サファイア	JETプログラムに関する重要事項の説明と防災について(日本語)	Ruby ルビー	10:35 - 11:15	JETプログラムに関する重要事項の説明と防災について(日本語)	Ruby ルビー
11:15 - 11:20	Japanese Law	Sapphire サファイア	日本の法律について(日本語)	Ruby ルビー	11:15 - 11:20	日本の法律について(日本語)	Ruby ルビー
11:20 - 12:35	Lunch / 昼食						Marble マーブル
12:35 - 13:20	Maintaining Your Mental Health	Sapphire サファイア	メンタルヘルスクエア 英語圏ALT分科会参加 ※通訳	Sapphire サファイア	12:35 - 13:55	CIRとしての基礎スキル 「翻訳」	中国語 Ruby ルビー 韓国語 Lescale レスカル ポルトガル語 Garnetガーネット スペイン語 Topaz トパーズ 英語 Sango 珊瑚
13:20 - 13:35	Break / 休憩						
13:35 - 14:10	MEXT Foreign Language Education in Japan	Sapphire サファイア	文部科学省 学習指導要領の説明 英語圏ALT分科会参加 ※通訳	Sapphire サファイア	14:15 - 15:35	CIRとしての基礎スキル 「通訳」	中国語 Ruby ルビー 韓国語 Lescale レスカル ポルトガル語 Garnetガーネット スペイン語 Topaz トパーズ 英語 Sango 珊瑚
14:10 - 15:20	MEXT Special Needs Education in Japan	Sapphire サファイア	文部科学省 特別支援教育の現状 英語圏ALT分科会参加 ※通訳	Sapphire サファイア			
15:20 - 15:35	Break / 休憩						
15:35 - 16:50	MEXT Team-Teaching Demonstration and Effective Lesson Planning (JHS/SHS)	Sapphire サファイア	文部科学省 チーム・ティーチングデモンストレーションと効果的な授業計画 (中国ALT向け)	Topaz トパーズ	15:50 - 16:50	CIR業務について 「イベント企画・実施」	Ruby ルビー
	MEXT Team-Teaching Demonstration and Effective Lesson Planning (ES)	Garnet ガーネット					
16:50 - 18:30	Break / 休憩						
18:30 - 20:00	Welcome Reception / 歓迎夕食会						Marble マーブル
7:00 - 8:30	Breakfast / 朝食						Marble マーブル
Time	ALT Workshops (English)	Location	中国語圏ALT分科会	場所	時間	CIR分科会	場所
9:00 - 10:00	Useful Information for ALTs (ES/JHS)	Sapphire サファイア	ALTのための役立つ情報(高校) (英語圏ALT分科会参加※通訳)	Sapphire サファイア	9:00 - 9:30	メンタルヘルスクエア	Ruby ルビー
	Useful Information for ALTs (SHS)	Garnet ガーネット					
10:00 - 10:15	Break / 休憩						
10:15 - 11:00	MEXT Workshop ① (JHS/SHS)	Sapphire サファイア	文部科学省分科会 ① (中国ALT向け)	Topaz トパーズ	9:45 - 10:55	CIRとしての基礎スキル 「日本のビジネスマナーの基礎」	Ruby ルビー
	MEXT Workshop ① (ES)	Garnet ガーネット					
11:00 - 11:15	Break / 休憩						
11:15 - 12:00	MEXT Workshop ② (JHS/SHS)	Sapphire サファイア	文部科学省分科会 ② (中国ALT向け)	Topaz トパーズ	11:10 - 12:00	CIRとしての基礎知識 「地方自治体の行政機構」	Ruby ルビー
	MEXT Workshop ② (ES)	Garnet ガーネット					
12:00 - 13:15	Lunch / 昼食						Marble マーブル
13:15 - 14:00	MEXT Workshop ③ (JHS/SHS)	Sapphire サファイア	文部科学省分科会 ③ (中国ALT向け)	Topaz トパーズ	13:15 - 14:05	CIR業務について 「学校訪問」	Ruby ルビー
	MEXT Workshop ③ (ES)	Garnet ガーネット					
14:00 - 14:15	Break / 休憩						
14:15 - 15:00	MEXT Workshop ④ (JHS/SHS)	Sapphire サファイア	文部科学省分科会④ (中国ALT向け)	Topaz トパーズ	14:15 - 15:05	CIRとしての基礎知識 「外国語講座」	Ruby ルビー
	MEXT Workshop ④ (ES)	Garnet ガーネット					
15:00 - 15:15	Break / 休憩						
15:15 - 16:30	Panel Discussion (ES/JHS)	Sapphire サファイア	先輩からのアドバイス (中国ALT向け)	Topaz トパーズ	15:20 - 16:30	パネルディスカッション	Ruby ルビー
	Panel Discussion (SHS)	Lescale レスカル					
16:30 - 16:45	Break / 休憩						
16:45 - 17:35	Host Prefecture/Designated City Meeting / 取りまとめ団体別ミーティング						Marble & Garnet マーブル・ガーネット
17:35 - 17:45	Survey Completion & Submission / アンケート記入・提出						
6:45 - 9:00	Breakfast / 朝食						Marble マーブル
~11:00	Departure for Host Prefecture/Designated City / 出発						

**2019 Post-Arrival Orientation (July & August) Schedule**  
**2019年度来日直後オリエンテーション (7月・8月) 開催日程(案)**

Time / 時間	Content / 内容		Location / 場所		
7:00 - 8:30	Breakfast / 朝食		Hana, Main 4F Eminence, South 5F		
9:00 - 9:20	Opening Ceremony / 開会式		Concord, Main 5F		
9:20 - 9:35	Break for moving between rooms / 移動				
Time	ALT Workshops	Location	時間	CIR分科会	場所
9:35 - 10:20	Keynote Speech	Concord, Main 5F	9:35 - 10:20	基調演説	Starlight, Main 43F
10:20 - 10:35	Break		10:20 - 10:35	休憩	
10:35 - 11:20	JET Programme Essential Information, Disaster Preparedness and Japanese Law	Concord, Main 5F	10:35 - 11:20	JETプログラムに関する重要事項の 説明と防災・日本の法律について	Starlight, Main 43F
11:20 - 12:35	Lunch / 昼食			Hana, Main 4F Eminence, South 5F	
12:35 - 13:20	Maintaining Your Mental Health	Concord, Main 5F	12:35 - 13:55	CIRとしての基礎スキル 「翻訳」	Starlight, Main 43F
13:20 - 13:35	Break		13:55 - 14:15	休憩	
13:35 - 14:10	MEXT Foreign Language Education in Japan	Concord, Main 5F	14:15 - 15:35	CIRとしての基礎スキル 「通訳」	Starlight, Main 43F
14:10 - 15:20	MEXT Special Needs Education in Japan				
15:20 - 15:35	Break		15:35 - 15:50	休憩	
15:35 - 16:50	MEXT Team-Teaching Demonstration and Effective Lesson Planning		15:50 - 16:50	CIR業務について 「学校訪問・外国語講座」	Starlight, Main 43F
	ES (Class 1)	Ohgi, South 4F			
	JHS (Class 2)	Hana A, Main 4F			
	JHS (Class 3)	Hana B, Main 4F			
	JHS (Class 4)	Hana C, Main 4F			
	SHS (Class 5)	Hana D, Main 4F			
SHS (Class 6)	Nishiki, South 4F				
16:50 - 18:30	Break / 休憩				
18:30 - 20:00	Welcome Reception / 歓迎夕食会			Concord, Main 5F	
7:00 - 8:30	Breakfast / 朝食		Hana, Main 4F Eminence, South 5F		
Time	ALT Workshops (English)	Location	時間	CIR分科会	場所
9:00 - 10:00	Useful Information for ALTs		9:00 - 9:30	メンタルヘルスケア	Starlight, Main 43F
	ES & JHS (Class A)	Concord AB, Main 5F			
	Public SHS (Class B)	Concord C, Main 5F			
Private School (Class C)	Ohgi, South 4F				
10:00 - 10:15	Break		9:30 - 9:45	休憩	
10:15 - 11:00	MEXT Workshop ①		9:45 - 10:55	CIRとしての基礎スキル 「日本のビジネスマナーの基礎」	Starlight, Main 43F
	ES (Class 1)	Ohgi, South 4F			
	JHS (Class 2)	Hana A, Main 4F			
	JHS (Class 3)	Hana B, Main 4F			
	JHS (Class 4)	Hana C, Main 4F			
	SHS (Class 5)	Hana D, Main 4F			
SHS (Class 6)	Nishiki, South 4F				
11:00 - 11:15	Break		10:55 - 11:10	休憩	
11:15 - 12:00	MEXT Workshop ②		11:10 - 12:00	CIRとしての基礎知識 「地方自治体の行政機構」	Starlight, Main 43F
	ES (Class 1)	Ohgi, South 4F			
	JHS (Class 2)	Hana A, Main 4F			
	JHS (Class 3)	Hana B, Main 4F			
	JHS (Class 4)	Hana C, Main 4F			
	SHS (Class 5)	Hana D, Main 4F			
SHS (Class 6)	Nishiki, South 4F				
12:00 - 13:15	Lunch / 昼食			Concord, Main 5F Eminence, South 5F	
13:15 - 14:00	MEXT Workshop ③		13:15 - 14:05	CIR業務について 「イベント企画・実施」	Starlight, Main 43F
	ES (Class 1)	Ohgi, South 4F			
	JHS (Class 2)	Hana A, Main 4F			
	JHS (Class 3)	Hana B, Main 4F			
	JHS (Class 4)	Hana C, Main 4F			
	SHS (Class 5)	Hana D, Main 4F			
SHS (Class 6)	Nishiki, South 4F				
14:00 - 14:15	Break		14:05 - 14:15	休憩	
14:15 - 15:00	MEXT Workshop ④		14:15 - 15:05	CIR業務について 「SNSの活用方法」	Starlight, Main 43F
	ES (Class 1)	Ohgi, South 4F			
	JHS (Class 2)	Hana A, Main 4F			
	JHS (Class 3)	Hana B, Main 4F			
	JHS (Class 4)	Hana C, Main 4F			
	SHS (Class 5)	Hana D, Main 4F			
SHS (Class 6)	Nishiki, South 4F				
15:00 - 15:15	Break		15:05 - 15:20	休憩	
15:15 - 16:30	Panel Discussion		15:20 - 16:30	パネルディスカッション	Starlight, Main 43F
	ES & JHS (Class A)	Concord AB, Main 5F			
	Public SHS (Class B)	Concord C, Main 5F			
Private School (Class C)	Hana A, Main 4F				
16:30 - 16:45	Break / 休憩				
16:45 - 17:35	Host Prefecture/Designated City Meeting / 取りまとめ団体別ミーティング			Hana A, Main 4F Nishiki, South 4F	
17:35 - 17:45	Survey Completion & Submission / アンケート記入・提出			Ohgi, South 4F Eminence, South 5F	
17:45 - 20:00	Luggage Collection / 集荷			Hana BCD, Main 4F	
6:00 - 9:00*	Breakfast / 朝食		Concord C, Main 5F*		
	7:00 - 9:00			Eminence, South 5F Nishiki, South 4F	
~ 11:00	Departure for Host Prefecture/Designated City / 出発			Hana, Main 4F Concord AB, Main 5F	

2019 Post-Arrival Orientation (Group G) Schedule  
2019年度来日直後オリエンテーション (G日程) 開催日程(案)

	Time / 時間		Content / 内容				Location / 場所				
	Monday	7:00 - 8:30		Breakfast / 朝食				Takao 42F			
9:00 - 9:20		Opening Ceremony / 開会式				Fuji 42F					
9:20 - 9:35		Break for moving between rooms / 移動									
Time		ALT Workshops	Location	時間	CIR分科会	場所	Time	SEA Workshops	Location		
9:35 - 10:20		Keynote Speech	Fuji 42F	9:35 - 10:20	JETプログラムに関する重要事項の説明と防災・日本の法律について	Musashi 42F	9:35 - 10:20	SEA Duties	Mitake 42F		
10:20 - 10:35		Break		10:20 - 11:35	休憩		10:20 - 10:35	Break			
10:35 - 11:20		JET Programme Essential Information, Disaster Preparedness and Japanese Law	Fuji 42F	10:35 - 11:20	CIRとしての基礎知識「地方自治体の行政機構」	Musashi 42F	10:35 - 11:20	JET Programme Essential Information, Disaster Preparedness and Japanese Law	Fuji 42F		
11:20 - 12:35		Lunch / 昼食				Takao 42F					
12:35 - 13:20		Maintaining Your Mental Health	Fuji 42F	12:35 - 13:55	CIRとしての基礎スキル「翻訳」	Musashi 42F	12:35 - 13:20	Maintaining Your Mental Health	Fuji 42F		
13:20 - 13:35		Break		13:55 - 14:15	休憩		13:20 - 13:30	Break			
13:35 - 14:10		MEXT Foreign Language Education in Japan	Fuji 42F	14:15 - 15:35	CIRとしての基礎スキル「通訳」	Musashi 42F	13:30 - 14:15	SEA Essential Skills	Mitake 42F		
14:10 - 15:20		MEXT Special Needs Education in Japan					14:15 - 14:25	Break			
15:20 - 15:35		Break		15:35 - 15:50	休憩		14:25 - 15:25	Physical Education and Club Sports in Japan	Mitake 42F		
15:35 - 16:50		MEXT Team-Teaching Demonstration and Effective Lesson Planning	Fuji 42F	15:50 - 16:50	CIR業務について「学校訪問・外国語講座」	Musashi 42F	15:25 - 15:35	Break			
		ES					Tsukui 42F	15:35 - 16:50	SEA Case Studies and Panel Discussion	Mitake 42F	
		JHS					Sagami 42F				
		SHS					Sagami 42F				
16:50 - 18:30		Break / 休憩									
18:30 - 20:00		Welcome Reception / 歓迎夕食会				Takao 42F					
Tuesday	7:00 - 8:30		Breakfast / 朝食				Takao 42F				
	Time		ALT Workshops (English)	Location	時間	CIR分科会	場所	Time	SEA Workshops	Location	
	9:00 - 10:00		Useful Information for ALTs		9:00 - 9:30	メンタルヘルスケア	Musashi 42F	9:00 - 10:15	First-Aid Course	Mitake 42F	
			ES & JHS	Fuji 42F							
			SHS	Sagami 42F							
	10:00 - 10:15		Break		9:30 - 9:45	休憩		10:15 - 10:30	Break		
	10:15 - 11:00		MEXT Workshop ①		9:45 - 10:55	CIRとしての基礎スキル「日本のビジネスマナーの基礎」	Musashi 42F	10:30 - 12:00	School and Sports Club Visit	On-site Training	
			ES	Fuji 42F							
			JHS & SHS	Sagami 42F							
	11:00 - 11:15		Break		10:55 - 11:10	休憩		11:10 - 12:00	CIR業務について「イベント企画・実施」	Musashi 42F	
	11:15 - 12:00		MEXT Workshop ②		11:10 - 12:00	関連機関訪問	外出				
			ES	Fuji 42F							
			JHS & SHS	Sagami 42F							
	12:00 - 13:15		Lunch / 昼食				Takao 42F				
	13:15 - 14:00		MEXT Workshop ③		13:15 - 14:05	CIR業務について「SNSの活用方法」	Musashi 42F	13:15 - 13:45	Japanese for SEAs	Mitake 42F	
			ES	Fuji 42F							
			JHS & SHS	Sagami 42F							
	14:00 - 14:15		Break		14:05 - 14:15	休憩		13:45 - 14:00	Break		
14:15 - 15:00		MEXT Workshop ④		14:15 - 16:30	関連機関訪問	外出	14:00 - 15:10	Sports Mental Coaching	Mitake 42F		
		ES	Fuji 42F								
		JHS & SHS	Sagami 42F								
15:00 - 15:15		Break		15:15 - 16:30	Panel Discussion	15:10 - 15:20	Break				
15:15 - 16:30		ES & JHS					15:20 - 16:30	Effective Coaching Techniques	Mitake 42F		
		SHS									
16:30 - 16:45		Break / 休憩									
16:45 - 17:35		Host Prefecture/Designated City Meeting / 取りまとめ団体別ミーティング				Takao 42F					
17:35 - 17:45		Survey Completion & Submission / アンケート記入・提出									
Wednesday	6:00 - 9:00* 7:00 - 9:00		Breakfast / 朝食				Takao 42F				
	~11:00		Departure for Host Prefecture/Designated City / 出発				Group Departure Lobby 3F				

## I 研修概要

研修名	英語教育海外派遣研修									
担当グループ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室									
研修目的	各地域において、英語教育を推進する中核的教員を海外に派遣し、英語教育に関する指導方法等についての実践的な研究、大学等での専門的な授業及び実生活を通じ、指導力の向上及び確かな知識の習得を図り、その成果を各学校や地域における研修の講師や企画・立案等に活かし、グローバル化に対応する指導者を養成する。									
受講対象	以下の要件を満たす者であって、かつ心身共に健康で海外における所定の期間の研修及び生活に適應できる者 研修参加後、研修成果を各学校や地域における研修の講師や企画・立案等に活かし中心的役割を果たせる優秀な者 ①中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の英語科教員で、現に英語の授業を担当し、5年以上の勤務実績がある者 ②都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 ③50歳以下の者で、英語教育を推進する中核的教員又は中核的教員として活躍が期待される者で、研修成果の普及を複数年にわたり実施できる者(年齢は平成31年度末現在) ④海外研修に対応できる英語力(CEFR B2レベル以上を取得している)を有している者 ⑤過去に文部科学省又は教員研修センターが実施した教職員等海外派遣研修により派遣されたことがない者									
開催期日	別紙のとおり			別紙のとおり						
受講人数	標準定員 (計画人数)	20	人	受講者数	12	人	参加率	60.0%		
開催場所	事前研修会：独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市） 海外派遣：英国・米国									

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

人数 (人)	割合 (%)	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計		
		大変有意義	概ね有意義							
		9	75.0	3	25.0	0	0.0	0	0.0	12
		12		100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校訪問は、学校の施設だけでなく、直接先生方と話ができたこと、授業を受けられたこと、生徒と話ができたことは、現地ではできないのでとても貴重であった。</li> <li>・大学での研修内容は非常に有意義だった。その一方、自身の課題に対して調査や研究する時間が、毎日のreflectionなどで、十分に取れたとは言えなかったので、Academic Listening &amp; Speakingの参加時間を考慮されると良い。</li> <li>・これまでの知識、経験を振り返るだけでなく、新しい情報を得ること、また、改めて英語を学ぶ面白さを感じることができた。4技能の指導を多角的に教えていただき、現場でも活かすことができる。もちろん、各学校の状況、生徒に合わせてアレンジしなければならないことは、今後の課題になる。</li> <li>・教授法の見直しや新しいinputができただけでなく、これまでの教員生活の振り返りや、今後の自分の在り方について考える機会となり、確実に自分の転機となった。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成31年度は事後研修会を実施しないことを踏まえて、これまでの事前研修会の内容を変更する必要があり、大学別「研修主題協議・情報共有」を取り止め、事後研修会で行っていた「研修成果報告書の作成について」を加えた。</li> <li>・各参加者の研究課題は決定しているが、各大学班毎での共通課題は無い。大学研修期間中に、日本の英語教育の根本的な課題を掘り起こすことができる、大きな視点でこの大学研修がどう生きていくのかを考えられるような課題を設定し、大学班毎で課題レポートを作成した。</li> <li>・研修成果報告書の作成については、担当者が書式等を含め説明をしているが、提出された報告書を校正すると細かな修正等が必要となる。また、参加者も書式に合わせるため時間が取られる。参加者が作成要領に沿って作成しやすいよう報告書のフォーマットを事前研修会で提供すると共に、ダウンロードデータをHPに掲載した。また、学習指導案の指定様式もダウンロードデータをHPに掲載した。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者が設定した「研修中のテーマ」を具体的なテーマとするために、「グループ協議」を新たに設ける。また、その際に授業改善できるよう、調査官による指導・助言を受け、よりよいテーマとするよう改善を図る。</li> <li>・過年度参加者による「大学研修及び生活面について」のコマを1日目の情報交換会の時に設定し、大学研修全般についてメンバーと内容を深められるよう内容の改善を図る。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

## 令和元年度英語教育海外派遣研修

派遣国	大学名	参加人数	事前研修会	派遣期間	日数
イギリス	エクセター大学	5	5/7(火)～8(水) 教職員支援機構 (茨城県つくば市)	6/22(土)～8/19(月)	59
アメリカ	デンバー大学	7		7/7(日)～9/3(火)	59
計		12			



## I 研修概要

研修名	体力向上マネジメント指導者養成研修							
担当グループ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研修目的	<p>体力は、人間の活動の源であり、健康の維持のほか意欲や気力といった精神面の充実に大きく関わっており、「生きる力」を支える重要な要素である。子供たちが、現在及び将来の体力の向上を図るために、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、進んで運動に親しむ資質・能力を身に付け、心身を鍛えることができるようにすることが大切である。</p> <p>本研修では、学校全体で校長のリーダーシップの下に、日々の教育活動、学校の資源を一体的にマネジメントした各学校や地域の実態等に即した子供たちの体力向上を図るための手法等を修得する。さらに、学校が組織的に子供たちの体力の向上に取り組むことで、1) 子供たちの体力に関する諸課題の改善に専門的知見を活用し、組織的な取組を推進する力、2) 学校、地域の教職員の専門性向上を推進する力、を習得した指導者の養成を図る。</p>							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>各都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事及びこれに準じる者</li> <li>幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校（園）長、副校（園）長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭等</li> <li>当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生（教職経験のある者に限る）</li> </ul>							
開催期日	令和元年6月18日（火）～令和元年6月21日（金）					4日間		
受講人数	標準定員 (計画人数)	120	人	受講者数	110	人	参加率	91.7%
開催場所	教職員支援機構 つくば中央研修センター							

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	96	14	0	0	0	0	110
割合 (%)	87.3	12.7	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

2. 研修内容に関する主な意見

・各講師から視点を変えた内容で講義をいただき、たいへん勉強になった。グループ演習では、各地域の参加者と情報交換しつつ課題解決に向けた協議ができ、有意義な学びとなった。

・体力向上という視点から、組織マネジメント、カリキュラム・マネジメントについて考えを深めることができた。

・講義で学んだことに基づいて班別演習を行うことで、学びが整理され、考えが深まった。

・今まで「体育の授業で勝負」と考えてきたが、他教科・特活など、様々な教育活動、家庭や地域などと関連させることで、より効果的になることが実感できた。

・講師の選定が非常に良かった。各講師からそれぞれに視点を変えた内容で講義をいただき、たいへん勉強になった。

・研修を受ける前に、もう少しマネジメントについて勉強して参加するべきだった（反省）

・体力向上に特化した学校作りは現実的ではなく、班の発表を聞いても実現しそうでないと感じるものがあった。

・最終日の講師の先生方のまとめ・説明を、じっくりと聞きたかった。

## III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

・特別活動を中心としたカリキュラム・マネジメントのコマを新設し、内容の充実を図った。

次年度に向けて

・幼稚園部会については、「幼小連携部会」を設ける等、枠組みを広げ、学びを深めることができるようにする。

・特に中学校・高等学校については、保健体育科教諭にとどまらず、学校組織全体での推進が図られるよう、指導主事及び管理職などの参加についても強く促していく。

・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

# 令和元年度体力向上マネジメント指導者養成研修日程

日程：令和元年6月18日(火)～6月21日(金) 会場：独立行政法人教職員支援機構つくば中央研修センター

6月18日(火)	9:30	10:00	10:30	10:40	10:45	12:15	13:15	14:45	15:00	16:30	16:40	17:00
		受付	オリエンテーション	開講式	子供の体力向上を図るための指導者の役割 スポーーツ庁政策課 教科調査官 塩見 英樹	昼休憩	講義1 学校組織マネジメントの在り方 国士館大学 教授 北神 正行	講義2 学校全体で取り組む体力向上に関するマネジメントの在り方 日本女子体育大学 名誉教授 畑 攻	休憩	講義3 学校全体で取り組む体力向上に関するマネジメントの在り方 日本女子体育大学 名誉教授 畑 攻	休憩	ミーティング

6月19日(水)	8:30	8:45	9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	14:45	15:00	16:30	16:40	17:00
		受付	ミーティング	講義4 特別活動を中心としたカリキュラム・マネジメント 國學院大學 教授 杉田 洋	講義5 体育・保健を中心としたカリキュラム・マネジメント 桐蔭横浜大学 教授 佐藤 豊	昼休憩	事例発表・協議・講義 学校全体で取り組む体力向上に関するマネジメントの実践と課題 名古屋学院大学 教授 中野 貴博 東京都教育委員会 統括指導主事 美越 英宣 (発表者) 東郷町施設サービス株式会社 取締役 健康事業部長 奥立 隆宏 東京女子体育大学 講師 末永 祐介 熊本県教育委員会 指導主事 寺田 幸司 (発表者) 岩手県西和賀町立湯田小学校 校長 盛島 寛、教諭 後藤 孝一 東京学芸大学 教授 鈴木 聡 高槻市教育委員会 主幹 岩佐 知美 (発表者) 茨城県下妻市立下妻中学校 教諭 海野 早紀、教諭 野村 昭二 順天堂大学 准教授 荻原 朋子 長崎県教育委員会 係長 佐藤 昇 (発表者) 東京都立田園調布高等学校 主幹教諭 鈴木 誠士、教諭 都竹 もみのり	講義・演習1-1 学校全体で取り組む体力向上に関するマネジメントの在り方 名古屋学院大学 教授 中野 貴博 東京都教育委員会 統括指導主事 美越 英宣 東京女子体育大学 講師 末永 祐介 熊本県教育委員会 指導主事 寺田 幸司 東京学芸大学 教授 鈴木 聡 高槻市教育委員会 主幹 岩佐 知美 順天堂大学 准教授 荻原 朋子 長崎県教育委員会 係長 佐藤 昇	休憩	講義 学校全体で取り組む体力向上に関するマネジメントの在り方 日本女子体育大学 名誉教授 畑 攻	休憩	ミーティング

8:30	8:45	9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	14:45	15:00	16:30	16:40	17:00
		6月20日(木)			屋 休 憩						
受付		ミーティング				講義・演習1-2 学校全体で取り組む体力向上に関する マネジメントの在り方		講義・演習1-3 学校全体で取り組む体力向上に関する マネジメントの在り方		講義・演習1-4 学校全体で取り組む体力向上に関する マネジメントの在り方	
		幼稚園部会 名古屋学院大学 教授 中野 貴博 東京都教育委員会 統括指導主事 美越 英宣		幼稚園部会 名古屋学院大学 教授 中野 貴博 東京都教育委員会 統括指導主事 美越 英宣		幼稚園部会 名古屋学院大学 教授 中野 貴博 東京都教育委員会 統括指導主事 美越 英宣		幼稚園部会 名古屋学院大学 教授 中野 貴博 東京都教育委員会 統括指導主事 美越 英宣		幼稚園部会 名古屋学院大学 教授 中野 貴博 東京都教育委員会 統括指導主事 美越 英宣	
		小学校部会 東京女子体育大学 講師 末永 祐介 熊本県教育委員会 指導主事 寺田 幸司		小学校部会 東京女子体育大学 講師 末永 祐介 熊本県教育委員会 指導主事 寺田 幸司		小学校部会 東京女子体育大学 講師 末永 祐介 熊本県教育委員会 指導主事 寺田 幸司		小学校部会 東京女子体育大学 講師 末永 祐介 熊本県教育委員会 指導主事 寺田 幸司		小学校部会 東京女子体育大学 講師 末永 祐介 熊本県教育委員会 指導主事 寺田 幸司	
		中学校部会 東京学芸大学 教授 鈴木 聡 高槻市教育委員会 主幹 岩佐 知美		中学校部会 東京学芸大学 教授 鈴木 聡 高槻市教育委員会 主幹 岩佐 知美		中学校部会 東京学芸大学 教授 鈴木 聡 高槻市教育委員会 主幹 岩佐 知美		中学校部会 東京学芸大学 教授 鈴木 聡 高槻市教育委員会 主幹 岩佐 知美		中学校部会 東京学芸大学 教授 鈴木 聡 高槻市教育委員会 主幹 岩佐 知美	
		高等学校部会 順天堂大学 准教授 荻原 朋子 長崎県教育委員会 係長 佐藤 昇		高等学校部会 順天堂大学 准教授 荻原 朋子 長崎県教育委員会 係長 佐藤 昇		高等学校部会 順天堂大学 准教授 荻原 朋子 長崎県教育委員会 係長 佐藤 昇		高等学校部会 順天堂大学 准教授 荻原 朋子 長崎県教育委員会 係長 佐藤 昇		高等学校部会 順天堂大学 准教授 荻原 朋子 長崎県教育委員会 係長 佐藤 昇	
		ミーティング								ミーティング	
		休憩								休憩	

8:30	8:45	10:15	10:30	12:00	12:20
		6月21日(金)			
受付		講義・演習1-6 学校全体で取り組む体力向上に関する マネジメントの在り方		講義・演習1-7 幼小中高を見据えた体力向上の向上のマネジメントと豊かなスポーツライフの実現に向けて	
		幼稚園部会 名古屋学院大学 教授 中野 貴博 東京都教育委員会 統括指導主事 美越 英宣		幼稚園部会 名古屋学院大学 教授 中野 貴博 東京都教育委員会 統括指導主事 美越 英宣	
		小学校部会 東京女子体育大学 講師 末永 祐介 熊本県教育委員会 指導主事 寺田 幸司		小学校部会 東京女子体育大学 講師 末永 祐介 熊本県教育委員会 指導主事 寺田 幸司	
		中学校部会 東京学芸大学 教授 鈴木 聡 高槻市教育委員会 主幹 岩佐 知美		中学校部会 東京学芸大学 教授 鈴木 聡 高槻市教育委員会 主幹 岩佐 知美	
		高等学校部会 順天堂大学 准教授 荻原 朋子 長崎県教育委員会 係長 佐藤 昇		高等学校部会 順天堂大学 准教授 荻原 朋子 長崎県教育委員会 係長 佐藤 昇	
		休憩		閉 講 式	
		スポーツ庁政策課 教科調査官 関 伸夫			

## I 研修概要

研 修 名	健康教育指導者養成研修							
担 当 課 グ ル ー プ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研 修 目 的	<p>健やかな体の育成は、心身の調和的な発達の中で図られ、生涯にわたる幸福で豊かな生活の実現と密接にかかわるものです。児童生徒の心身の調和的な発達を図るためには、健康的な生活習慣を形成することが必要です。</p> <p>本研修では、学校全体で校長のリーダーシップの下に、日々の教育活動、学校の資源を一体的にマネジメントした各学校や地域の実態等に即した健康教育推進のための方策を学びます。さらに、学校が組織的に子供たちの健康教育を推進することで、1) 子供たちの健康に関する諸課題の改善に専門的知見を活用し、組織的な取組を推進する力、2) 学校、地域の教職員の専門性向上を推進する力、を習得した指導者の養成を図ります。</p>							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事、並びにこれに準じる者</li> <li>・幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校（園）長、副校（園）長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭及び養護教諭であって、各学校や地域において本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者</li> <li>・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生（教職経験のある者に限る）</li> </ul>							
開 催 期 日	令和元年9月17日（火）～令和元年9月20日（金）				4日間			
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	200	人	受講者数	230	人	参加率	115.0%
開 催 場 所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）							

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	213	17	0	0	0	0	230
割合 (%)	92.6	7.4	0.0	0.0	0.0	0.0	
	230						100.0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修内容は、これからの健康課題や新学習指導要領を見据えた上で、教師が何をしていかなければならないのか、健康教育の重要性を強く感じました。</li> <li>・とても充実した研修でした。貴重な4日間でした。</li> <li>・様々な研修を通して、養護教諭として、また健康教育指導者として、現場に帰って還元したいことを多く学ぶことができた。</li> <li>・最先端の内容の講義を聞くことができ、新たな気づきがあったり、学びたいと感じることがあったりした。また、他府県の先生方との演習では、他の地域での真似したい取組など、交流することができました。</li> <li>・これほど健康教育だけにじっくり向き合い、取り組んだことはありませんでした。講義、演習ともに本当に充実感を味わいつつ、今後、頑張ろうという意欲につながりました。また、他の受講者の方とつながりを持てたことは、大きな財産となりました。</li> <li>・1日目のたくさん講義で学んだことの情報が新しいうちに演習に入ることができ、スケジュール的にもとてもよく考えて頂いているのだと思いました。そのため、演習で早速学んだことを生かしつつ、グループの先生方と一つの指導案を作り上げることができ、達成感を感じることができました。つくばで出会えた先生方はどの方も熱心で、同じ気持ちで研修に臨めたことが嬉しかったです。大変学ぶことの多い4日間でした。</li> <li>・養教と保健主事がセットで参加できると、さらに有意義な研修になると思いました。</li> <li>・情報量が多く、時間的に延長してもよい講義もあった。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校保健マネジメント」について、受講者のニーズが高かったため、カリキュラム・マネジメントの講座を新設した。</li> </ul> <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「健康管理の在り方」「学校保健マネジメント」の情報量が多いため、講義時間を延長する。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

令和元年度 健康教育指導者養成研修 日程表

9 /17 (火) 第1日目	受付	オリエンテーション	9:00	9:20	9:50	11:30	12:30	13:30	13:40	14:40	14:50	15:50	16:00	17:00	17:15	
			講義1(100分)			講義2(60分)			講義3(60分)			講義4(60分)				講義5(60分)
			健康教育の充実の在り方及び研修の進め方			保健管理の在り方(環境衛生)			保健管理の在り方			保健教育の在り方			学校保健マネジメント	
			◎目的: 健康教育の充実のため、現状と課題、意義・目的を踏まえた研修のねらい並びに本研修の全般的構成について理解する			◎目的: 保健管理は、学校保健安全法等により規定されており、全職員の共通理解のもとに実施されるものであることを理解する			◎目的: 保健管理は、学校保健安全法等により規定されており、全職員の共通理解のもとに実施されるものであることを理解する			◎目的: 体育、保健体育を中心に、特別活動、総合的な学習の時間等と関連を円った保健教育の進め方について理解を深める			◎目的: 学校保健を推進するための効果的なマネジメントについて理解を深める	
			スポーツ庁 教科調査官 横嶋 剛			文部科学省 健康教育調査官 小出 彰宏			文部科学省 健康教育調査官 松崎 美枝			茨城大学 教授 上地 勝			筑波大学 教授 柳沢 和雄	

9 /18 (水) 第2日目	受付	部会別演習	8:30	8:45	12:15				13:15	17:00				17:15
			講義・演習1-1(210分)				講義・演習1-2(225分)							
			①保健教育の在り方				①保健教育の在り方							
			◎目的: 班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ				◎目的: 班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ				各ユニットで内容の共有			
			心の健康 茨城大学 教授 上地 勝 島根県大田市立久屋小学校 校長 野津 明久 医薬品・喫煙・文部科学省 健康教育調査官 小出 彰宏 飲酒・薬物乱用 愛知県立瀬戸高等学校 校長 丸山 洋生 現代の疾病 新潟医療福祉大学 准教授 杉崎 弘周 の予防 栃木県教育委員会 副主幹 吉川 真弓				心の健康 茨城大学 教授 上地 勝 島根県大田市立久屋小学校 校長 野津 明久 医薬品・喫煙・文部科学省 健康教育調査官 小出 彰宏 飲酒・薬物乱用 愛知県立瀬戸高等学校 校長 丸山 洋生 現代の疾病 新潟医療福祉大学 准教授 杉崎 弘周 の予防 栃木県教育委員会 副主幹 吉川 真弓							
			②学校保健マネジメント				②学校保健マネジメント							
			◎目的: 学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ				◎目的: 学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ				各ユニットで内容の共有			
			筑波大学 教授 柳沢 和雄 札幌市教育委員会 指導主事 岩田 悟				筑波大学 教授 柳沢 和雄 札幌市教育委員会 指導主事 岩田 悟							
			③保健管理の在り方(現代的健康課題への対応)				③保健管理の在り方(健康観察の重要性)							
			◎目的: 学校における児童生徒の健康課題解決の基本的な進め方(教職員等の果たす役割、組織での支援等)について学ぶ				◎目的: 教職員による健康観察の重要性について学ぶ				各ユニットで内容の共有			
			びわこ学院大学 教授 岩崎 信子				筑後特別支援学校 校長 中田 雅子							

9 /19 (木) 第3日目	受付	部会別演習	8:30	8:45	11:45				12:45	15:15				15:30	17:00	17:15
			講義・演習1-3(180分)				講義・演習1-4(150分)				講義6(90分)					
			①保健教育の在り方				①保健教育の在り方				子供の心のケア					
			◎目的: 班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ				◎目的: 課題別演習の成果発表を通じて、保健教育について理解を深める				◎目的: 学校における児童生徒のメンタルヘルス及び発達障害等に関する現状を理解するとともに、その対応方法について学ぶ					
			心の健康 茨城大学 教授 上地 勝 島根県大田市立久屋小学校 校長 野津 明久 医薬品・喫煙・文部科学省 健康教育調査官 小出 彰宏 飲酒・薬物乱用 愛知県立瀬戸高等学校 校長 丸山 洋生 現代の疾病 新潟医療福祉大学 准教授 杉崎 弘周 の予防 栃木県教育委員会 副主幹 吉川 真弓				心の健康 講師は講義・演習1-3 飲酒・薬物乱用 に同じ 現代の疾病 講師は講義・演習1-3 に同じ の予防				福島県立医科大学 ふくしま子ども・女性医療支援 センター 医学部小児科学講座 教授 横山 浩之					
			②学校保健マネジメント				②学校保健マネジメント									
			◎目的: 学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ				◎目的: 部会別演習における成果発表を通じて望ましい組織体制についての理解を深める				各ユニットで内容の共有					
			筑波大学 教授 柳沢 和雄 札幌市教育委員会 指導主事 岩田 悟				講師は講義・演習1-3 に同じ				移動・休憩					
			③保健管理の在り方(事例検討会の進め方)				③保健管理の在り方(疾病管理と地域の連携機関との連携)									
			◎目的: 学校における事例検討会の進め方や指導助言のあり方を学ぶ				◎目的: 学校における疾病管理と地域の関係機関との連携について学ぶ				各ユニットで内容の共有					
			【小学校】滋賀県長浜市立北郷里小学校 校長 伊部 加代 【中学校】高知県安芸市立井ノ口小学校 校長 大城 由美 【高等学校】筑紫女学園大学 准教授 大西 良				公益財団法人日本学校保健会 専務理事 弓倉 整									

9 /20 (金) 第4日目	受付	移動・休憩	8:15	8:30	10:00				10:15	12:00				13:00	15:00				15:15
			講義7(90分)				講義・演習2(105分)				講義・演習3(120分)								
			A 学校における感染症対策の在り方				学校における救急処置に関する研修の在り方				健康教育の指導者として								
			◎目的: 学校における感染症対策の在り方について理解を深める				◎目的: 学校における緊急処置に関する研修の在り方について理解を深める				◎目的: 健康教育に関する教員研修の構想・企画をとおして、本研修における成果を整理するとともに、研修講師としての必要な知識や技術等についての理解を深める				研修プランの共有				
			国立感染症研究所感染症疫学センター第三室 室長 多屋 啓子				獨協医科大学医学部小児科学 子ども医療センター長 吉原 重美 アレルギーセンター長 吉原 重美								閉講式				
			B 児童虐待への対応																
			◎目的: 児童虐待への対応の仕方について理解を深める																
			明星大学 常勤教授 川松亮																

## I 研修概要

研 修 名	食育指導者養成研修							
担 当 課 グ ル ー プ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研 修 目 的	食は、人間の活動の源であり、健康の維持のほか意欲や気力といった精神面の充実に大きく関わっており、子供には、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけさせることが大切です。食生活の乱れや肥満・痩身傾向等、子供の食に関する課題を解決するためには、学校を核として家庭と連携し効果的に子供の食に関する自己管理能力を目指すことが重要となる。 本研修では、学校全体で校長のリーダーシップの下に、日々の教育活動、学校の資源を一体的にマネジメントした各学校や地域の実態等に即した食育推進のための方策を学びます。さらに、学校が組織的に子供たちの食育を推進することで、1) 子供たちの食に関する諸課題の改善に専門的知見を活用し、組織的な取組を推進する力、2) 学校、地域の教職員の専門性向上を推進する力、を習得した指導者の養成を図る。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県及び市町村教育委員会の指導主事等であって、食に関する指導を担当する者</li> <li>・小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、教諭及び学校栄養職員等であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者</li> <li>・栄養教諭であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者</li> <li>・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生（教職経験のある者に限る）</li> </ul>							
開 催 期 日	令和元年10月15日（火）～令和元年10月18日（金）			4日間				
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	120	人	受講者数	135	人	参加率	112.5%
開 催 場 所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）							

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	118	16	0	0	0	1	135
割合 (%)	88.1	11.9	0.0	0.0	0.0	0.7	
	134						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領実施に向けての移行期間中、改訂のポイントや何を大切に子どもたちに授業をしていけばよいか、最新の情報や活用方法を勉強することができて、大変有意義だった。他府県の先生方と授業を考えることも、学ぶことが多かった。</li> <li>・各教科等における食に関する指導の講義は、具体的な事例も交えて話していただいたので、とても分かりやすかった。</li> <li>・「食育指導者として」のワークシートは、自分事として考える機会をいただき、班員と活発な意見交換ができ、充実していました。</li> <li>・栄養教諭にとって難しいカリキュラム・マネジメントの進め方について、基礎的な部分から具体的にどう改善していくべきか、など、総合的に学ばせていただいた。非常に良かった。</li> <li>・基本的な講義を受けて、食に関する指導の指導案作成を各グループに分かれて行い、その場でプレゼンで発表、翌日も自分のいた部会とは違う発表も3種類聞くことができてよかった。4回に分けての構成だったが、5回に分けてもらっていると、全ての部会の発表が聞けるので、改善したらいいと思った。1回は自分の班の発表があるので、その時間枠は他に行けないので。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食育を学校全体で行っていくためにも教諭、管理職の参加が必要であることから、実施要項の受講者資格部分を強調した。</li> <li>・栄養教諭として10年以上の経験を持つ方が増え、授業づくりについて充実してきたこともあり、本年度は、演習内容を指導案づくりからカリキュラムマネジメントの分科会を設け実施した。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度も、全員に演習の成果物発表の機会を設けるとともに、各部会の発表を参観する機会を増やす。</li> <li>・栄養教諭にとどまらず、学校組織全体での推進が図られるよう、指導主事及び管理職、教諭などの参加についても強く促していく。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

# 令和元年度 食育指導者養成研修 日程表

10月15日(火)	9:00-9:20	受付	9:20-10:00	講義1 学校における食育の推進 文部科学省初等中等教育局 食育調査官 清久 利和 ◎学校における食育の果たす役割や食育を推進するための基本的な考え方を理解する。また、食に関する指導に係る全体計画について、理解を深める	10:00-15:00	休憩	15:00-15:15	休憩	15:15-16:30	講義3 食育を効果的に推進するためのカリキュラム・マネジメントの進め方 新潟医療福祉大学 健康科学部 健康栄養学科 教授 森泉 哲也 ◎新学習指導要領の趣旨に基づく、食育推進のためのカリキュラム・マネジメントの基本的な考え方を理解する	16:30-16:45	休憩	16:45-17:00	研修成果活用に向けて①
-----------	-----------	----	------------	--	-------------	----	-------------	----	-------------	---	-------------	----	-------------	-------------

10月16日(水)	8:45-9:00	ミーティング	9:00-10:10	講義4-1 各教科等における食に関する指導のポイント ◎各教科等における食に関する指導のポイントについて理解を深める	10:10-11:10	休憩	11:10-12:20	講義4-2 各教科等における食に関する指導のポイント ◎各教科等における食に関する指導のポイントについて理解を深める	12:20-13:20	屋休憩	13:20-14:20	講義4-3 各教科等における食に関する指導のポイント ◎各教科等における食に関する指導のポイントについて理解を深める	14:20-14:30	休憩	14:30-16:30	講義・演習1-1 各コースにおける食に関する指導についての検討 ◎特別活動 ◎各教科等における食に関する指導のポイントについて理解を深める	16:30-16:45	休憩	16:45-17:00	研修成果活用に向けて②
-----------	-----------	--------	------------	--	-------------	----	-------------	--	-------------	-----	-------------	--	-------------	----	-------------	--	-------------	----	-------------	-------------

10月17日(木)	8:45-9:00	ミーティング	9:00-10:10	講義4-4 各教科等における食に関する指導のポイント ◎各教科等における食に関する指導のポイントについて理解を深める	10:10-11:10	屋休憩	11:10-12:20	講義4-5 各教科等における食に関する指導のポイント ◎各教科等における食に関する指導のポイントについて理解を深める	12:20-13:20	屋休憩	13:20-14:20	講義4-6 各教科等における食に関する指導のポイント ◎各教科等における食に関する指導のポイントについて理解を深める	14:20-14:30	休憩	14:30-16:30	講義・演習1-2 各コースにおける食に関する指導についての検討 ◎特別活動 ◎各教科等における食に関する指導のポイントについて理解を深める	16:30-16:45	休憩	16:45-17:00	研修成果活用に向けて③
-----------	-----------	--------	------------	--	-------------	-----	-------------	--	-------------	-----	-------------	--	-------------	----	-------------	--	-------------	----	-------------	-------------

10月18日(金)	8:45-9:00	ミーティング	9:00-10:10	講義・演習2 各コースにおける食に関する指導についての検討—全体発表— ◎特別活動 ◎各教科等における食に関する指導のポイントについて理解を深める	10:10-11:10	屋休憩	11:10-12:20	講義・協働 研修成果の活用に向けて④ ◎食育に関する教員研修の構想・企画をとらえて、本研修における成果を整理するとともに、研修講師としての必要な知識や技術等についての理解を深める	12:20-13:20	屋休憩	13:20-14:20	閉講式	14:20-15:10	閉講式
-----------	-----------	--------	------------	--	-------------	-----	-------------	---	-------------	-----	-------------	-----	-------------	-----

## I 研修概要

研 修 名	学校安全指導者養成研修								
担 当 課 グ ル ー プ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室								
研 修 目 的	本研修では、各地域・学校において児童生徒等の安全の確保が図られるよう、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、学校安全における三領域（生活安全・交通安全・災害安全）に関し、必要な知識等を習得する。また、本研修で習得した内容を踏まえ、各地域における研修講師等として、1) 学校安全に関する諸課題の改善に専門的知見を活用し、組織的な取組を推進する力、2) 学校、地域において教職員の専門性向上を推進する力、を發揮し、指導・助言等を行うことのできる指導者の養成を図る。								
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事、並びにこれに準じる者</li> <li>・幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の園長、副園長、校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各学校及び地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者</li> <li>・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生（教職経験のある者に限る）</li> </ul>								
開 催 期 日	令和元年9月9日（月）～令和元年9月13日（金）			5日間					
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	160	人	受講者数	159	人	参加率	99.4%	
開 催 場 所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）								

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	150	9	0	0	0	0	159
割合 (%)	94.3	5.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
	159						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害者遺族のお話を聞けるという機会はよかったです。被害者遺族のお話は大変心に残り、教員として今後の行動を考えさせられる、とても有効な機会でした。</li> <li>・最新情報が多くあり、良かった。情報を整理して1枚のスライドに分割され、見やすいのが良かった。</li> <li>・教育関係でない被害者・気象庁などとのコラボは今までにない取り組みで良かったです。学校安全の大切さをしっかりと感じられました。</li> <li>・全国トップクラスの講師の先生方のお話を聞いたのは貴重なものでした。全国の先生方のその地域での現状を情報交換できたことも、ここでしかできないことだなと感じました。</li> <li>・学校安全の現状と課題について、どの領域においても理論的かつ実践的な内容で構成されており、理解が深まりました。また、所属に戻って生かせる内容もたくさんあり、大変参考になりました。</li> <li>・3日目の内容については盛りだくさんで、1つ1つの講義をもう少し長く設定していただくと更に有難かったと思う。ご遺族のお話をもう少し伺いたかったです。</li> <li>・1つ1つの講義・演習の時間がもう少しとれればよかったです。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・より実践的な能力を身に付けるために、災害場面等を想定したシミュレーション、タイムライン（防災行動計画）を取り入れた演習・協議を行った。</li> <li>・学校安全計画の作成・発表については、他校種の事例も共有できるように、ポスターセッション等を取り入れた。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害等の危機管理に関するシミュレーションを引き続き取り入れ、指導者としての危機管理能力を高める。</li> <li>・安全教育のカリキュラム・マネジメントの講義を前半に移動し、その後の演習・協議に活かせるような日程を組む。</li> <li>・演習・協議等について、関係機関と連携し、研修効果を高める。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり



# 令和元年度 学校安全指導者養成研修 日程表

## 第1日

9月9日 (月)	9:00	9:30	10:00	11:10	11:20	12:30	13:30	15:00	15:15	17:00
	受付	開講式・オリエンテーション	<b>講義・協議1(講堂)</b> 学校安全の現状と課題～研修の全体構成及び各地域の課題～ 文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課安全教育推進室 安全教育調査官 森本 晋也 ◎目的:学校安全の現状等について理解するとともに、本研修の全般的構成について理解する。また、各地域の学校安全に関する課題について協議することを通して理解を深める。	休憩	<b>講義1(講堂)</b> 学校安全の基礎 東京学芸大学 教授 渡邊 正樹 ◎目的:指導者として必要な学校安全の概念・構造等の基本的事項について理解する。	昼休憩	<b>講義・演習・協議1</b> 「災害安全」の現状と課題、発達の段階に応じた効果的な教育と組織活動について 東北大学災害科学国際研究所 教授 佐藤 健 ◎目的:災害安全について、情報を共有するとともに、効果的・効率的に教育を行うための指導者としてのポイントを整理する。	休憩		

## 第2日

9月10日 (火)	9:00	10:30	10:45	12:30	13:30	15:00	15:15	17:00
	<b>講義・演習・協議2</b> 「交通安全」の現状と課題、発達の段階に応じた効果的な教育と組織活動について 東北工業大学教育課程センター 教授 小川 和久 ◎目的:交通安全について、情報を共有するとともに、効果的・効率的に教育を行うための指導者としてのポイントを整理する。	休憩	昼休憩	<b>講義・演習・協議3</b> 「生活安全」の現状と課題、発達の段階に応じた効果的な教育と組織活動について 大阪教育大学 学校危機メンタルサポートセンター 教授 藤田 大輔 ◎目的:生活安全について、情報を共有するとともに、効果的・効率的に教育を行うための指導者としてのポイントを整理する。	休憩			

## 第3日

9月11日 (水)	9:00	9:50	10:00	11:00	11:10	12:30	13:30	14:30	14:40	15:30	15:40	17:00
	<b>講義2</b> 「学校事故対応に関する指針」について 東京学芸大学 教授 渡邊 正樹 ◎目的:学校事故対応の重要性について理解を深める。	休憩	<b>講演1</b> 学校事故事例報告①【不審者対応】 酒井 智恵 ◎目的:学校事故被害の現状を知るとともに、事故後の対応の在り方を遺族の立場に立って理解する。	休憩	<b>講演2</b> 学校事故事例報告②【救命処置】 桐田 寿子 一般社団法人日本AED財団 理事 桐瀬 博 ◎目的:学校事故被害の現状を知るとともに、事故後の対応の在り方を遺族の立場に立って理解する。	昼休憩	<b>講演3</b> 学校事故事例報告③【災害発生時の対応】 名取市立みどり台中学校 校長 平塚 真一郎 ◎目的:学校事故被害の現状を知るとともに、事故後の対応の在り方を遺族の立場に立って理解する。	休憩	<b>講義3</b> 災害安全危機管理体制の現状と課題 (株)社会安全研究所 所長 首藤 由紀 ◎目的:災害安全危機管理体制の現状と課題に関する講義を通して理解を深める。	休憩	<b>講義・協議2</b> 学校における防犯対策の在り方について 文部科学省 安全教育調査官 森本晋也 警察庁 警視 岡澤 敬子 広島県教育委員会豊かな心育成課健康教育係 指導主事 猪原 一郎 ◎目的:学校の防犯対策の見直しの視点及び不審者対応について理解する。	

## 第4日

9月12日 (木)	9:00	10:30	10:45	12:30	13:30	14:30	14:40	17:00
	<b>講義4</b> 科学的知見を生かした学校防災の在り方について【地震】 東京大学地震研究所 教授 平田 直 ◎目的:最新の科学的知見について理解する。	休憩	<b>講義・演習1</b> 関係機関と連携した災害時における対応の在り方 文部科学省 総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課 安全教育推進室 安全教育調査官 森本 晋也 気象庁予報部予報課 気象防災推進室 防災気象官 高橋 賢一 ◎目的:学校版タイムラインを活用し、豪雨等の変化する状況への対応の在り方及び研修手法について理解する。	昼休憩	<b>講義5</b> 安全教育のカリキュラム・マネジメント 東京学芸大学 教授 渡邊 正樹 ◎目的:学校安全を中心としたカリキュラム・マネジメント考え方についても理解し、その実現に向けて必要なことについて考えを深める。	休憩	<b>演習・協議1</b> 学校の危機管理マニュアルの見直し 文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課安全教育推進室 安全教育調査官 森本 晋也 ※ 地域毎に校種設定して行う ◎目的:各講義・演習の内容を共有するとともに、シミュレーションを通して、学校の危機管理マニュアルの見直しと問題点の整理を行い、学校の危機管理マニュアルの改善について、どのように指導助言していくかについて理解する。	

## 第5日

9月13日 (金)	9:00	10:45	12:30	13:30	14:30	14:45
	<b>演習・協議2</b> 学校の危機管理マニュアルの改善と研修企画の作成 ・学校の危機管理マニュアルの改善と共有 ・学校及び地域の課題を解決する研修企画の作成 文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課安全教育推進室 安全教育調査官 森本 晋也 ◎目的:地域毎、学校種毎の班により作成した学校の危機管理マニュアルの改善の在り方について協議し、情報や課題の共有を図る。また、研修全体を振り返り、受講者各自の実態に応じて研修企画を作成する。	休憩	昼休憩	<b>講義・協議3</b> 学校安全教育を推進するリーダーとして～研修成果活用に向けて～ 文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課安全教育推進室 安全教育調査官 森本 晋也 ◎目的:研修全体を振り返り、安全教育の推進者として、研修成果をどのように活用していくか研修計画の協議を通して自覚を促す。	閉講式	<b>運営協力者</b> ・猪原 一郎 広島県教育委員会豊かな心育成課健康教育係 指導主事 ・平野 敬靖 茨城県教育庁学校教育部保健体育課 指導主事 ・瀧川 猛 千葉県市原特別支援学校 教頭 ・本田 秀一 文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課安全教育推進室 防災教育係長

## I 研修概要

研 修 名	言語活動指導者養成研修									
担 当 課 グ ル ー プ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室									
研 修 目 的	学習指導要領に基づいて、児童生徒の発達の段階を踏まえた言語能力の育成を図るために、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じた言語活動の充実に向けて取り組むべき方策や最新の情報について、必要な知識等を習得する。 本研修では習得した内容を踏まえ、各地域における研修講師等として、1) 言語活動に関する諸課題の改善に専門的知見を活用し、組織的な取組を推進する力、2) 学校、地域において教職員の専門性向上を推進する力、を發揮し、指導・助言等を行うことのできる指導者の養成を図る。									
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者</li> <li>・小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭等（特に研究主任や研修主任のほか教務主任等のカリキュラム作成担当者が望ましい。）であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者</li> <li>・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定も含む）教職大学院の学生（教職経験のある者に限る）</li> </ul>									
開 催 期 日	令和元年11月26日（火）～令和元年11月29日（金）					4日間				
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	120	人	受講者数	117	人	参加率	97.5%		
開 催 場 所	秋田県総合教育センター（秋田県潟上市）									

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	111	6	0	0	0	0	117
割合 (%)	94.9	5.1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	117						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語活動の充実とはどういうことか、また、どのように取り入れていけばよいのかの方向性が理解できた。</li> <li>・言語活動について改めて捉え直すことができました。また、実際にグランドデザインを作成したことで、どのように研修等で先生方に考えてもらうといいのかについて考えることができ、とても良かったです。</li> <li>・秋田県の授業を参観できたこと。また、事後研の参観をさせていただき、どのように指導助言をすればよいか、という普段考えもしない経験ができたこと。</li> <li>・どの研修も充実していました。</li> <li>・いろいろな地域の方と様々なグループ分けで出会い、実践や考えが聞けて良かったです。</li> <li>・グループが変わり過ぎると思う。多くの人と知り合いにはなれるが、結局浅くて研修後まで付き合い交流していくほどの関わりになれない。4日という短い間なので、せめて2回（2グループ）で研修する方がよいと感じた。</li> <li>・3日目の学習指導計画作成は、もっともっと時間が欲しかった。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題を精選し、協議や演習で活用した。</li> <li>・各教科等の学習指導計画とカリキュラム・マネジメントとのつながりが分かるように最終日の発表において工夫を行った。しかし、時間的な制約があったため次年度は日程の工夫が必要と考える。</li> <li>・提示授業参観を実施した。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科等の学習指導計画とカリキュラム・マネジメントとのつながりを明確にし、最終日に発表できるよう各助言者との事前打ち合わせを持つ。</li> <li>・提示授業参観を今年度とは異なった学校において実施する。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

令和元年度言語活動指導者養成研修 日程表

	8:45	9:15	9:30	9:40	11:25	12:25	14:40	15:00	16:00	17:00
1月26日(火) 第1日目		オリエンテーション	開講式	研究方針説明・講義 「言語活動の充実の在り方及び研修の進め方」 文部科学省初等中等教育局 視学官 大滝 一登	屋食・休憩	講義 「言語活動の充実とカリキュラム・マネジメント」 横浜国立大学 高木 展郎	休憩	協議 「研修の充実に向けた自己診断」 文部科学省 初等中等教育局 視学官 大滝 一登	研究協議 「各地区・各学校における研修企画案の作成及び協議①」 教職員支援機構 研修プログラム 倉橋 琢也	
				◎目的：言語活動の充実に関する現状と課題、意義・目的を踏まえ、受講者の心構えを理解するとともに、研修の方針及び進め方や協議等に際しての視点を確認し、課題をもつ。		◎目的：カリキュラム・マネジメントの視点から、言語活動の充実を図るための基礎的知識や方法等について理解する。		◎目的：指導者として目指す姿や高めた責務能力、達成目標を明確にする。	◎目的：各地区や学校で言語活動の充実を目的とする研修に活用し得る研修企画案を作成する。	

	8:45	10:05	10:15	11:30	12:30	12:40	13:15	13:25	14:15	14:40	16:25	17:00
1月27日(水) 第2日目		研究協議 (学校種別部会) 「各学校種における言語活動の充実について」 〔小学校部会〕 文部科学省初等中等教育局 菊池 英慈 教科調査官 〔中学校部会〕 文部科学省初等中等教育局 杉本 直美 教科調査官 〔高等学校部会〕 文部科学省初等中等教育局 大滝 一登	休憩	事前協議 (参観校別部会) 「秋田県における言語活動の充実による授業改善について」 授業提示校の概要説明 参観授業のグループによる協議 授業提示校教員 秋田県教育庁 義務教育課職員 ほか	屋食・休憩	授業参観校へ移動 (バス乗車)	提示授業参観・研究協議 (各学校) 「秋田県における言語活動の充実による授業改善について」 提示授業 校内移動	提示授業参観・研究協議 (各学校) 「秋田県における言語活動の充実による授業改善について」 提示授業 校内移動	提示授業参観・研究協議 (各学校) 「秋田県における言語活動の充実による授業改善について」 提示授業 校内移動	提示授業参観・研究協議 (各学校) 「秋田県における言語活動の充実による授業改善について」 提示授業 校内移動	提示授業参観・研究協議 (各学校) 「秋田県における言語活動の充実による授業改善について」 提示授業 校内移動	総合教育センターへ移動 (バス)
				◎目的：各学校段階における言語活動充実の意義について理解を深め、併せてカリキュラム等を作成する際の手立てを理解する。	◎目的：授業参観のねらい及び研究協議の視点を確認する。		◎目的：秋田県内の小・中・高等学校の授業参観を通して言語活動の取組を知り、各地域・学校における指導助言の在り方について協議する。 ※学校により、提示授業及びその後の分科会研究協議の開始時刻が若干異なります。					

コース別演習		12:00	13:00	17:00
8:45	休憩	屋食・休憩		
受付	【言語活動の充実に向けた学校全体のキャリアラム・マネジメントプラン作成コース】 〔初等分科会〕東京学芸大学 准教授 中村 和弘 東京都昭島市立富士見丘小学校 校長 加賀田 真理	〔中等分科会〕横浜国立大学 名誉教授 高木 展郎 福井県教育庁教育政策課 主任・指導主事 渡邊 本樹 横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校附属中学校 副校長 三藤 敏樹		
11月28日(木) 第3日目	◎目的：言語活動の充実により、効果的なプランを作成する。	12:00	13:00	17:00
8:45	休憩	屋食・休憩		
受付	【各教科等の学習指導計画作成コース】 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 菊池 英慈〔小・国語〕 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 杉本 直美〔中・国語〕 文部科学省初等中等教育局教育課程課 視学官 大滝 一登〔高・国語〕 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 大森 淳子〔社会〕 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 笠井 健一〔算数〕	文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 野内 頼一〔理科〕 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 臼井 学〔音楽〕 文部科学省初等中等教育局教育課程課 視学官 東良 雅人〔図工〕*1 愛知教育大学生活教科教育講座 教授 加納 誠司〔総合〕*2		
	◎目的：言語活動を充実するための方策や指導の工夫などを研修時に活用できるような学習指導計画を作成する。	*1：図画工作・美術・工芸 *2：総合的な学習の時間		

コース別演習		10:15	10:25	11:15	12:15	13:15	14:10	14:25
8:45	休憩	屋食・休憩						
受付	【コース別演習の発表】 コース別演習の各講師	研究協議（後半） 「各地区・各学校における研修企画案の作成及び協議②」 教職員支援機構 研修プロデューサー						
11月29日(金) 第4日目	◎目的：第3日目のコース別演習での成果を発表し、言語活動の充実方策について理解を深める。	研究協議（前半） 「各地区・各学校における研修企画案の作成及び協議②」 教職員支援機構 研修プロデューサー ◎目的：各地区や学校で言語活動の充実を目的とする研修に活用し得る研修企画案を作成する。						
8:45	全体会	閉講式						
受付	（退出準備）	◎目的：本研修を振り返り成果を確認し、研修講師となるための意識を高める。						

## I 研修概要

研 修 名	道徳教育指導者養成研修（第1回中央指導者研修）							
担 当 課 グ ル ー プ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、校長のリーダーシップの下、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育や道徳教育推進教師を中心とした全教師による協力体制の充実と道徳教育の展開、実践活動や豊かな体験活動の充実、「特別の教科 道徳」の指導と評価等について、必要な知識等を習得させ、各地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者</li> <li>・小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、「道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）」等の講師等としての活動を行う者</li> <li>・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生（教職経験のある者に限る）</li> </ul>							
開 催 期 日	令和元年5月13日（月）～令和元年5月17日（金）					5日間		
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	128	人	参加率	128.0%
開 催 場 所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体標準定員 800 人、受講者数 900 人、参加率 112.5%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	121	7	0	0	0	0	128
割合 (%)	94.5	5.5	0.0	0.0	0.0	0.0	
	128						100.0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査官からのお話を聞けたこと、また、質問にも丁寧に答えて下さったことが、本を読んでいるだけではわからないことまで理解できてよかったです。</li> <li>・講義と実践発表・演習のバランスが良かった。</li> <li>・今年度からは開催を2回に分散されたことで、人数の適正化が図られ、参加対象も明確となり、指導主事の立場に合った研修内容となっていて良かった。今回の学びを広げるために、どう働きかけていけばよいかを考えさせる内容となっていた。</li> <li>・講義内容が精選されており、かつ具体的で分かりやすいものが多く、参考となる事柄がたくさんあり、良かった。自県の取組の参考にしたい。</li> <li>・道徳教育について研修したかったことが全て（基礎～応用）含まれていてよかった。</li> <li>・3日目・4日目において、講師の指導助言に使用された資料を共有させていただきたい。</li> <li>・授業づくりについて、もう少し時間をかけて演習などができればよかった。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修効果を高めるため、グループを適切な人数で編成し、1回目の受講対象者を主に指導主事、2回目を主に学校で勤務する教諭等に分け2回実施した。</li> <li>・研修成果活用計画書を事前課題に課し、研修講師となるべき指導者の養成が研修の目的であることを強調した。</li> <li>・研修成果活用に向けた演習の充実を図った。</li> <li>・研修講師となることを前提に、指導助言の在り方について学ぶ時間を設けた。</li> </ul>
<p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義1について、教科化が既に始まっていることを踏まえ、マネジメントの視点を取り入れる等、内容の見直しを図る。</li> <li>・講義・事例発表1について時間を延長し、道徳教育と特別活動との関連が明確になるよう、内容の充実を図る。</li> <li>・演習・協議3については、動画を取り入れて指導助言の在り方に関する協議を深める。</li> <li>・特別な支援を要する児童生徒に対する道徳教育について、内容に盛り込む。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

令和元年度 道德教育指導者養成研修（中央指導者研修）第1回

日程表

【1日目】	8:45	9:15	10:00	11:15	11:30	12:30	13:30	14:45	15:00	17:00
5月13日(月)	受付	オリエンテーション	開講式 文部科学省初等中等教育局 学校教育課程課 学校教育官(併) 道德教育調査官 石田 有記	講義1 「道德教育の抜本的 充実に向けて」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 学校教育官(併) 道德教育調査官 石田 有記	講義2 「今、求められる道德教育の充実を目指して」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也 教科調査官 飯塚 秀彦	屋食・休憩	休憩	講義1 「学校の教育活動全体を通じて行う道德教育推進上の課題—情報交換・課題の共有—」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也 教科調査官 飯塚 秀彦	休憩	協議1 「学校の教育活動全体を通じて行う道德教育推進上の課題—情報交換・課題の共有—」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也 教科調査官 飯塚 秀彦
			◎目的： 道德教育の抜本的充実に向けての最新の動向を理解する。	◎目的： 道德教育の抜本的充実に向けての最新の動向を理解する。	◎目的： 学習指導要領の趣旨を踏まえ、道德教育の現状と課題について理解するとともに、推進の在り方について理解を深める。			◎目的： 事前課題をもとに、講義を踏まえた協議を行い、学校の教育活動全体を通じて行う道德教育推進上の課題を明確にする。		

【2日目】	8:45	11:00	11:15	11:45	12:45	15:00	15:15	17:00		
5月14日(火)	受付	講義・事例発表・講評1 「実践活動や体験活動を通じた道德教育」 〈事例発表校〉 京都市立松陽小学校 校長 前田 学 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 安部 恭子	休憩	講義・事例発表・講評2 「学校の教育活動全体を通じて行う道德教育の実践と課題」 〈事例発表校〉 小学校：宮城県白石市立大鷹沢小学校 教諭 吾妻 宏昭 中学校：山口大学教育学部附属光中学校 教諭 藤永 啓吾 高等学校：群馬県立太田工業高等学校 教頭 瀧川 豊宏	屋食・休憩	講義・事例発表・講評2 「学校の教育活動全体を通じて行う道德教育の実践と課題」 〈指導助言者〉 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也 教科調査官 飯塚 秀彦	休憩	協議2 「学校の教育活動全体を通じて行う道德教育の推進上の課題解決—道德教育を推進するリーダーとして—」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也 教科調査官 飯塚 秀彦	休憩	◎目的： 道德教育を推進するリーダーとして、道德教育推進のための方策を考える。
		◎目的： ・道德的実践の学習活動の場としての特別活動について理解を深める。 ・特別活動における道德教育の具体的事例を通して、学校の教育活動全体を通じて行う道德教育についての理解を深める。	◎目的： 具体的な事例を通して、学校の教育活動全体を通じて行う道德教育の充実に向けた新たな視点学ぶとともに、課題意識をもつ。	◎目的： 学校の教育活動全体を通じて行う道德教育の実践と課題について理解を深める。						

【3日目】	8:45	10:15	10:30	12:00	13:00	17:00
	小・中学校部会	講義3 「『特別の教科 道徳』の充実に向けて」 帝京大学大学院 教職研究科 教授 赤堀 博行 ◎目的： 「特別の教科 道徳」の指導の基本方針について理解を深め、授業改善の指座を持つ。	講義4 「『特別の教科 道徳』の指導と評価」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也 ◎目的： 「特別の教科 道徳」の指導と評価について理解する。	昼食・休憩	演習・協議1 「『特別の教科 道徳』の授業づくりとその評価」 〈中学校部会指導助言者〉 (中1～6) 四天王寺大学 教授 杉中 康平 (中7～12) 東京家政大学附属女子中学校高等学校 副校長 賞雅 枝子 ◎目的： 「特別の教科 道徳」における指導の配慮事項について理解を深め、授業の質的向上に向けた方策を考える。 ・「特別の教科 道徳」についての実例事例（事前課題）をもとに協議を行い、主体的・対話的で深い学びを実現する多様な指導方法をとり入れた学習指導案を作成する。 ・年間指導計画（評価を含む）の改善のポイントについて理解する。	17:00
5月15日(水)	8:45	10:15	10:30	12:00	13:00	17:00
高等学校部会	講義3 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 飯塚 秀彦 ◎目的： 高等学校における道徳教育の在り方について理解を深める。	講義4 「高等学校における道徳教育の充実に向けて」 國學院大学 教授 澤田 浩一 ◎目的： 高等学校における道徳教育の動向を理解する。	昼食・休憩	演習・協議1-1 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 〈指導助言者〉 (高1・高2) 國學院大学 教授 澤田 浩一 (高3・高4) くらき作陽大学 教授 秋山 博正 (高5・高6) 広島経済大学 教授 胤森 裕暢 ◎目的： 全体計画等の検討を念頭に置き、テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を考える。	演習・協議1-2 「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究・実践」 協議・課題解決策の検討」	17:00

【4日目】	8:45	10:15	10:30	12:00	13:00	17:00
	小・中学校部会	演習・協議2-1 「『考え、議論する』道徳の実践Ⅰー学習指導案の作成・検討」 ◎目的： 「特別の教科 道徳」における学習指導案作成等に取り組むことを通して、主体的・対話的で深い学びを実現する多様な指導方法をとり入れた授業改善のポイントや、各学校における指導助言の在り方等について理解を深める。 〈小学校部会指導助言者〉 聖徳大学大学院教職研究科 教授 澤田 浩一 〈中学校部会指導助言者〉 四天王寺大学 教授 杉中 康平	演習・協議2-2 「『考え、議論する』道徳の実践Ⅱー模擬授業の発表・協議」 ◎目的： 模擬授業を通して、主体的・対話的で深い学びを実現する多様な指導方法をとり入れた授業改善のポイントや、各学校・地域における指導助言の在り方等について理解を深める。	昼食・休憩	演習・協議2-1 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践Ⅰー全体計画等の改善策・展開例の検討」 〈指導助言者〉 (高1・高2) 國學院大学 教授 澤田 浩一 (高3・高4) くらき作陽大学 教授 秋山 博正 (高5・高6) 広島経済大学 教授 胤森 裕暢 ◎目的： 全体計画等の検討および発表を通して、高等学校における道徳教育を充実するための知識・方法を深める。	17:00
5月16日(木)	8:45	10:15	10:30	12:00	13:00	17:00
高等学校部会	演習・協議2-1 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践Ⅰー全体計画等の改善策・展開例の検討」 〈指導助言者〉 (高1・高2) 國學院大学 教授 澤田 浩一 (高3・高4) くらき作陽大学 教授 秋山 博正 (高5・高6) 広島経済大学 教授 胤森 裕暢 ◎目的： 全体計画等の検討および発表を通して、高等学校における道徳教育を充実するための知識・方法を深める。	演習・協議2-2 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践Ⅱー全体計画等の改善策・展開例の発表・協議」	昼食・休憩	演習・協議2-1 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践Ⅰー全体計画等の改善策・展開例の検討」 〈指導助言者〉 (高1・高2) 國學院大学 教授 澤田 浩一 (高3・高4) くらき作陽大学 教授 秋山 博正 (高5・高6) 広島経済大学 教授 胤森 裕暢 ◎目的： 全体計画等の検討および発表を通して、高等学校における道徳教育を充実するための知識・方法を深める。	演習・協議2-2 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践Ⅱー全体計画等の改善策・展開例の発表・協議」	17:00

5月17日(金)	8:45	<p><b>受付</b></p> <p><b>演習・協議3</b> 「『考え、議論する』道徳の実践Ⅲー代表班による模擬授業の発表・協議ー」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也 教科調査官 飯塚 秀彦</p> <p>◎目的： 【小中都会】代表班による模擬授業を通し、「特別の教科 道徳」の指導の展開方策や各学校・地域における指導助言の在り方等について理解を深める。 【高校都会】小・中学校における「特別の教科 道徳」の実際について理解を深める。</p>	11:30	<p><b>屋食・休憩</b></p>	12:30	<p><b>講義・演習</b> 「道徳教育を推進するリーダーとしてー研修プランの作成ー」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也 教科調査官 飯塚 秀彦</p> <p>◎目的： 本研修を振り返りつつ、研修成果を活用した研修プランを作成し、道徳教育を推進するリーダーとしての知見を深める。</p>	15:00 15:15	<p><b>閉講式</b></p>
----------	------	---	-------	---------------------	-------	---	-------------	-------------------

※日程等については変更することがあります。



## I 研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（第2回中央指導者研修）							
担当グループ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、校長のリーダーシップの下、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育や道徳教育推進教師を中心とした全教師による協力体制の充実と道徳教育の展開、実践活動や豊かな体験活動の充実、「特別の教科 道徳」の指導と評価等について、必要な知識等を習得させ、各地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者</li> <li>・小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、「道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）」等の講師等としての活動を行う者</li> <li>・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生（教職経験のある者に限る）</li> </ul>							
開催期日	令和2年1月20日（月）～令和2年1月24日（金）					5日間		
受講人数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	124	人	参加率	124.0%
開催場所	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体標準定員 800 人、受講者数 900 人、参加率 112.5%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	121	3	0	0	0	0	124
割合 (%)	97.6	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	124						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・校種混合グループ、校種別グループなど、いろいろな立場や校種の先生方と話し合いをしたり、交流することができよかったです。</li> <li>・講義、演習で学んだことを基に、学習指導案作成・模擬授業を行うことで学びが深まった点が良かった。</li> <li>・講義と演習がバランス良くあり、良かったと思う。</li> <li>・1日目、2日目…と段階を踏んで講義や演習などのプログラムを組み立ててくださっているので、とてもやりやすかったです。</li> <li>・Power Pointのカラフルさが気になった。色覚に特性がある教員も少なからずいると思うので、色の使用を少なめにしていただけないでしょうか。</li> <li>・数日にわたり同じグループで考えを深めることができた。多くの先生の視点を聞きたい気持ちもあるので、ワールドカフェ形式で、模擬授業後の協議を行うことも考えられる。</li> <li>・各地方の特別支援学校でも道徳教育で悩んでいることがあると思う。特別支援学校ならではの課題も共有できれば、各校や地方で生かしていけると考える。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修効果を高めるため、グループを適切な人数で編成し、1回目の受講対象者を主に指導主事、2回目を主に学校で勤務する教諭等に分け2回実施した。</li> <li>・研修成果活用計画書を事前課題に課し、研修講師となるべき指導者の養成が研修の目的であることを強調した。</li> <li>・研修成果活用に向けた演習の充実を図った。</li> <li>・研修講師となることを前提に、指導助言の在り方について学ぶ時間を設けた。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義1について、教科化が既に始まっていることを踏まえ、マネジメントの視点を取り入れる等、内容の見直しを図る。</li> <li>・講義・事例発表1について時間を延長し、道徳教育と特別活動との関連が明確になるよう、内容の充実を図る。</li> <li>・演習・協議3については、動画を取り入れて指導助言の在り方に関する協議を深める。</li> <li>・特別な支援を要する児童生徒に対する道徳教育について、内容に盛り込む。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

## 令和元年度 道德教育指導者養成研修（中央指導者研修）第2回

### 日程表

【1日目】	8:45	9:15	10:00	11:15	11:30	12:30	13:30	14:45	15:00	17:00
1月20日(月)	受付	オリエンテーション	開講式	講義1 「道德教育の抜本的 充実に向けて」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 学校教育官(併) 道德教育調査官口 石田 有記	休憩	講義2 「今、求められる道德教育の充実を目指して」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也 教科調査官 飯塚 秀彦	昼休憩	休憩	講義1 「学校の教育活動全体を通じて行う道德教育推進上の課題—情報交換・課題の共有—」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也 教科調査官 飯塚 秀彦	休憩
			◎目的： 道德教育の抜本的充実に向けて の最新の動向を理解する。	◎目的： 学習指導要領の趣旨を踏まえ、道德教育の現状と課題について理解するとともに、推進の在 り方について理解を深める。					◎目的： 事前課題をもとに、講義を踏まえた協議を行い、学校の教育活動全体を通じて行う道德教育推進上の課題を明確にする。	

【2日目】	8:45	11:00	11:15	11:45	12:45	15:00	15:15	17:00		
1月21日(火)	受付	講義・事例発表・講評1 「実践活動や体験活動を通じた道德教育」 (事例発表校) 京都市立松陽小学校 校長 前田 学	休憩	講義・事例発表・講評2 「学校の教育活動全体を通じて行う道德教育の実践と課題」 (事例発表校) 小学校：香川県高松市立太田南小学校 教諭 有馬 葉子 中学校：静岡県教育委員会静東教育事務所 教育主幹 森 佐和子	昼休憩	休憩	講義2 「学校の教育活動全体を通じて行う道德教育推進上の課題解決—道德教育を推進するリーダーとして—」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也 教科調査官 飯塚 秀彦	講義2 「学校の教育活動全体を通じて行う道德教育推進上の課題解決—道德教育を推進するリーダーとして—」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也 教科調査官 飯塚 秀彦	◎目的： ・道德的実践の学習活動の場としての特別活動について理解を深める。 ・特別活動における道德教育の具体的な事例を通して、学校の教育活動全体を通じて行う道德教育についての理解を深める。	◎目的： 道德教育を推進するリーダーとして、道德教育推進のための方策を考える。

【3日目】	8:45	10:15	10:30	12:00	13:00	17:00
	講義3 「『特別の教科 道徳』の充実 に向けて」	講義4 「『特別の教科 道徳』の指導と評 価」	演習・協議1 「『特別の教科 道徳』の授業づくりとその評価—協議—課題解決策の検討—」	休憩	演習・協議2 「『特別の教科 道徳』の授業づくりとその評価—協議—課題解決策の検討—」	休憩
1月22日(水)	帝京大学大学院 教職研究科 教授 赤堀 博行 ◎目的： 「特別の教科 道徳」の指導の基本 方針について理解を深め、授業改善 の視座を持つ。	文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也 ◎目的： 「特別の教科 道徳」の指導と評価に ついて理解する。	〈小学校部会指導助言者〉 北陸大学経済経営学部マネジメント学科 (中1～8) 教授 東風 安生 開智国際大学教育学部教育学科 (中9～16) 准教授 土井 雅弘 ◎目的： ・「特別の教科 道徳」における指導の配慮事項について理解を深め、授業の質的向上に向けた方策を考える。 ・「特別の教科 道徳」についての実践事例（事前課題）をもとに協議を行い、主体的・対話的で深い学びを実現 する多様な指導方法を取り入れた学習指導案を作成する。 ・年間指導計画（評価を含む）の改善のポイントについて理解する。	屋 休 憩	〈中学校部会指導助言者〉 府中市立府中第一中学校 (中1～7) 校長 森岡 耕平 武蔵野市立第二中学校 (中8～14) 校長 菅野 由紀子	屋 休 憩

【4日目】	8:45	12:00	13:00	17:00
	講義2-1 「『考え、議論する』道徳の実践Ⅰ—学習指導案の作成・検討—」	講義2-2 「『考え、議論する』道徳の実践Ⅱ—模擬授業の発表・協議—」	演習・協議2-1 「『考え、議論する』道徳の実践Ⅰ—学習指導案の作成・検討—」	演習・協議2-2 「『考え、議論する』道徳の実践Ⅱ—模擬授業の発表・協議—」
1月23日(木)	〈小学校部会指導助言者〉 北陸大学経済経営学部マネジメント学科 教授 東風 安生 開智国際大学教育学部教育学科 准教授 土井 雅弘 ◎目的： 「特別の教科 道徳」における学習指導案作成等に取り組むことを通して、主体的・対話的 で深い学びを実現する多様な指導方法を取り入れた授業改善のポイントや、各学校・地域に おける指導助言の在り方等について理解を深める。	〈中学校部会指導助言者〉 府中市立府中第一中学校 校長 森岡 耕平 武蔵野市立第二中学校 校長 菅野 由紀子	〈小学校部会指導助言者〉 北陸大学経済経営学部マネジメント学科 教授 東風 安生 開智国際大学教育学部教育学科 准教授 土井 雅弘 ◎目的： 模擬授業を通して、主体的・対話的で深い学びを実現する多様な指導方法を取り入れた授業改善のポイントや、各 学校・地域における指導助言の在り方等について理解を深める。	〈中学校部会指導助言者〉 府中市立府中第一中学校 校長 森岡 耕平 武蔵野市立第二中学校 校長 菅野 由紀子

【5日目】	8:45	11:30	12:30	15:00	15:15
	演習・協議3 「『考え、議論する』道徳の実践Ⅲ—代表班による模擬授業の発 表・協議—」	講義・演習 「道徳教育を推進するリーダーとして—研修プランの作成—」	屋 休 憩	閉 講 式	
1月24日(金)	文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也 教科調査官 飯塚 秀彦 ◎目的： 代表班による模擬授業を通し、「特別の教科 道徳」の指導の展開方策や各学 校・地域における指導助言の在り方等について理解を深める。	文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也 教科調査官 飯塚 秀彦 ◎目的： 本研修を振り返りつつ、研修成果を活用した研修プランを作成し、道 徳教育を推進するリーダーとしての知見を深める。	屋 休 憩	閉 講 式	

※日程等については変更することがあります。

## I 研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（北海道・東北ブロック）							
担当グループ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、校長のリーダーシップの下、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育や道徳教育推進教師を中心とした全教師による協力体制の充実と道徳教育の展開、実践活動や豊かな体験活動の充実、「特別の教科 道徳」の指導と評価等について、必要な知識等を習得させ、各地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者</li> <li>・小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、「道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）」等の講師等としての活動を行う者</li> <li>・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生（教職経験のある者に限る）</li> </ul>							
開催期日	令和元年8月19日（月）～令和元年8月21日（水）			3日間				
受講人数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	141	人	参加率	141.0%
開催場所	パーティーギャラリーイヤタカ（秋田県秋田市）							

※ 全体標準定員 800 人、受講者数 900 人、参加率 112.5%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった				あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義		概ね有意義						
人数 (人)	116	82.3	25	17.7	0	0.0	0	0.0	141
割合 (%)	141		100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

・教科調査官のお話は中学校教員の状況を踏まえて話していただき、納得することができました。難しい内容も大変分かりやすかったです。

・実際に文科省の調査官より話を聞ける機会はないので、本当に受講して有意義であった。

・他校種や他県の先生方との情報交換・交流はとてもよかった。自校に伝えたいこともたくさん見つけました。

・現在の悩んでいるところやわからないところに焦点をあてて説明していただきました。すぐにでも改善できることが多く見つけました。

・植田先生の講義では、すぐ学校現場で実践できるような道徳科の授業を行うための様々な工夫についてお話して頂き、とても参考になりました。

・特別活動と道徳の関わりについて学ぶことができたことがよかった。道徳教育の大切さを改めて実感した。

・講義内容が小中の先生向けのものが多く、高校の先生方にとっての時間もあればいいと感じた。

・せっかく地域から来ているので、もっと意見交換をしたかった。また、日頃の困りごとに答えてくださる機会がもっと欲しかった。

## III 研修内容・方法の見直し等

### 前年度を踏まえ

- ・研修成果活用計画書を事前課題に課し、研修の目的である指導者養成について強調した。
- ・協議・演習において、指導助言の在り方についての視点を取り入れた。
- ・研修成果活用計画書も活用し、研修成果活用計画の充実を図った。

### 次年度に向けて

- ・全体講師と各ブロックの分科会指導助言者の指導内容の整合性を図る。
- ・小・中学校分科会における演習・協議の充実のために、教材を精選する。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

令和元年度 道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）

【 北海道・東北ブロック 日程表 】

8月19日	9:00	9:20	9:50	11:05	12:15	13:15	13:45	14:00	15:30	15:45	17:00
	受付	開講式	オリエンテーション	講義1 「道徳教育の抜本的充実に向けて」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教育課程第一係 専門職 加藤 篤	休憩	講義2 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	屋休題	講義3 「実践活動や体験活動を通じた道徳教育」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 安部 恭子	休憩	講義 「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の推進上の課題 —情報交換・課題の共有—」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	17:00
8月20日	9:00	9:30	10:45	12:15	13:15	13:45	14:00	15:30	15:45	17:00	
	受付	講義(小・中①) 「『特別の教科 道徳』の充実に向けて」 香川大学教職大学院 植田 和也	休憩	講義(小・中②) 「『特別の教科 道徳』の指導と評価」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	屋休題	演習・協議1 「『考え、議論する』道徳の実践 —学習指導案の作成・検討—」 ＜小学校部会指導助言者＞ 秋田県総合教育センター 秋田県教育庁北教育事務所 ＜中学校部会指導助言者＞ 秋田県教育庁中央教育事務所 秋田県教育庁南教育事務所 雄勝出張所	講義 「『特別の教科 道徳』の指導と評価の在り方について」 ◎目的： 「特別の教科 道徳」の指導と評価の在り方について理解を深め、授業改善への視座を持つ。	演習・協議2 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践—全体計画等の改善策・展開例の検討・発表・協議—」 ◎目的： 小学校部会及び中学校部会に分かれ、「特別の教科 道徳」における学習指導案の作成・発表・協議を行うことを通して、主体的・対話的で深い学びを実現する多様な指導方法及び評価の具体的な在り方等について理解を深める。	17:00		

8月21日	9:00	10:30	10:45	12:00	13:00	15:00	15:15	17:00
	受付	事例発表・講評 「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の実践と課題」 小学校：男鹿市立美里小学校 教頭 佐々木 伸一 中学校：大仙市立平和中学校 教諭 後藤 匡 進藤 政晴	休憩	講義4 「道徳教育を推進するリーダーとして」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 飯塚 秀彦	屋休題	演習・協議3 「道徳教育の効果的な推進方策—研修プランの作成—」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 飯塚 秀彦	閉講式	17:00

※日程等について変更することがあります

## I 研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（関東・甲信越ブロック）								
担 当 課 グ ル ー プ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室								
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、校長のリーダーシップの下、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育や道徳教育推進教師を中心とした全教師による協力体制の充実と道徳教育の展開、実践活動や豊かな体験活動の充実、「特別の教科 道徳」の指導と評価等について、必要な知識等を習得させ、各地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。								
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者</li> <li>・小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、「道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）」等の講師等としての活動を行う者</li> <li>・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生（教職経験のある者に限る）</li> </ul>								
開 催 期 日	令和元年8月5日（月）～令和元年8月7日（水）			3日間					
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	105	人	参加率	105.0%	
開 催 場 所	前橋テルサ（群馬県前橋市）								

※ 全体標準定員 800 人、受講者数 900 人、参加率 112.5%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	87	17	1	0	0	0	105
割合 (%)	82.9	16.2	1.0	0.0	0.0	0.0	
	104						
	99.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・今、私たちが求めている道徳教育に関する授業法・評価法等、大変参考になりました。</li> <li>・具体的な事例発表があったので、推進の仕方がイメージできてよかった。</li> <li>・各講義を担当された先生方のお話が大変分かりやすく、3日間の研修がとても濃いものとなった。</li> <li>・小中高での実践例について先生方から聞くことができた点は良かった。</li> <li>・1日目が道徳教育全体、2日目が授業改善、3日目が研修推進に関わる内容で、それぞれ十分に学ぶ機会があり、大変勉強になりました。</li> <li>・内容として重複してしまう部分があり、(多少)かけ足になってしまった他の話を、もっとゆっくり聞きたかった。</li> <li>・協議・演習の時間がもう少し多いと、より主体的に学べたのではないかと思う。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修成果活用計画書を事前課題に課し、研修の目的である指導者養成について強調した。</li> <li>・協議・演習において、指導助言の在り方についての視点を取り入れた。</li> <li>・研修成果活用計画書も活用し、研修成果活用計画の充実を図る。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体講師と各ブロックの分科会指導助言者の指導内容の整合性を図る。</li> <li>・小・中学校分科会における演習・協議の充実のために、教材を精選する。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

令和元年度 道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）

【 関東・甲信越ブロック 日程表 】

9:00	9:20	9:50	11:05	12:15	13:15	13:45	14:00	15:30	15:45	17:00
8月5日	受付	開講式	オリエンテーション	講義1 「道徳教育の抜本的充実に向けて」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教育課程第一係 専門職 加藤 篤	休 憩	講義2 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	屋 休 憩	講義3 「実践活動や体験活動を通じた道徳教育」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 安部 恭子	休 憩	協 議 「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の推進上の課題 —情報交換・課題の共有—」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 浅見 哲也
				◎目的： 道徳教育の抜本的充実に向けての最新の動向を理解する。	◎目的： 学習指導要領の趣旨を踏まえ、道徳教育の現状と課題について理解するとともに、推進の在り方について理解を深める。	◎目的： 道徳実践の学習活動の場としての特別活動について、特別活動の意義を生かした道徳教育の意義や役割について理解する。	◎目的： 事前課題をもとに協議を踏まえた協議を行い学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育推進上の課題を明確にする。			

9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	13:45	14:00	15:30	15:45	17:00
8月6日	受付	講義(小・中①) 「『特別の教科 道徳』の充実に 向けて」 秋田立美術大学 毛内 嘉威 教授	休 憩	講義(小・中②) 「『特別の教科 道徳』の指導と評価」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	屋 休 憩	演習・協議1 「『考え、議論する』道徳の実践 —学習指導案の作成・検討—」 ＜小学校部会指導助言者＞ 高崎市立岩鼻小学校 校長 本田 伸一 みどり市立あすまふ小学校 教頭 植木 文貴 ＜中学校部会指導助言者＞ 太田市立北中学校 校長 栗原 信義 高崎市教育センター 指導主事 関川 暢洋	休 憩	発表・協議 ◎目的： 小学校部会及び中学校部会に分かれ、『特別の教科 道徳』における学習指導案の作成・発表・協議を行うことを通じて、主体的・対話的で深い学びを実現する多様な指導方法及び評価の具体的な在り方等について理解を深める。	
				◎目的： 『特別の教科 道徳』の指導と評価の在り方について理解を深める。	◎目的： 『特別の教科 道徳』の指導と評価の在り方について理解を深める。	◎目的： 『特別の教科 道徳』における学習指導案の作成・発表・協議を行うことを通じて、主体的・対話的で深い学びを實現する多様な指導方法及び評価の具体的な在り方等について理解を深める。	◎目的： 『特別の教科 道徳』の指導と評価の在り方について理解を深める。	◎目的： 『特別の教科 道徳』の指導と評価の在り方について理解を深める。	

9:00	10:30	10:45	12:00	13:00	15:00	15:15	17:00
8月7日	受付	事例発表・講評 「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の実践と課題」 小学校：藤岡市立藤岡第二小学校 教諭 帖佐 佳代 中学校：桐生市立中央中学校 教諭 佐々木 良	休 憩	講義4 「道徳教育を推進するリーダーとして」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 飯塚 秀彦	屋 休 憩	演習・協議3 「道徳教育の効果的な推進方策 —研修プランの作成—」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 飯塚 秀彦	閉 講 式
				◎目的： 本研修を振り返り、道徳教育を推進するリーダーとしての知見を深める。	◎目的： 本研修を活用した研修プランを作成し、道徳教育を推進するリーダーとしての自覚を深める。	◎目的： 道徳教育を推進するリーダーとしての自覚を深める。	

※日程等について変更することがあります

## I 研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（東海・北陸ブロック）							
担当グループ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、校長のリーダーシップの下、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育や道徳教育推進教師を中心とした全教師による協力体制の充実と道徳教育の展開、実践活動や豊かな体験活動の充実、「特別の教科 道徳」の指導と評価等について、必要な知識等を習得させ、各地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者</li> <li>・小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、「道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）」等の講師等としての活動を行う者</li> <li>・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生（教職経験のある者に限る）</li> </ul>							
開催期日	令和元年9月3日（火）～令和元年9月5日（木）					3日間		
受講人数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	94	人	参加率	94.0%
開催場所	プラザヴェルデ沼津（静岡県沼津市）							

※ 全体標準定員 800 人、受講者数 900 人、参加率 112.5%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	79	15	0	0	0	0	94
割合 (%)	84.0	16.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	94						100.0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳教育全般や道徳の授業（道徳科）に至るまで段階を踏んで研修していただいたので、「何をすべきか」がしっかり整理された。</li> <li>・どの講義も分かりやすく、講義の順番も良かった。</li> <li>・演習については、具体的に考えることができ、とても良かった。</li> <li>・最新の情報を知ることができ、今後の道徳教育を推進していくリーダー、指導的な役割を担う上で活用できる内容であったと思う。</li> <li>・文科省教科調査官から話をして頂けることがまずもって良かった。学習指導要領解説についても理解が深まり、また作り手の意図や熱意を知ること、こちら側としても書かれたものに納得ができ、今後周囲に伝達する上でも大変有意義であった。特別活動についても関連性がよくわかった。</li> <li>・「『特別の教科 道徳』の充実に向けて」の講義がとても印象的でした。前向きになれる内容で、伝達していきたいと思えます。</li> <li>・資料とパワーポイントのスライドが違う場合、どちらを見ればよいのか困るときがある。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修成果活用計画書を事前課題に課し、研修の目的である指導者養成について強調した。</li> <li>・協議・演習において、指導助言の在り方についての視点を取り入れた。</li> <li>・研修成果活用計画書も活用し、研修成果活用計画の充実を図った。</li> </ul> <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体講師と各ブロックの分科会指導助言者の指導内容の整合性を図る。</li> <li>・小・中学校分科会における演習・協議の充実のために、教材を精選する。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり



令和元年度 道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）

【東海・北陸ブロック 日程表】

9:00	9:20	9:50	11:05	11:15	12:15	13:15	13:45	14:00	15:30	15:45	17:00
	受付	オリエンテーション	講義1 「道徳教育の抜本的充実に向けて」 文部科学省初等中等教育局 教育課程係 係長 梶濱 真	講義2 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	昼休憩	事例発表・講評 「学校の教育活動全体を通じて行う 道徳教育の実践と課題」 小学校：富士市立富士第二小学校 教諭 道倉 隆二 中学校：島田市立六合中学校 教諭 竹森 恵子	休 憩	休 憩	休 憩	協議 「学校の教育活動全体を通じて行う 道徳教育の推進上の課題 —情報交換・課題の共有—」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	
9月3日			◎目的： 道徳教育の抜本的充実に向けての最新の動向を理解する。	◎目的： 学習指導要領の趣旨を踏まえ、道徳教育の現状と課題について理解するとともに、推進の在り方について理解を深める。		◎目的： 具体的な事例から道徳教育の充実に向けた新たな視点を学ぶ。				◎目的： 事前課題をもとに協議を踏まえ協議を行い、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育推進上の課題を明確にする。	

9:00	9:30	10:45	12:15	13:15	17:00
小・中学校校部会	講義(小・中①) 「『特別の教科 道徳』の充実に向けて」 帝京大学 教授 赤堀 博行	休 憩	講義(小・中②) 「『特別の教科 道徳』の指導と評価」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	演習・協議1 「『考え、議論する』道徳の実践 —学習指導案の作成・検討—」 ＜小学校部会指導助言者＞ 静岡県教育委員会静岡東教育事務所地域支援課 参事 羽田 裕彦 静岡県総合教育センター 教育主査 須田 敏弘 ＜中学校部会指導助言者＞ 静岡県教育委員会静岡西教育事務所地域支援課 参事 宮崎 克久 静岡県教育委員会分かれ、「特別の教科 道徳」における学習指導案の作成・発表・協議を行うことを通して、主体的・対話的で深い学びを実現する多様な指導方法及び評価の具体的な在り方等について理解を深める。	休 憩
9月4日	◎目的： 「特別の教科 道徳」について理解を深め、授業改善への指針を持つ。	◎目的： 「特別の教科 道徳」の指導と評価の在り方について理解を深める。	◎目的： 「特別の教科 道徳」の指導と評価の在り方について理解を深める。	◎目的： 小学校部会及び中学校部会に分かれ、「特別の教科 道徳」における学習指導案の作成・発表・協議を行うことを通して、主体的・対話的で深い学びを実現する多様な指導方法及び評価の具体的な在り方等について理解を深める。	
高等学校部会	講義(高校) 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 広島経済大学 教授 胤森 裕暢	休 憩	事例発表・講評・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 ＜事例発表者＞ 埼玉県立栗橋北彩高等学校 教諭 石塚 篤 ＜指導助言者＞ 広島経済大学 教授 胤森 裕暢	演習・協議2 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践 —全体計画等の改善策・展開例の検討・発表・協議—」 ＜指導助言者＞ 広島経済大学 教授 胤森 裕暢	休 憩
	◎目的： 高等学校における道徳教育の在り方について理解を深めるとともに、全体計画等の検討及び発表を通して、道徳教育を充実するための知識・方法を習得する。				

9:00	10:30	10:45	12:00	13:00	15:00	15:15
受 付	講義3 「実践活動や体験活動を通じた道徳教育」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 安部 森子	休 憩	講義4 「道徳教育を推進するリーダーとして」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 飯塚 秀彦	昼休憩	演習・協議3 「道徳教育の効果的な推進方策—研修プランの作成—」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 飯塚 秀彦	閉 講 式
9月5日	◎目的： 道徳教育の実践の場としての特別活動について、特別活動の構築を生かした道徳教育の意義や役割について理解する。	◎目的： 道徳教育を推進するリーダーとしての知見を深める。	◎目的： 本研修を振り返り、道徳教育を推進するリーダーとしての自覚を深める。		◎目的： 道徳教育を推進する研修プランを作成し、道徳教育を推進するリーダーとしての自覚を深める。	

※日程等について変更することがあります

## I 研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（近畿ブロック）							
担当グループ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、校長のリーダーシップの下、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育や道徳教育推進教師を中心とした全教師による協力体制の充実と道徳教育の展開、実践活動や豊かな体験活動の充実、「特別の教科 道徳」の指導と評価等について、必要な知識等を習得させ、各地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者</li> <li>・小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、「道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）」等の講師等としての活動を行う者</li> <li>・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生（教職経験のある者に限る）</li> </ul>							
開催期日	令和元年7月30日（火）～令和元年8月1日（木）					3日間		
受講人数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	108	人	参加率	108.0%
開催場所	ホテルルビノ京都堀川（京都府京都市）							

※ 全体標準定員 800 人、受講者数 900 人、参加率 112.5%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	80	27	1	0	0	0	108
割合 (%)	74.1	25.0	0.9	0.0	0.0	0.0	
	107						
	99.1						

2. 研修内容に関する主な意見

・どの講師の先生方もわかりやすく、本校で行える道徳教育の課題を考えることができた。  
 ・理論を踏まえて、実際にこれから研修が実施しやすいように道筋をつけていただいた。  
 ・指導案を持ち寄って協議する中で、自分では思いつかない発問や授業展開を知ることができ、大変役立った。  
 ・関連付けて研修内容、プログラムがつながっていて理解しやすかったです。また、なるほどと思うことも多かったです。  
 ・講義だけでなく事例発表、演習・協議があり、充実した内容で、よかったですと思います。  
 ・学習指導要領を基に具体的な話や言葉の説明などを詳しく聞くことができたので、今後、研修を行う時に生かせることがたくさんありました。  
 ・一教師として、道徳の授業において悩むことが多く、周りの同僚にアドバイスを求められることも多いので、授業についてより具体的にご指導いただけたら、と思いました。  
 ・重なる内容の講義があったので（大事なことを確認する上ではよいが）、もう少し講義の本数を減らし、日程を短縮することができたと思う。

## III 研修内容・方法の見直し等

### 前年度を踏まえ

- ・研修成果活用計画書を事前課題に課し、研修の目的である指導者養成について強調した。
- ・協議・演習において、指導助言の在り方についての視点を取り入れた。
- ・研修成果活用計画書も活用し、研修成果活用計画の充実を図る。

### 次年度に向けて

- ・全体講師と各ブロックの分科会指導助言者の指導内容の整合性を図る。
- ・小・中学校分科会における演習・協議の充実のために、教材を精選する。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

令和元年度 道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）

【近畿ブロック 日程表】

7月30日	9:00	9:20	9:50	11:05	12:15	13:15	13:45	14:00	15:30	15:45	17:00
		開講式	オリエンテーション	講義1 「道徳教育の抜本的充実に向けて」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教育課程第一係 専門職 加藤 篤	休憩	講義2 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	昼休憩	講義3 「実践活動や体験活動を通じた道徳教育」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 安部 恭子	休憩	協賛 「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の推進上の課題—情報交換・課題の共有—」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	
		受付									

7月31日	9:00	9:30	10:45	12:15	13:15	13:45	14:45	15:45	17:00		
		講義（小・中①） 「『特別の教科 道徳』の充実に 向けて」 北陸大学 東風 安生 教授	休憩	講義（小・中②） 「『特別の教科 道徳』の指導と評価」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	昼休憩	演習・協議1 「『考え、議論する』道徳の実践—学習指導案の作成・検討—」 ＜小学校部会指導助言者＞ 京都府教育庁之訓教育局学校教育担当 指導主事 貴之 京都府教育庁南丹教育局学校教育担当 指導主事 中田 匡恵 ＜中学校部会指導助言者＞ 京都府総合教育センター一研修・支援部 研究主事兼指導主事 長島 正博 京都府総合教育センター企画研究部 主任研究主事兼指導主事 小林 園		演習・協議2 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践—全体計画等の改善策・展開例の検討・発表・協議—」 ＜指導助言者＞ 茨城県教育庁学校教育部高校教育課 副参事 長島 利行		発表・協議 「『特別の教科 道徳』の指導と評価の在り方について 理解を深める。」 ◎目的： 「特別の教科 道徳」の指導と評価の在り方について 理解を深める。	

8月1日	9:00	10:30	10:45	12:00	13:00	15:00	15:15	
		事例発表・講評 「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の実践と課題」 小学校：木津川市立柘倉小学校 教諭 瀬戸 陽子 中学校：向日市立勝山中学校 教諭 島津 真紀	休憩	講義4 「道徳教育を推進するリーダーとして」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 飯塚 秀彦	昼休憩	演習・協議3 「道徳教育の効果的な推進方策—研修プランの作成—」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 飯塚 秀彦	閉講式	

※日程等について変更することがあります

## I 研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（中国・四国ブロック）						
担 当 課 グ ル ー プ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室						
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、校長のリーダーシップの下、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育や道徳教育推進教師を中心とした全教師による協力体制の充実と道徳教育の展開、実践活動や豊かな体験活動の充実、「特別の教科 道徳」の指導と評価等について、必要な知識等を習得させ、各地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。						
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者</li> <li>・小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、「道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）」等の講師等としての活動を行う者</li> <li>・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生（教職経験のある者に限る）</li> </ul>						
開催期日	令和元年8月27日（火）～令和元年8月29日（木）				3日間		
受講人数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	100	参加率	100.0%
開催場所	山口県健康づくりセンター（山口県山口市）						

※ 全体標準定員 800 人、受講者数 900 人、参加率 112.5%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	84	14	1	0	0	1	100
割合 (%)	84.8	14.1	1.0	0.0	0.0	1.0	
	98	99.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳教育・道徳科について、いろいろな視点から幅広く学べる内容があり、大変良かった。</li> <li>・「『特別の教科 道徳』の充実に向けて」の講義が大変具体的で、道徳科における深い学びがどんなものなのか、よく分かりました。</li> <li>・講義は内容が充実していて、演習も参加型で、どちらも有意義だった。</li> <li>・同じ指導案を持ち寄って協議したり、中学校教師など異校種の先生方と情報交換したりしたのがよかった。</li> <li>・学校教育全体で行う道徳教育について、理解が深まり良かった。全体計画や別葉の改善に取り組みたい。</li> <li>・スライド等、情報量がやや多く、聞き漏らすこと、メモにとれないことがあった。</li> <li>・他県の研修の進め方、道徳科を推進していくためにどのように取り組んでいるか、もっと聞きたかった。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修成果活用計画書を事前課題に課し、研修の目的である指導者養成について強調した。</li> <li>・協議・演習において、指導助言の在り方についての視点を取り入れた。</li> <li>・研修成果活用計画書も活用し、研修成果活用計画の充実を図った。</li> </ul> <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体講師と各ブロックの分科会指導助言者の指導内容の整合性を図る。</li> <li>・小・中学校分科会における演習・協議の充実のために、教材を精選する。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

令和元年度 道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）

【中国・四国ブロック 日程表】

9:00	9:20	9:50	11:05	11:15	12:15	13:15	13:45	14:00	15:30	15:45	17:00
	受付	オリエンテーション	講義1 「道徳教育の抜本的充実に向けて」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 係長 梶濱 真	講義2 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	昼食・休憩	事例発表・講評 「学校の教育活動全体を通じて行う 道徳教育の実践と課題」 小学校：宇部市立上宇部小学校 校長 安宅 正哉 中学校：周防大島町立大島中学校 校長 福江 功至	休憩	休憩	休憩	協議 「学校の教育活動全体を通じて行う 道徳教育の推進上の課題 —情報交換・課題の共有—」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	
			講義1 「道徳教育の抜本的充実に向けて」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 係長 梶濱 真	講義2 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	昼食・休憩	事例発表・講評 「学校の教育活動全体を通じて行う 道徳教育の実践と課題」 小学校：宇部市立上宇部小学校 校長 安宅 正哉 中学校：周防大島町立大島中学校 校長 福江 功至	休憩	休憩	休憩	協議 「学校の教育活動全体を通じて行う 道徳教育の推進上の課題 —情報交換・課題の共有—」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	
			講義1 「道徳教育の抜本的充実に向けて」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 係長 梶濱 真	講義2 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	昼食・休憩	事例発表・講評 「学校の教育活動全体を通じて行う 道徳教育の実践と課題」 小学校：宇部市立上宇部小学校 校長 安宅 正哉 中学校：周防大島町立大島中学校 校長 福江 功至	休憩	休憩	休憩	協議 「学校の教育活動全体を通じて行う 道徳教育の推進上の課題 —情報交換・課題の共有—」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	

9:00	9:30	10:45	12:15	13:15	17:00	
小・中学校校部会	講義(小・中①) 「『特別の教科 道徳』の充実に向けて」 畿央大学大学院 教授 島 恒生	講義(小・中②) 「『特別の教科 道徳』の指導と評価」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	昼食・休憩	演習・協議1 「『考え、議論する』道徳の実践 —学習指導案の作成・検討—」 ＜小学校部会指導助言者＞ やまぐち総合教育支援センター 研究指導主事 花岡 欽平 やまぐち総合教育支援センター 研究指導主事 福田 欽一 ＜中学校部会指導助言者＞ 岩国市立川下中学校 教頭 佐々木 英樹 岩国市立東小中学校 教頭 末次 弘幸	休憩	演習・協議2 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践—全体計画等の改善策・展開例の検討・発表・協議—」 ＜指導助言者＞ 山口県立下関南高等学校 校長 山田 哲也 ＜指導助言者＞ 国学院大学 教授 澤田 浩一
高等学校部会	講義(高校) 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 国学院大学 教授 澤田 浩一	事例発表・講評・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 ＜事例発表者＞ 山口県立下関南高等学校 校長 山田 哲也 ＜指導助言者＞ 国学院大学 教授 澤田 浩一	昼食・休憩	演習・協議2 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践—全体計画等の改善策・展開例の検討・発表・協議—」 ＜指導助言者＞ 山口県立下関南高等学校 校長 山田 哲也 ＜指導助言者＞ 国学院大学 教授 澤田 浩一	休憩	演習・協議3 「道徳教育の効果的な推進方策—研修プランの作成—」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 飯塚 秀彦
高等学校部会	講義(高校) 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 国学院大学 教授 澤田 浩一	事例発表・講評・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 ＜事例発表者＞ 山口県立下関南高等学校 校長 山田 哲也 ＜指導助言者＞ 国学院大学 教授 澤田 浩一	昼食・休憩	演習・協議2 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践—全体計画等の改善策・展開例の検討・発表・協議—」 ＜指導助言者＞ 山口県立下関南高等学校 校長 山田 哲也 ＜指導助言者＞ 国学院大学 教授 澤田 浩一	休憩	演習・協議3 「道徳教育の効果的な推進方策—研修プランの作成—」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 飯塚 秀彦

9:00	10:30	10:45	12:00	13:00	15:00	15:15
受付	講義3 「実践活動や体験活動を通して道徳教育」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 安部 森子	講義4 「道徳教育を推進するリーダーとして」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 飯塚 秀彦	昼食・休憩	講義3 「道徳教育の効果的な推進方策—研修プランの作成—」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 飯塚 秀彦	閉講式	
受付	講義3 「実践活動や体験活動を通して道徳教育」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 安部 森子	講義4 「道徳教育を推進するリーダーとして」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 飯塚 秀彦	昼食・休憩	講義3 「道徳教育の効果的な推進方策—研修プランの作成—」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 飯塚 秀彦	閉講式	

※日程等について変更することがあります

## I 研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（九州・沖縄ブロック）							
担当グループ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、校長のリーダーシップの下、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育や道徳教育推進教師を中心とした全教師による協力体制の充実と道徳教育の展開、実践活動や豊かな体験活動の充実、「特別の教科 道徳」の指導と評価等について、必要な知識等を習得させ、各地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者</li> <li>・小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、「道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）」等の講師等としての活動を行う者</li> <li>・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生（教職経験のある者に限る）</li> </ul>							
開催期日	令和元年10月23日（水）～令和元年10月25日（金）				3日間			
受講人数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	100	人	参加率	100.0%
開催場所	J A・A Z Mホール（宮崎県宮崎市）							

※ 全体標準定員 800 人、受講者数 900 人、参加率 112.5%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	88	11	1	0	0	0	100
割合 (%)	88.0	11.0	1.0	0.0	0.0	0.0	
	99	99.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳教育の充実に向けて、道徳科・特別活動・他教科等、あらゆる方向からアプローチする内容が盛り込まれていてよかった。</li> <li>・今まさに知りたい、学びたい内容でした。すぐに戻って活用できる内容だと思います。</li> <li>・一つ一つ丁寧に解説をしていただいたり、具体的な実践例が出てきたりと、分からない点が日を重ねるにつれ、明確になりました。</li> <li>・道徳科に限らず、道徳教育という広い視野から学べたことが良かった。</li> <li>・実践的な内容（全体計画の練り直しや研修案の作成）が多くて、とても参考になった。</li> <li>・直接、調査官の先生からお話を聞けることが全てである。</li> <li>・内容が重複している点が多い、と感じました。</li> <li>・講義後の質疑応答の時間がとれるとよかったです。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修成果活用計画書を事前課題に課し、研修の目的である指導者養成について強調した。</li> <li>・協議・演習において、指導助言の在り方についての視点を取り入れた。</li> <li>・研修成果活用計画書も活用し、研修成果活用計画の充実を図った。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体講師と各ブロックの分科会指導助言者の指導内容の整合性を図る。</li> <li>・小・中学校分科会における演習・協議の充実のために、教材を精選する。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

令和元年度 道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）

【九州・沖縄ブロック 日程表】

9:00	9:20	9:50	11:05	11:15	12:15	13:15	13:45	14:00	15:30	15:45	17:00
	受付	オリエンテーション	講義1 「道徳教育の抜本的充実に向けて」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教育課程第一係 専門職 加藤 篤	講義2 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	昼休憩	事例発表・講評 「学校の教育活動全体を通じて行う 道徳教育の実践と課題」 小学校：宮崎大学教育学部附属小学校 教諭 貴島 美保 中学校：小林市立細野中学校 教諭 尾崎 瑞代	休 憩	休 憩	休 憩	協議 「学校の教育活動全体を通じて行う 道徳教育の推進上の課題 —情報交換・課題の共有—」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	
10月23日			◎目的：道徳教育の抜本的充実に向けての最新の動向を理解する。	◎目的：学習指導要領の趣旨を踏まえ、道徳教育の現状と課題について理解するとともに、推進の在り方について理解を深める。		◎目的：具体的な事例から道徳教育の充実に向けた新たな視点を学ぶ。				◎目的：事前課題をもとに協議を踏まえ協議を行い、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育推進上の課題を明確にする。	

9:00	9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	13:15	17:00
小・中学校校部会	講義（小・中①） 「『特別の教科 道徳』の充実に向けて」 山口市立上郷小学校 校長 坂本 哲彦	休 憩	講義（小・中②） 「『特別の教科 道徳』の指導と評価」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	昼休憩	演習・協議1 「『考え、議論する』道徳の実践 —学習指導案の作成・検討—」 ＜小学校部会指導助言者＞ 豊迫 裕紀子 酒匂 美貴子 宮崎県教育研修センター 指導主事 木村 淳子 ＜中学校部会指導助言者＞ 延岡市立東海小学校 指導主事 日置 洋平 南部教育事務所	休 憩	演習・協議2 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践—全体計画等の改善策・展開例の検討・発表・協議—」 ＜指導助言者＞ 澤田 浩一 国学院大学 教授
高等学校校部会	講義（高校） 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 国学院大学 澤田 浩一	休 憩	事例発表・講評・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 宮崎県立小林秀峰高等学校 教諭 基本 晃一 ＜指導助言者＞ 澤田 浩一 国学院大学 教授	昼休憩			
			◎目的：『特別の教科 道徳』について理解を深め、授業改善への指針を持つ。	◎目的：『特別の教科 道徳』の指導と評価の在り方について理解を深める。	◎目的：『特別の教科 道徳』における学習指導案の作成・発表・協議を行うことを通して、主体的・対話的で深い学びを実現する多様な指導方法及び評価の具体的な在り方等について理解を深める。		

9:00	10:30	10:45	12:00	13:00	15:00	15:15	17:00
受 付	講義3 「実践活動や体験活動を通じた道徳教育」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 安部 森子	休 憩	講義4 「道徳教育を推進するリーダーとして」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 飯塚 秀彦	昼休憩	演習・協議3 「道徳教育の効果的な推進方策—研修プランの作成—」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 飯塚 秀彦	閉 講 式	
10月25日			◎目的：道徳教育の実践の場としての特別活動について、特別活動の構築を生かした道徳教育の意義や役割について理解する。	◎目的：本研修を振り返り、道徳教育を推進するリーダーとしての知見を深める。	◎目的：研修成果を活用した研修プランを作成し、道徳教育を推進するリーダーとしての自覚を深める。		

※日程等について変更することがあります

## I 研修概要

研 修 名	学校教育の情報化指導者養成研修							
担 当 課 グ ル ー プ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研 修 目 的	各教科等における効果的な指導方法の開発、校務の効率化や学校経営の改善等を進めるため、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、地域や学校の実態に即して学校教育の情報化を組織的に推進することが重要である。 本研修では、ICTを活用したわかる授業を展開するための手だて、特色ある教育課程の編成や学校課題解決のためのICT活用戦略づくり等、教育活動の質の改善を円滑に行うため、各学校や地域における学校教育の情報化を推進する指導者として必要な知識等を習得する。さらに、研修後の成果活用を通して、1) 学校教育の情報化に関する専門的知見を活用して組織的な取組を推進する力や、2) 学校、地域の教職員の専門性向上を推進する力を修得した指導者の養成を図る。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者（学校教育の情報化のための整備活動に関わる者を含む）</li> <li>・小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者</li> <li>・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生（教職経験のある者に限る）</li> </ul>							
開 催 期 日	令和2年1月27日（月）～令和2年1月31日（金）					5日間		
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	124	人	参加率	124.0%
開 催 場 所	つくば中央研修センター							

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	113	10	0	0	0	1	124
割合 (%)	91.9	8.1	0.0	0.0	0.0	0.8	
	123						100.0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師陣もその分野の第一人者ばかりで、大変中身の濃い充実した5日間でした。</li> <li>・学校教育の情報化を進めていくために、必要な理論と実践スキルを体系的に学ぶことができた。</li> <li>・全国から集まった先生方の話を伺うと、自分の県の足りないところや、逆に優れていることを知ることができました。学校に戻ったらそれを還元し、生徒の利益にしていきたいと思います。</li> <li>・これまで気づかなかった視点やICT機器を用いた学習の展開について学ぶことができ、今後、校内研修などで活用し、教員とともに理解を深めていきたい。</li> <li>・各講師の講話内容が即、実践可能なものや、課題解決の糸口になるものであった。</li> <li>・GIGAスクールについて、よく知ることができた。喫緊の課題なので有難い機会になりました。</li> <li>・講義の対象が現場なのか、委員会なのか、聞いていてわからない時がありました。</li> <li>・次年度から実施のプログラミング教育について関心が高かったと思います。そのコマが少ないのではないかと思います。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の科学的理解およびプログラミング教育に関する内容を学校種別の部会に分けて実施し、内容の充実を図った。小学校におけるプログラミング教育は、内容が非常に高度であるため、満足度がやや低調であった。このことから担当講師と難易度について調整するとともに、アンブラグトのプログラミング教育についても取り扱うようにした。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Society5.0時代を見据え、先端技術を活用した教育の必要性が高まっていることに対応するため、定員を増やすとともに2回開催する。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり



令和元年度 学校教育の情報化指導者養成研修  
日程表

1 日目

令和2年 1月27日 (月)	9:30	10:00	11:00	12:00	13:00	15:15	15:30	17:00
		受付	開 講 式 ・ オ リ エン テー ション	講義 「新しい時代における学校教育の情報化」 文部科学省 初等中等教育局 情報教育・外国語教育課 情報教育振興室長 折笠 史典 ◎目的： 教育改革の方向性を見据え、現状と課題とを踏まえた学校教育の情報化推進方策の全体像を捉える。	昼休憩	講義 「新学習指導要領を踏まえた学校教育の情報化」 東北大学 教授 堀田 龍也 ◎目的： 新学習指導要領を踏まえた学校教育の情報化を推進する上での重要なポイントを理解するとともに、学校教育の情報化に関する諸外国の取組を知り、視野を広める。	休憩	演習 「各地域における学校教育の情報化推進の現状と課題」 ◎目的： 各地域における学校教育の情報化に関する取組について情報交換をすることにより、課題を共有する。

2 日目

令和2年 1月28日 (火)	8:30	12:30	13:30	17:00
	講義・事例発表・演習 「分かりやすい授業づくりのための教科指導におけるICT活用」 東京学芸大学 准教授 高橋 純 ◎目的： 各教科等の目的の実現に向けて、「主体的・対話的で深い学び」の考え方も踏まえ、効果的かつ計画的なICT活用による授業改善について検討する。	昼休憩	講義・事例発表・演習 「学校組織マネジメントの視点に立った校務の情報化」 NPO法人ほっかいどう学推進フォーラム 理事長 北海道開発技術センター地域政策研究所 参事 前札幌市立屯田小学校 校長 新保 元康 ◎目的： 働き方改革を実現するための校務の学校教育の情報化指導者養成研修について理解するとともに、教育活動全般がどのように変化するかを知り、望ましい学校組織について学び、校務の情報化推進方策について検討する。	

3 日目

令和2年 1月29日 (水)	8:30	12:30	13:30	17:00
	事務連絡	講義・事例発表・演習（小学校部会1）食堂棟3階レセプションホール 「児童生徒の探究的・協同的な学習におけるICT活用」 鳴門教育大学 准教授 泰山 裕 ◎目的： 「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、一人一台のタブレット端末を活用することによって、探究的・協同的な学習におけるICT活用による授業改善について検討する。	昼休憩	講義・事例発表・演習（小学校部会2）食堂棟3階レセプションホール 「プログラミング的思考の育成」 埼玉大学 教授 山本 利一 ◎目的： 中学校、高等学校で扱うプログラミングについて理解したうえで、プログラミング的思考の育成について考え、発達段階に応じて、どのような指導を行えばよいかを検討する。
	事務連絡	講義・事例発表・演習（中学校・高等学校部会）第二研修棟2階研修室 「情報の科学的な理解を深める指導」（中学校・高等学校部会） 文部科学省教科調査官 鹿野 利春 ◎目的： 中学校における情報活用能力、高等学校における情報化の科目再編、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、情報の科学的な理解を育むことの重要性について考え、発達段階に応じて、どのような指導を行えばよいかを検討する。	昼休憩	

4 日目

令和2年 1月30日 (木)	8:30	12:30	13:30	17:00
	事務連絡	講義・事例発表・演習 「情報社会に主体的に参画する態度を育む指導」 静岡大学 准教授 塩田 真吾 ◎目的： 情報社会に主体的に参画する態度を育む指導を行うために、学校の組織的な対応や発達段階に応じた体系的な情報モラル教育（情報セキュリティに関する教育を含む）について検討する。	昼休憩	講義・事例発表・演習 「情報活用の実践力を育む学習活動の設計」 東北学院大学 教授 稲垣 忠 ◎目的： さまざまな教科・単元で情報活用の実践力を育成する指導方法と評価を考え、児童生徒のICT活用を含めてどのような学習活動を設計すればよいかを検討する。

5 日目

令和2年 1月31日 (金)	8:30	11:30	12:30	14:00	14:25
	事務連絡	講義・事例発表・演習 「学校教育の情報化推進のためのICT戦略づくり」 横浜国立大学 教授 野中 陽一 奈良県立教育研究所 小崎 誠二 ◎目的： 本研修における講義や演習の全体を踏まえ、学校教育の情報化を推進するための学校の体制づくりと戦略を考える。学校改革のためのICT活用戦略を考案、発表し、協議する。	昼休憩		閉 講 式

## I 研修概要

研修名	人権教育指導者養成研修							
担当グループ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研修目的	<p>学校教育には、児童生徒に人権感覚を身につけさせ、人権意識を尊重して行動できるような教育を実施することが求められており、各学校においては、「人権教育の指導方法等の在り方について（第三次とりまとめ）」の提言を踏まえ、人権教育の指導方法等の改善・充実を図ることが求められている。</p> <p>本研修では、人権教育に関する国内外の動向や人権教育に関する効果的な指導方法等について、研究協議及び演習等を行うことにより児童生徒に人権を尊重する態度を育成するため、各学校や地域において人権教育を組織的に推進する指導者として必要な知識等を習得する。さらに、研修後の成果活用を通して、</p> <p>1) 人権教育に関する専門的知見を活用して組織的な取組を推進する力や、2) 学校、地域の教職員の専門性向上を推進する力を修得した指導者の養成を図る。</p>							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者</li> <li>・幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校(園)長、副校(園)長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭等</li> <li>・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生（教職経験のある者に限る）</li> </ul>							
開催期日	令和元年7月16日（火）～令和元年7月19日（金）				4日間			
受講人数	標準定員 (計画人数)	120	人	受講者数	123	人	参加率	102.5%
開催場所	つくば中央研修センター							

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった				あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計		
	大変有意義		概ね有意義								
人数 (人)	106	86.2	16	13.0	1	0.8	0	0.0	0	0.0	123
割合 (%)	122		99.2								

2. 研修内容に関する主な意見

・他都道府県の方々との交流を通して、新たな取組や課題の共有ができた。  
 ・最新の情報を知ることができた。今後、研修等を企画する時に役立つ知識を得られた。  
 ・講師の先生方の話の深さやそれぞれの考え方・思いが伝わり、学校に戻った時に多くの先生に伝え、生徒たちに伝えていきたいと感じることができた。  
 ・職場に戻ってすぐに生かせそうな内容がたくさんあった。  
 ・講義内容、そして何よりグループで1つのもを作り上げるという演習は、とても刺激的で有意義な時間となった。  
 ・日本を代表する一流の講師の先生方の講義を聞いた。どの講義内容もわかりやすく、素晴らしかった。  
 ・前半の講義はいろいろな情報・知識を得ることができて良かったです。後半のグループでの活動は、各県の様子を知ることができました。  
 ・それぞれの専門の方々から凝縮した情報をめいいっぱいお話していただきながら、演習を通してそれを少しずつ確認、吸収していくことができた。

## III 研修内容・方法の見直し等

**前年度を踏まえ**

- ・障害のある子供、障害のない子供の双方にとって、豊かな人間性を育むとともに、お互いを尊重し合う大切さを学ぶ「障害理解を中心とした心のバリアフリー」の講義を新設した。
- ・事前課題の協議が、研修3日目～4日目のグループワークへと接続するよう、趣旨を明確にした協議内容とした。
- ・事例発表の校種を、講義で扱う校種と重複しないよう選定するとともに、校内の連携、地域との連携、学校間の連携の視点から選定することで、多面的多角的な検討を行えるようにした。

**次年度に向けて**

- ・人権教育の普及啓発の強化に従来以上に取り組むことが求められていることに対応するため、研修期間を4日間から5日間に延長する。
- ・ハンセン病に関する教育の実施ならびに外国人児童生徒の人権と教育支援についての講義を新たに設ける。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

## 令和元年度人権教育指導者養成研修 日程表

	9:00 9:30		10:30 10:40		12:00		13:00		15:25 15:40	17:00
7月16日 (火)	受付	<p><b>講義1</b></p> <p>「人権教育を取り巻く国の動向等について」</p> <p>文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 課長補佐 田島 博樹</p>	休憩	<p><b>講義2</b></p> <p>「北朝鮮当局による拉致問題等について」(40分)</p> <p>内閣官房 拉致対策本部事務局 政策企画室 企画官 斉藤 康弘</p> <p>「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律及び部落差別の解消の推進に関する法律について」(40分)</p> <p>法務省人権擁護局 局付 関口 奈々</p>	昼休憩	<p><b>講義3</b></p> <p>「国内外の動きと学校における人権教育」</p> <p>上越教育大学大学院 理事兼副学長 梅野 正信</p>	休憩 (15分)	<p><b>演習1</b></p> <p>「人権教育推進上の課題と改善策等についてー『人権教育の指導方法等の在り方について [第三次とりまとめ]』等を踏まえてー」</p> <p>教職員支援機構 つくば中央研修センター 村松 遼太</p> <p>指導助言 上越教育大学大学院 理事兼副学長 梅野 正信 上越教育大学講師 蜂須賀 洋一</p>	休憩	

	8:45		10:15 10:30		12:15		13:15		15:00 15:15	17:00
7月17日 (水)	<p><b>講義4</b></p> <p>「障害理解を中心とした心のバリアフリー」</p> <p>筑波大学准教授 水野 智美</p>	休憩	<p><b>講義5</b></p> <p>「学校で配慮と支援が必要なLGBTsの子どもたち」</p> <p>宝塚大学教授 日高 庸晴</p>	昼休憩	<p><b>事例発表・協議・演習</b></p> <p>「人権教育推進上の課題と改善策等についてー『人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ]』等を踏まえてー」</p> <p>事例発表 横瀬町教育委員会・横瀬町立横瀬小学校 神奈川県立綾瀬高等学校 埼玉県教育委員会</p> <p>指導助言 上越教育大学大学院 理事兼副学長 梅野 正信 上越教育大学 講師 蜂須賀 洋一 元東大阪市立枚岡小学校長 神野 ちどり</p>	休憩 (15分)				

	8:45		12:00	13:00		17:00
7月18日 (木)	<p><b>演習2</b></p> <p>「学校における人権教育の改善・充実についてー『人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ]』等を踏まえてー」</p> <p>(指導助言者) Aグループ 元東大阪市立枚岡東小学校校長 神野 ちどり 第二研修棟2階 教職員支援機構 つくば中央研修センター長 葛上 秀文</p> <p>Bグループ 東京学芸大学 准教授 林 尚示 特別研修棟A 教職員支援機構 つくば中央研修センター 村松 遼太</p> <p>Cグループ 鳴門教育大学 准教授 井上 奈穂 特別研修棟B 上越教育大学 講師 蜂須賀 洋一</p>	休憩 (15分)	昼休憩	休憩 (15分)		

	8:45		12:00	13:00		15:00 15:15
7月19日 (金)	<p><b>演習3</b></p> <p>「学校における人権教育の改善・充実についてー全体発表・協議・まとめー」</p> <p>指導助言 元東大阪市立枚岡小学校長 神野 ちどり 東京学芸大学 准教授 林 尚示 鳴門教育大学 准教授 井上 奈穂 上越教育大学 講師 蜂須賀 洋一</p>	休憩 (15分)	昼休憩	<p><b>課題協議</b></p> <p>「人権教育を推進するリーダーとしてー研修講師、企画・運営に向けてー」</p> <p>教職員支援機構 つくば中央研修センター</p>	休憩 (15分)	閉講式

## I 研修概要

研修名	キャリア教育指導者養成研修(第1回)									
担当グループ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室									
研修目的	キャリア教育を担当する指導主事等に対し、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、発達段階に応じたキャリア教育の在り方、校内外の連携を踏まえたキャリア教育推進のための具体的な手立て、キャリア教育の評価・改善方策について、各学校や地域における研修のマネジメントを推進する指導者として必要な知識等を習得させる。また、本研修で習得した内容を踏まえ、各地域における研修講師等として、1) キャリア教育に関する諸課題の改善に専門的知見を活用し、組織的な取組を推進する力、2) 学校、地域において教職員の専門性向上を推進する力、を發揮し、指導・助言等を行うことのできる指導者の養成を図る。									
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者</li> <li>・小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭等であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者</li> <li>・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生（教職経験のある者に限る）</li> </ul>									
開催期日	令和元年6月24日（月）～令和元年6月28日（金）					5日間				
受講人数	標準定員 (計画人数)	80	人	受講者数	89	人	参加率	111.3%		
開催場所	パレブラン高志会館（富山県富山市）									

※ 全体標準定員 160 人、受講者数 185 人、参加率 115.6%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	82	6	0	0	0	1	89
割合 (%)	93.2	6.8	0.0	0.0	0.0	1.1	
	88						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育について、自分の見識を深め、今後の自身の役割をじっくりと考えることができる貴重な機会となりました。</li> <li>・キャリアとは何か？から始まり、具体的な計画や指導法・カウンセリングに至るまで、深く学べたので大変有意義な研修であった。今後の教育活動に生かしていき、他の教員にも自分の言葉で伝えていければと思う。</li> <li>・講義だけでなく、豊富な演習の時間があつたため、より理解が深まりました。週の前半が講義中心、後半が演習中心であったのも、集中して取り組める要因であったと思います。校種が混じった班では考え方の違いに気づき、学びの多い時間でした。</li> <li>・「研修を実施する」という明確なゴールに向け、計画・運営の具体的手法と、研修受講者の立場を経験できたことが最大の収穫です。</li> <li>・3、4日目に、実践形式でキャリア計画を作らせてもらえた。今後、各学校現場に出向き、研修を行っていく上で先生方が抱える悩みや計画を立てる上での注意点がよくわかった。</li> <li>・もう少し同じチームで話し合う時間をとっていただくと、チームとして情報を共有できると思います。（あまりにも目まぐるしくチームが変わるので、顔を覚えるのが大変でした。）</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領を反映した内容に更新した。</li> <li>・地元企業やPTAを演習・協議に加えたり、県内の先進的な取組を実践事例として紹介したりするなど、地域の人材を活用することで、地方会場で開催する特色をより鮮明にした。</li> </ul> <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義・演習間の内容の重なりや時間配分などを調整し、最適化する。</li> <li>・引き続き、富山県の特徴を研修に反映する。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

# 令和元年度 キャリア教育指導者養成研修（第1回） 日程表

第1日目

9:30		10:30	12:30	13:30	14:45	15:00	17:00
開講式	休憩	講義・演習 「キャリア教育の理解①現状と課題」 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹	講義・演習 「キャリア教育の理解②学習指導要領」 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 長田 徹  【事例発表】 みやき町立中原中学校 教諭 石原 紳一郎	講義・演習 「キャリア教育の理解③学習指導要領」 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 長田 徹  【事例発表】 みやき町立中原中学校 教諭 石原 紳一郎	講義・演習 「キャリア教育の理解④企業との協力体制の構築とキャリア教育の創造」 清川メッキ工業株式会社 専務取締役兼 品質保証部長 清川 卓二	講義・演習 「キャリア教育の理解⑤企業との協力体制の構築とキャリア教育の創造」 清川メッキ工業株式会社 専務取締役兼 品質保証部長 清川 卓二	事例発表・協議 「社会に開かれた教育課程①横の連携を意識したキャリア教育（全体）」 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹  【事例発表】 岡山県立津山商業高等学校 教頭 二木 信輔
6/24 (月)	9:30	10:30	12:30	13:30	14:45	15:00	17:00
		<p>講義・演習 「キャリア教育の理解①現状と課題」 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹</p>		<p>講義・演習 「キャリア教育の理解②学習指導要領」 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 長田 徹  【事例発表】 みやき町立中原中学校 教諭 石原 紳一郎</p>		<p>講義・演習 「キャリア教育の理解③学習指導要領」 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 長田 徹  【事例発表】 みやき町立中原中学校 教諭 石原 紳一郎</p>	
		<p>目的： キャリア教育の背景や必要性を理解し、最新情報に触れる。また、5日間に見過しを持つ。</p>		<p>目的： 新学習指導要領におけるキャリア教育の方向性を確認するとともに、キャリア教育の中核の時間となる「特別活動」及び「キャリア・パスポート」について理解を深める。</p>		<p>目的： キャリア教育における地域連携について考え、課題を整理する。</p>	

第2日目

8:50	11:00	11:10	12:10	13:10	14:10	14:20	17:00
事例発表・協議 「社会に開かれた教育課程②横の連携を意識したキャリア教育（校種別）」 小学校 講師 仙台市立錦ヶ丘小学校 校長 菅原 弘一 事例 水見市立久目小学校 教諭 寺崎 孝史 中学校 講師 横浜市教育委員会 主任指導主事 熊切 隆 事例 水見市立西部中学校 教諭 小清水 育代 高等学校 講師 有限会社沖縄教育ラボ 取締役 神部 愛 事例 富山県教育委員会 指導主事 林 貴宏 指導助言者※	休憩	講義 「社会に開かれた教育課程③地域と協働して進めるキャリア教育の必要性」 スクールアドバイザー ネットワーク 理事長 生重 幸恵	講義 「社会に開かれた教育課程④企業との協力体制の構築とキャリア教育の創造」 清川メッキ工業株式会社 専務取締役兼 品質保証部長 清川 卓二	講義 「社会に開かれた教育課程⑤企業との協力体制の構築とキャリア教育の創造」 清川メッキ工業株式会社 専務取締役兼 品質保証部長 清川 卓二	講義 「社会に開かれた教育課程⑥企業との協力体制の構築とキャリア教育の創造」 清川メッキ工業株式会社 専務取締役兼 品質保証部長 清川 卓二	事例発表・協議 「児童生徒の発達を促す①縦の連携を意識したキャリア教育」 国立教育政策研究所 主任研究官 立石 慎治 秋田県大館市立第一中学校 校長 小林 一彦 日本大学 教授 望月 由起  【事例発表】 北海道立長万部高等学校 教諭 館 龍之介	事例発表・協議 「社会に開かれた教育課程⑦横の連携を意識したキャリア教育」 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹  【事例発表】 みやき町立中原中学校 教諭 石原 紳一郎
6/25 (火)	8:50	11:00	12:10	13:10	14:10	14:20	17:00
		<p>目的： 校種別に学校と地域の協働によるキャリア教育の具体を考え、成果と課題を整理する。</p>		<p>目的： 効果的にキャリア教育を進めるための企業との連携方を学ぶ。</p>		<p>目的： キャリア教育における校種連携について考え、課題を整理する。</p>	

第3日目

8:50	9:50	10:50	11:00	12:00	13:00	17:00
事例発表・協議 「児童生徒の発達を促す①」 縦の連携を意識したキャリア教育」に同じ	講義 「児童生徒の発達を促す②発達段階に応じたキャリア教育」 東北大学名誉教授 菊池 武烈	休憩	演習 「カリキュラム・マネジメント①キャリア教育推進のためのプログラム開発」 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹 東大阪市教育委員会 室長 竹中 重雄 (義務) 島根県教育委員会 指導主事 伊藤 淳一 (義務) 足立区教育委員会 指導主事 佐藤 学 (中等) 福岡県立大牟田北高等学校 教諭 平川 裕美子 (中等)	昼休み	休憩	休憩
◎目的：児童生徒の現状や身につけさせたい資質・能力を踏まえた指導計画作りを通して、キャリア教育推進のためのプログラム開発に必要な知識・方法を得る						

第4日目

8:50	10:20	10:35	14:30	14:45	17:00	
「児童生徒の発達を促す③キャリア・カウンセリングの基盤としてのコミュニケーションスキルの向上」 追手門学院大学 教授 三川 俊樹	「児童生徒の発達を促す③キャリア・カウンセリングの基盤としてのコミュニケーションスキルの向上」 目的：キャリア・カウンセリングの理論と具体について体得する。	「学校における教育活動全体を通じて行うキャリア教育の展開方策」 荒川区立第三中学校 校長 清水 隆彦 目的：キャリア教育の視点からした学校経営の理論と具体的なリーダーシップの在り方について考える。	「PDCAサイクルを踏まえた指導計画等の評価・改善手法」 筑波大学 教授 藤田 晃之 目的：キャリア教育の視点からPDCAサイクルの理論と具体を知り、カリキュラム・マネジメントのまともにつなぐ。	休憩	休憩	
◎目的：教科を中心にしたキャリア教育の年間指導計画を作成し、教科横断、学年（校種）縦断で基礎的・汎用的能力を育む過程を考える。						

経営コース		両コース共通	
6/28 (金)	8:50	12:15	13:15 15:15 15:30
演習 「カリキュラム・マネジメント③PDCAサイクルを踏まえ た指導計画等の評価・改善手法」	休憩	休 み	講義・質疑応答 「本研修の振り返り」 「研修講師を務めるに当たって」  文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹 筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 福岡教育大学 教授 西山 久子 足立区教育委員会 指導主事 佐藤 学
	目的：全体計画と年間指導計画を評価し、改善につなぐ。本 研修を通じて進めてきたカリキュラム・マネジメント をまとめる。		
推進コース	8:50		
課題協議 「個別的な支援・指導の在り方」 福岡教育大学 教授 西山 久子	休憩		
目的：キャリア教育における個別支援の必要性を知り、その 具体について体得する。			目的：本研修を振り返り、研修内容等について整理すると ともに、研修成果を活用して各地域で研修講師を務める ための研修計画を作成し、情報交換を行う。
			閉 講 式

※第2日目

事例発表・協議

「社会に開かれた教育課程②様の連携を意識したキャリア教育（校種別）」

高等学校

指導助言者

アイティオ株式会社	代表取締役	伊東 潤一郎
砺波工業株式会社	代表取締役社長	上田 信和
有限会社スナップアップ	代表取締役	川合 紀子
株式会社スカイインテック	代表取締役	高瀬 幸忠
株式会社タムラ設計	代表取締役	田村 元宏
株式会社フクール	代表取締役	福崎 秀樹

## I 研修概要

研修名	キャリア教育指導者養成研修（第2回）									
担当グループ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室									
研修目的	キャリア教育を担当する指導主事等に対し、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、発達段階に応じたキャリア教育の在り方、校内外の連携を踏まえたキャリア教育推進のための具体的な手立て、キャリア教育の評価・改善方策について、各学校や地域における研修のマネジメントを推進する指導者として必要な知識等を習得させる。また、本研修で習得した内容を踏まえ、各地域における研修講師等として、1) キャリア教育に関する諸課題の改善に専門的知見を活用し、組織的な取組を推進する力、2) 学校、地域において教職員の専門性向上を推進する力、を發揮し、指導・助言等を行うことのできる指導者の養成を図る。									
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準ずる者</li> <li>・小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭等であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者</li> <li>・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生（教職経験のある者に限る）</li> </ul>									
開催期日	令和元年8月26日（月）～令和元年8月30日（金）					5日間				
受講人数	標準定員 (計画人数)	80	人	受講者数	96	人	参加率	120.0%		
開催場所	パレブラン高志会館（富山県富山市）									

※ 全体標準定員 160 人、受講者数 185 人、参加率 115.6%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	86	9	0	0	1	0	96
割合 (%)	89.6	9.4	0.0	0.0	1.0	0.0	
	95	99.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分がキャリア教育についてあまりにも知らなかったので、全てが新しい発見のような気持ちでした。演習などにより講義だけでは分からなかったことを実践できる場所もあり、持ち帰る際にとってもありがたいものとなりました。</li> <li>・他校種の方や他府県の方と意見交換が数多くできてとても有意義な5日間でした。</li> <li>・素晴らしい講師の先生からキャリア教育について話を聞くことができ、キャリア教育の必要性、地域でのキャリア教育の普及、そして他地域の方からの推進の様子なども聞くことで推進するためのイメージがつかめました。</li> <li>・キャリア教育の内容、重要性を少しは理解できた気がする。この研修会に参加しなければ、正面から向き合うことはなかった。</li> <li>・3日目、4日目の全体計画、年間カリキュラムのグループワークは理論的な背景を実感するとともに、これまでの考え方を大きく見直すことができた。</li> <li>・今まで自分になかった視点でキャリア教育を捉え直すことができ、勤務校のキャリア教育を進めていく上で、伝講する事項など整理することができ大変有意義でした。</li> <li>・キャリア教育が目指すところや身に付けさせたい資質・能力は他の教育活動にも共通するものであり、学校全体で進めていかなければならないということがよく理解できた。</li> <li>・キャリア教育指導者として、どのような力が求められているのかを明瞭な講義、魅力的な事例研究等を通し、理解することができた。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領を反映した内容に更新した。</li> <li>・地元企業やPTAを演習・協議に加えたり、県内の先進的な取組を実践事例として紹介したりするなど、地域の人材を活用することで、地方会場で開催する特色をより鮮明にした。</li> </ul> <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義・演習間の内容の重なりや時間配分などを調整し、最適化する。</li> <li>・引き続き、富山県の特色を研修に反映する。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり



# 令和元年度 キャリア教育指導者養成研修（第2回） 日程表

第1日目

8/26 (月)	9:30	10:30	12:30	13:30	14:45	15:00	17:00
	開講式	本研修の進め方	講義・演習 「キャリア教育の理解①現状と課題」 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹	講義・演習 「キャリア教育の理解②学習指導要領」 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 長田 徹	講義・演習 「キャリア教育の理解③学習指導要領」 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 長田 徹	【事例発表】 みやき町立中原中学校 教諭 石原 紳一郎	【事例発表】 岡山県立津山商業高等学校 教頭 二木 信輔
			講義・演習 「キャリア教育の理解④企業との協力体制の構築とキャリア教育の創造」 清川メッキ工業株式会社 専務取締役兼 品質保証部長 清川 卓二	講義 「社会に開かれた教育課程④企業との協力体制の構築とキャリア教育の創造」 清川メッキ工業株式会社 専務取締役兼 品質保証部長 清川 卓二	講義 「社会に開かれた教育課程④企業との協力体制の構築とキャリア教育の創造」 清川メッキ工業株式会社 専務取締役兼 品質保証部長 清川 卓二	講義 「社会に開かれた教育課程④企業との協力体制の構築とキャリア教育の創造」 清川メッキ工業株式会社 専務取締役兼 品質保証部長 清川 卓二	講義 「社会に開かれた教育課程④企業との協力体制の構築とキャリア教育の創造」 清川メッキ工業株式会社 専務取締役兼 品質保証部長 清川 卓二
			目的： キャリア教育の背景や必要性を理解し、最新情報に触れる。また、5日間に見過しを持つ。	目的： 新学習指導要領におけるキャリア教育の方向性を確認するとともに、キャリア教育の中核の時間となる「特別活動」及び「キャリア・パスポート」について理解を深める。	目的： キャリア教育における地域連携について考え、課題を整理する。	（事前課題持ち寄り意見交換）	目的： キャリア教育における地域連携について考え、課題を整理する。

第2日目

8/27 (火)	8:50	11:00	11:10	12:10	13:10	14:10	14:20	17:00
	事例発表・協議 「社会に開かれた教育課程②横の連携を意識したキャリア教育（校種別）」 小学校 講師 仙台市立錦ヶ丘小学校 校長 菅原 弘一 事例 水見市立久目小学校 教諭 寺崎 孝史 中学校 講師 横浜市教育委員会 主任指導主事 熊切 隆 事例 水見市立西部中学校 教諭 小清水 育代 高等学校 講師 島根大学 准教授 中村 伶詞 事例 富山県教育委員会 指導主事 林 貴宏 指導助言者※	事例発表・協議 「社会に開かれた教育課程②横の連携を意識したキャリア教育」 国立教育政策研究所 主任研究官 立石 慎治 秋田県大館市立第一中学校 校長 小林 一彦 日本大学 教授 望月 由起	事例発表 北海道立長万部高等学校 教頭 千葉 健史	事例発表・協議 「社会に開かれた教育課程②横の連携を意識したキャリア教育」	事例発表・協議 「社会に開かれた教育課程②横の連携を意識したキャリア教育」	事例発表・協議 「社会に開かれた教育課程②横の連携を意識したキャリア教育」	事例発表・協議 「社会に開かれた教育課程②横の連携を意識したキャリア教育」	事例発表・協議 「社会に開かれた教育課程②横の連携を意識したキャリア教育」
			目的： 校種別に学校と地域の協働によるキャリア教育の具体を考え、成果と課題を整理する。	目的： 学校と地域が協働したキャリア教育の具休について考える。	目的： 効果的にキャリア教育を進めるための企業との連携方を学ぶ。	目的： 効果的にキャリア教育を進めるための企業との連携方を学ぶ。	目的： 効果的にキャリア教育を進めるための企業との連携方を学ぶ。	目的： キャリア教育における校種連携について考え、課題を整理する。

第3日目

8/28 (水)	8:50	9:50	10:50	11:00	12:00	13:00	17:00
	事例発表・協議 「児童生徒の発達を促す①」 「児童生徒の発達を促す②」 「児童生徒の発達を促す③」 縦の連携を意識したキャリア教育」に同じ	講義 「児童生徒の発達を促す②」 「児童生徒の発達を促す③」 「児童生徒の発達を促す④」 東北大学名誉教授 菊池 武烈	休憩	演習 「カリキュラム・マネジメント①」 キャリア教育推進のためのプログラム開発」 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹 東大阪市教育委員会 室長 竹中 重雄 (義務) 島根県教育委員会 指導主事 伊藤 淳一 (義務) 高知県立須崎総合高等学校 教諭 戎井 崇 (中等) 沖縄県立宜野座高等学校 教諭 登川 美奈子 (中等)	休憩	屋休み	休憩
		目的： キャリア教育の理論と発達段階に応じた指導の必要性と具体を知る。		◎目的：児童生徒の現状や身につけさせたい資質・能力を踏まえた指導計画作りを通して、キャリア教育推進のためのプログラム開発に必要な知識・方法を得る			

第4日目

8/29 (木)	8:50	10:20	10:35	14:30	14:45	17:00
	講義・演習 「児童生徒の発達を促す③」 キャリア・カウンセンシングの基礎としてのコミュニケーションスキルの向上」 追手門学院大学 教授 三川 俊樹	講義・演習 「学校における教育活動全体を通じて行うキャリア教育の展開方策」 荒川区立第三中学校 校長 清水 隆彦	経営コース 10:35	休憩	講義・演習 「PDCAサイクルを踏まえた指導計画等の評価・改善手法」 筑波大学 教授 藤田 晃之	休憩
	目的：キャリア・カウンセンシングの理論と具体について体得する。	目的：キャリア教育の視点からした学校経営の理論と具体的なリーダーシップの在り方について考える。		目的：キャリア教育の視点からPDCAサイクルの理論と具体を知り、カリキュラム・マネジメントのまとめにつなぐ。		
	演習 「カリキュラム・マネジメント②」 各教科を中心とした効果的なキャリア教育の進め方」 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹 筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 京都教育大学 教授 初田 隆幸 (義務) 高知県立須崎総合高等学校 教諭 戎井 崇 (義務) 福岡県立城南高等学校 校長 和田 美千代 (中等) 宮城県利府高等学校 教諭 長谷川 弘和 (中等)	演習 「カリキュラム・マネジメント②」 各教科を中心とした効果的なキャリア教育の進め方」	推進コース 10:35	休憩	休憩	17:00

第5日目

経過コース		両コース共通	
8:50	12:15	13:15	15:15 15:30
8/30 (金)	<p>休憩</p> <p>演習 「カリキュラム・マネジメント③PDCAサイクルを踏まえた指導計画等の評価・改善手法」</p> <p>文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹 筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 宮城県利府高等学校 教諭 長谷川 弘和 (中等)</p> <p>目的：全体計画と年間指導計画を評価し、改善につなぐ。本研修を通じて進めてきたカリキュラム・マネジメントをまとめる。</p>	<p>屋 休 み</p>	<p>講義・質疑応答 「本研修の振り返り」 「研修講師を務めるに当たって」</p> <p>文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹 筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 福岡教育大学 教授 西山 久子 宮城県利府高等学校 教諭 長谷川 弘和</p>
	<p>推進コース</p> <p>8:50</p> <p>休憩</p> <p>課題協議 「個別的な支援・指導の在り方」 福岡教育大学 教授 西山 久子</p> <p>目的：キャリア教育における個別支援の必要性を知り、その具体について体得する。</p>		<p>目的：本研修を振り返り、研修内容等について整理するとともに、研修成果を活用して各地域で研修講師を務めるための研修計画を作成し、情報交換を行う。</p>

※第2日目

事例発表・協議

「社会に開かれた教育課程②横の連携を意識したキャリア教育（校種別）」

小学校

指導助言者

ブルーベリーと山の幸 いぬかられざか 代 表 上野 達也  
放 課 後 子 ど も 教 室 指 導 者 佐藤 文敬

中学校

指導助言者

氷見市立西部中学校 校長 広瀬 毅

高等学校

指導助言者

アイティオ株式会社 代表取締役社長 伊東 潤一郎  
有限会社スナップ株式会社 代表取締役社長 川合 紀子  
株式会社スカイインテック 専務取締役 大橋 聡司  
株式会社タムラ設計 代表取締役 高瀬 幸忠  
株式会社フクール 代表取締役 田村 元宏  
福崎 秀樹

## I 研修概要

研 修 名	幼児教育指導者養成研修								
担 当 課 グ ル ー プ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室								
研 修 目 的	子ども・子育て支援新制度の施行を踏まえ、質の高い幼児教育を全国の全ての子供に保障するため、幼児教育を担当する指導主事等に対し、幼児教育の指導の充実や小学校教育との円滑な接続、評価を含めたカリキュラム・マネジメントの適正な実施など、幼児教育の指導者として必要な知識等を習得させ、本研修成果を活用し、1) 各園や地域において質の高い幼児教育を推進する力、2) 各園や地域の教職員の専門性向上を推進する人材育成・研修推進力を育成する。								
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県・指定都市・中核市の幼児教育担当指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準ずる者（認定こども園、保育所の指導・助言を行う者を含む）</li> <li>・国公立私立幼稚園・保育所・認定こども園の教職員であって、各学校（園）や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者</li> <li>・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生（教職経験のある者に限る）</li> </ul>								
開 催 期 日	令和元年10月29日（火）～令和元年11月1日（金）			4日間					
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	91	人	参加率	91.0%	
開 催 場 所	教職員支援機構 つくば中央研修センター								

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった		無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義						
人数 (人)	78	11	0	0	0	0	2	91
割合 (%)	87.6	12.4	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	
	89			100.0				

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国の方々と交流する機会は大変貴重でした。</li> <li>・最新の国の動向や取組を知れるなど、様々な角度から幼児教育について学ぶことができた。</li> <li>・幼・小や、現場と行政（教育委員会）など、様々な立場の教員が交流できたことが良かった。</li> <li>・どの内容も一流の講師で素晴らしかった。地元での教員研修にも是非呼びたいと思った。</li> <li>・「幼児理解に基づいた評価」について1日じっくり学べたことが良かった。</li> <li>・外国籍の子供、特別支援教育の必要な子供が増えているので、それらの内容について学べて良かった。</li> <li>・幼小連携について、具体的な取組事例を聞きたかった。</li> <li>・複数の講師で1つのコマをお願いしたところは、講師の先生1人当たりの時間が限られてしまい、早口で聞き取れない時もあるなど慌ただしかった。もっとじっくり聞きたかった。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児教育の質の向上が喫緊の課題であることを踏まえ、研修期間を4日間にした。</li> </ul>
<p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は幼児教育に関する重要なテーマに焦点化した講座を設けた。次年度は、講義と演習のバランスや幼保小のスムーズな接続の実践事例等を取り上げ、より効果的な日程を構築していく。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

# 令和元年度幼児教育指導者養成研修日程表

日程：令和元年10月29日(火)～11月1日(金) 会場：独立行政法人教職員支援機構つくば中央研修センター

10月29日(火)	9:00	9:30	10:00	10:20	10:30	11:40	12:15	13:15	14:15	14:30	15:30	15:45	16:45	17:00
	受付	オリエンテーション	開講式	幼児教育の重要性と現状 文部科学省初等中等教育局幼児教育課 幼児教育企画官 西平 賢哉	講義1	休憩	講義1	屋休憩	講義・演習① 幼稚園教育要領等を踏まえた満3歳児及び5歳までの発達や生活の理解と保育の在り方 十文字学園女子大学 教授 楠田 ゆかり	休憩	講義・演習①	講義2 幼児期の教育と小学校教育との接続について 文部科学省初等中等教育局 視学官 湯川 秀樹	ミーティング	

10月30日(水)	8:45	9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	14:45	15:00	16:30	17:00
	ミーティング	講義・演習②	休憩	講義・演習②	屋休憩	講義・演習③	休憩	講義・演習③	ミーティング	
幼児理解に基づいた評価の基本的な考え方と実施の在り方等について 文部科学省初等中等教育局幼児教育課 幼児教育調査官 河合 優子 東京成徳短期大学 教授 大澤 洋美 江東区教育委員会事務局指導室 主任指導員 貞方 功太郎										
事例から見た指導や評価の実際に生かす記録の具体的な方法と工夫について 十文字学園女子大学 教授 楠田 ゆかり 鳴門教育大学附属幼稚園 園長 佐々木 晃 東京学芸大学附属幼稚園 副園長 山田 有希子										

10月31日(木)	8:45	9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	14:45	15:00	16:30	17:00
	ミーティング	講義・演習④	休憩	講義・演習④	屋休憩	講義・演習⑤	休憩	講義・演習⑤	ミーティング	
外国籍等の幼児が在園する幼稚園等における教育上の課題・成果と取組事例について 全国幼児教育研究協会 顧問 岡上 直子 新宿区教育委員会事務局教育指導課 主任指導主事 小林 力 浜松市子ども家庭部幼児教育・保育課 副主幹 平野 多加 大阪市立愛珠幼稚園 園長 井谷 正美										
障害のある幼児などへの指導の基本と推進体制について 文部科学省初等中等教育局 視学官 青木 隆一 国立特別支援教育総合研究所 上席総括研究員 久保山 茂樹 金沢大学 教授 滝口 圭子										

11月1日(金)	8:45	9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	14:45	15:05
	ミーティング	講義・演習⑥	休憩	講義・演習⑥	屋休憩	講義・演習⑦	閉講式	
幼稚園等における学校安全の指導上の基本的理解と取組の企画立案等について 文部科学省総合政策局男女共同参画共生社会学習・安全課 安全教育調査官 森本 晋也								
幼児の実態や家庭・地域の実態等を踏まえた園の研修の企画立案について 松蔭大学 教授 山下 文一								

## I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（農業A-1）「新学習指導要領を念頭にした地域振興や地域資源の活用に資する農業教育の講義と実習」							
担 当 課 グ ル ー プ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研 修 目 的	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者</li> <li>・高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等</li> </ul>							
開 催 期 日	令和元年7月29日（月）～平成元年8月2日（金）			5日間				
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	15	人	参加率	75.0%
開 催 場 所	クリエート浜松（静岡県浜松市）							

※ 全体受講定員 215 人、受講者数 193 人 参加率 89.8%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	14	1	0	0	0	0	15
割合 (%)	93.3	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
	15	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・1週間の研修会でしたが、新しい発見がものすごく多くあり、教員のスキルアップは本当に大切だと、再認識させられました。この研修を今後に活かされるよう努めたいと思います。</li> <li>・新たな価値観を身につけることで、より発展性のある、農業が可能性の大きい教科なんだと実感しました。講師の先生方も素晴らしい方々で参考になると共に、新たな発見にもつながり勉強になりました。年齢的に難しいと思っていたのですが、この年代で受講できたことで、10年後、20年後に先進的な授業ができる教員になりたいと思いました。ありがとうございます。</li> <li>・新学習指導要領についての内容が主であったが、これまでの自らの取組を振り返りながら考えることのできる機会が多くあった。今一度、自らの取組を整理して、これからの時代に対応できる、また生徒の力になる取組を実施していきたい。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施経費については引き続き全額派遣者負担を原則とした。</li> <li>・本科目を本年度に前倒し開催したことで、産業教育実習助手研修の農業科目と交互に開催することを可能とした。(H31(R1)：産業情報、R2：実習助手、R3：産業情報、…となる)</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施経費については引き続き全額派遣者負担を原則とする。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

## 令和元年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(農業, A-1)

団体名 特定非営利法人 しずおかユニバーサル園芸ネットワーク

日 時	9:00	9:30	10:00	11:00	12:00	12:30	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
2019/7/29 (月)			開講式	【研究協議】 自己紹介・所属校紹介 (久保田豊和・1)	【講義】 新学習指導要領について (鈴木憲治・1)	昼休み	【講義】 地域資源の活用 (弱者の戦略) (稲垣栄洋・2)	【講義】 地産智商の商品開発 (中村健二・2)			諸連絡
2019/7/30 (火)			【講義】 新しい「農業経営」 農業のマーケティング (岩崎邦彦・3)		昼休み	【演習】 農産物のブランド化 (岩崎邦彦・2.5)	【講義】 農業高校で学びたい「農業経営」 (岩崎邦彦・1.5)				諸連絡
2019/7/31 (水)		【講義・演習】 観光農園について (豊田由美・1.5)	【講義】 地域資源活用の授業をデザインする (久保田豊和・1.5)	昼休み	【講義】 園芸の特性と活用 (豊田正博・2)	【講義】 生物活用の授業をデザインする (久保田豊和・2)					諸連絡
2019/8/1 (木)		【講義】 農業法人の可能性 (鈴木厚志・2)		【実習】 ユニバーサル農業体験 (鈴木厚志・1.5)	移動・昼休み	【講義】 6次産業化の実際 (伊藤拓馬・1.5)	【講義】 新しい農業の可能性 (加藤百合子・2)				諸連絡
2019/8/2 (金)		【講義】 農業経営の授業をデザインする (久保田豊和・2)		【演習】 授業プランの発表 (久保田豊和・1)	閉講式						

実施会場：クリエート浜松、京丸園、うなぎいもカフェ (静岡県浜松市)

## I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（工業B-1）「教科「工業」における授業改善に関する講義と演習～工業科におけるPBL実践法～」							
担 当 課 グ ル ー プ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研 修 目 的	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者</li> <li>・高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等</li> </ul>							
開 催 期 日	令和元年8月19日（月）～令和元年8月23日（金）					5日間		
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	25	人	参加率	125.0%
開 催 場 所	金沢工業大学（石川県野々市市）							

※ 全体受講定員 215 人、受講者数 193 人 参加率 89.8%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

### 1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	23	2	0	0	0	0	25
割合 (%)	92.0	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	25						100.0

### 2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・PBLの授業を初めて体験し、難しいと感じる場面もあったが、班で協力して、活動し解決していったのでよかった。また、活動資料も、学校現場ですぐに使っていきそうなものがあり、今後、実践していきそうな内容だったので、とても有意義な研修だった。</li> <li>・PBL法やルーブリックなど、実際に演習することで、今後の課題や問題点が分かったから。また、それが分かる授業展開になっていたのも、授業計画の参考にもなりました。大学の先生方や学生の協力や助言が有意義な研修につながったと思います。また、他県の先生方との情報交換など、充実した研修になりました。</li> <li>・PBL及び評価に関しては、普段の教育活動で行っていることをより具体的に、他と共通理解をしながら行っていく手法であったので、今後の教育実践の質を上げていく上で大変有意義な研修であった。</li> <li>・PBLの必要性は感じていましたが、考え方や進め方の方法がまったくわからずの状態でした。今回の研修を通して実体験しPBLの活用方法がある程度理解できました。今後は学校でどのように活用できるかが鍵だと思っていますが、学校全体として取り組む必要があることが難しい問題だと考えています。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を原則とした。</li> </ul>
<p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施経費については引き続き全額派遣者負担を原則とする。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり



# 令和元年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(工業, B-1)

団体名 金沢工業大学

時 限	休 憩	昼 休 み	3 時 限 13:15~14:55	休 憩	2 時 限 10:35~12:15	休 憩	1 時 限 8:40~10:20	休 憩	4 時 限 15:10~16:50	自主活動時間 16:50~ 18:00
8月19日 (月)	閉講式 オリエン テーション 約20分		プロジェクト活動Ⅰ② (講義・演習) プロジェクトテーマの決定ま での調査・分析・意思決定		プロジェクト活動Ⅰ① (講義・演習) プロジェクトテーマの決定ま での調査・分析・意思決定		(講義) PBL概論 プロジェク トデザイン教育①		プロジェクト活動Ⅰ③ (講義・演習) プロジェクトテーマの決定ま での調査・分析・意思決定	(交流会)
8月20日 (火)	プロジェクト活動Ⅰ④ (講義・演習) プロジェクトテーマの決定ま での調査・分析・意思決定		プロジェクト活動Ⅱ① (講義・演習) 解決策の仕様設定・立案・試作・ プレゼンテーション		プロジェクト活動Ⅴ⑥ (講義・演習) プロジェクトテーマの決定ま での調査・分析・意思決定		プロジェクト活動Ⅰ④ (講義・演習) プロジェクトテーマの決定ま での調査・分析・意思決定		プロジェクト活動Ⅱ② (講義・演習) 解決策の仕様設定・立案・試作・ プレゼンテーション	
8月21日 (水)	プロジェクト活動Ⅱ③ (講義・演習) 解決策の仕様設定・立案・試作・ プレゼンテーション		プロジェクト活動Ⅱ⑤ (講義・演習) 解決策の仕様設定・立案・試作・ プレゼンテーション		プロジェクト活動Ⅱ④ (講義・演習) 解決策の仕様設定・立案・試作・ プレゼンテーション		プロジェクト活動Ⅱ③ (講義・演習) 解決策の仕様設定・立案・試作・ プレゼンテーション		プロジェクト活動Ⅱ⑥ (講義・演習) 解決策の仕様設定・立案・試作・ プレゼンテーション	
8月22日 (木)	科学技術者倫理 (講義)		プロジェクト活動Ⅲ② (講義・演習) 教育評価法(ルーブリック作成 ワークショップ)		プロジェクト活動Ⅲ① (講義・演習) 教育評価法(ルーブリック作成 ワークショップ)				プロジェクト活動Ⅲ③ (講義・演習) 教育評価法(ルーブリック作成 ワークショップ)	
8月23日 (金)	プロジェクト活動Ⅲ④ (講義・演習) 教育評価法(ルーブリック作成 ワークショップ)		閉講式 (討議) プロジェクトデザイン 教育② 受講者と講師陣による 意見交換とまとめ		閉講式 (講義) 教科「工業」に関する 文部科学省施策の動向(仮題) 高校におけるPBL実践					

実施会場： 金沢工業大学扇が丘キャンパス (石川県野々田市)

## I 研修概要

研修名	産業・情報技術等指導者養成研修（商業C-1）「新学習指導要領を踏まえた教科「商業」における授業改善に関する講義と実習」							
担当講師	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研修目的	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者</li> <li>・高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等</li> </ul>							
開催期日	令和元年7月29日（月）～令和元年8月2日（金）					5日間		
受講人数	受講定員 (計画人数)	40	人	受講者数	38	人	参加率	95.0%
開催場所	千葉商科大学（千葉県市川市）							

※ 全体受講定員 215 人、受講者数 193 人 参加率 89.8%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	35	3	0	0	0	0	38
割合 (%)	92.1	7.9	0.0	0.0	0.0	0.0	
	38						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・全てのことが有意義であった。その中でも一番は全国から集まった先生方との交流である。多くの先生とお互いのやってきたことや、現在の悩みなど語り合うことで、勤務校や県内には感じることでできなかった話をする事ができた。講義も殆どが主体的・対話的で深い学びでの実践例であり、自分なりにアレンジして使っていきたい。</li> <li>・5日間の研修でこれだけ学習指導要録に触れ、授業について考える機会が今までになく、授業改善に向けて非常に参考になるが多かった。10年後の未来をイメージして、主体的に、対話的に、深く学ばせ、商業教員としての責任を担って取り組んでいきたいと思った。本当にありがとうございました。</li> <li>・「講義」をして(受けて)から「グループワーク」を行う形で学ぶことができたため、生徒の立場からの体験や評価方法・実践方法などを多角的に学べる有意義な研修でした。「グループワーク」の持つ力を実感しました。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施経費については引き続き全額派遣者負担を原則とした。</li> </ul> <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施経費については引き続き全額派遣者負担を原則とする。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

新高等学校学習指導要領を踏まえた教科「商業」における授業改善に関する講義と実習 (商業;C-1)

9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
	1眼	休	2眼	昼休み	3眼	休	4眼	休	5眼
7月29日	開会式 10:00~ 受付 9:30~ 図書館 5階大会議室	高等学校学習指導要領の改訂と 教育課程の編成について(1) 文部科学省初等中等教育局参事官 (高等学校担当) 付産業教育振興室教科 調査官 田中 圭 図書館5階 大会議室	高等学校学習指導要領の改訂と 教育課程の編成について(2) 文部科学省初等中等教育局参事官 (高等学校担当) 付産業教育振興室教科 調査官 田中 圭 図書館5階 大会議室	昼休み	高等学校学習指導要領の改訂と 教育課程の編成について(2) 文部科学省初等中等教育局参事官 (高等学校担当) 付産業教育振興室教科 調査官 田中 圭 図書館5階 大会議室	商業教育の課題 千葉商科大学商経学部 准教授 近藤 真唯 1号館2階1211教室	懇親会 17:10~ The University DINING	2日目 以降の 研修に 関する 説明	
7月30日	主体的・対話的で深い学びの実現を 目指した授業改善 ～7/29研修の振り返り～ フリーアサシリエーター 後藤 拓也 千葉商科大学客員講師 並木 通男 1号館2階1210教室	主体的・対話的で深い学びの実現を 目指した授業改善 ～7/29研修の振り返り～ フリーアサシリエーター 後藤 拓也 千葉商科大学客員講師 並木 通男 1号館2階1210教室	主体的・対話的で深い学びの実現を 目指した授業改善 ～7/29研修の振り返り～ フリーアサシリエーター 後藤 拓也 千葉商科大学客員講師 並木 通男 1号館2階1210教室	主体的・対話的で深い学びの実現を 目指した授業改善 ～7/29研修の振り返り～ フリーアサシリエーター 後藤 拓也 千葉商科大学客員講師 並木 通男 1号館2階1210教室	主体的・対話的で深い学びの実現を 目指した授業改善 ～7/29研修の振り返り～ フリーアサシリエーター 後藤 拓也 千葉商科大学客員講師 並木 通男 1号館2階1210教室	主体的・対話的で深い学びの実現を 目指した授業改善 ～7/29研修の振り返り～ フリーアサシリエーター 後藤 拓也 千葉商科大学客員講師 並木 通男 1号館2階1210教室	主体的・対話的で深い学びの実現を 目指した授業改善 ～7/29研修の振り返り～ フリーアサシリエーター 後藤 拓也 千葉商科大学客員講師 並木 通男 1号館2階1210教室	主体的・対話的で深い学びの実現を 目指した授業改善 ～7/29研修の振り返り～ フリーアサシリエーター 後藤 拓也 千葉商科大学客員講師 並木 通男 1号館2階1210教室	主体的・対話的で深い学びの実現を 目指した授業改善 ～7/29研修の振り返り～ フリーアサシリエーター 後藤 拓也 千葉商科大学客員講師 並木 通男 1号館2階1210教室
7月31日	新学習指導要領を踏まえた マーケティング分野の授業改善(1) ～授業研究～ 富山県立高岡商業高等学校教諭 山科 博子 1号館2階1210教室	新学習指導要領を踏まえた マーケティング分野の授業改善(2) ～授業研究～ 富山県立高岡商業高等学校教諭 山科 博子 1号館2階1210教室	新学習指導要領を踏まえた マーケティング分野の授業改善(1) ～授業研究～ 富山県立高岡商業高等学校教諭 山科 博子 1号館2階1210教室	新学習指導要領を踏まえた マーケティング分野の授業改善(2) ～授業研究～ 富山県立高岡商業高等学校教諭 山科 博子 1号館2階1210教室	新学習指導要領を踏まえた マーケティング分野の授業改善(1) ～授業研究～ 富山県立高岡商業高等学校教諭 山科 博子 1号館2階1210教室	新学習指導要領を踏まえた マーケティング分野の授業改善(2) ～授業研究～ 富山県立高岡商業高等学校教諭 山科 博子 1号館2階1210教室	新学習指導要領を踏まえた マーケティング分野の授業改善(1) ～授業研究～ 富山県立高岡商業高等学校教諭 山科 博子 1号館2階1210教室	新学習指導要領を踏まえた マーケティング分野の授業改善(2) ～授業研究～ 富山県立高岡商業高等学校教諭 山科 博子 1号館2階1210教室	新学習指導要領を踏まえた マーケティング分野の授業改善(1) ～授業研究～ 富山県立高岡商業高等学校教諭 山科 博子 1号館2階1210教室
8月1日	新学習指導要領を踏まえた ビジネス情報分野の授業改善(1) ～授業研究～ 太田市立太田高等学校教諭 石岡 英樹 1号館2階1210教室	新学習指導要領を踏まえた ビジネス情報分野の授業改善(2) ～授業研究～ 太田市立太田高等学校教諭 石岡 英樹 1号館2階1210教室	新学習指導要領を踏まえた ビジネス情報分野の授業改善(1) ～授業研究～ 太田市立太田高等学校教諭 石岡 英樹 1号館2階1210教室	新学習指導要領を踏まえた ビジネス情報分野の授業改善(2) ～授業研究～ 太田市立太田高等学校教諭 石岡 英樹 1号館2階1210教室	新学習指導要領を踏まえた ビジネス情報分野の授業改善(1) ～授業研究～ 太田市立太田高等学校教諭 石岡 英樹 1号館2階1210教室	新学習指導要領を踏まえた ビジネス情報分野の授業改善(2) ～授業研究～ 太田市立太田高等学校教諭 石岡 英樹 1号館2階1210教室	新学習指導要領を踏まえた ビジネス情報分野の授業改善(1) ～授業研究～ 太田市立太田高等学校教諭 石岡 英樹 1号館2階1210教室	新学習指導要領を踏まえた ビジネス情報分野の授業改善(2) ～授業研究～ 太田市立太田高等学校教諭 石岡 英樹 1号館2階1210教室	新学習指導要領を踏まえた ビジネス情報分野の授業改善(1) ～授業研究～ 太田市立太田高等学校教諭 石岡 英樹 1号館2階1210教室
8月2日	新学習指導要領を踏まえた 会計分野の授業改善(1) ～授業研究～ 滋賀県立八幡商業高等学校教諭 西嶋 達人 1号館2階1210教室	新学習指導要領を踏まえた 会計分野の授業改善(2) ～授業研究～ 滋賀県立八幡商業高等学校教諭 西嶋 達人 1号館2階1210教室	新学習指導要領を踏まえた 会計分野の授業改善(1) ～授業研究～ 滋賀県立八幡商業高等学校教諭 西嶋 達人 1号館2階1210教室	新学習指導要領を踏まえた 会計分野の授業改善(2) ～授業研究～ 滋賀県立八幡商業高等学校教諭 西嶋 達人 1号館2階1210教室	新学習指導要領を踏まえた 会計分野の授業改善(1) ～授業研究～ 滋賀県立八幡商業高等学校教諭 西嶋 達人 1号館2階1210教室	新学習指導要領を踏まえた 会計分野の授業改善(2) ～授業研究～ 滋賀県立八幡商業高等学校教諭 西嶋 達人 1号館2階1210教室	新学習指導要領を踏まえた 会計分野の授業改善(1) ～授業研究～ 滋賀県立八幡商業高等学校教諭 西嶋 達人 1号館2階1210教室	新学習指導要領を踏まえた 会計分野の授業改善(2) ～授業研究～ 滋賀県立八幡商業高等学校教諭 西嶋 達人 1号館2階1210教室	新学習指導要領を踏まえた 会計分野の授業改善(1) ～授業研究～ 滋賀県立八幡商業高等学校教諭 西嶋 達人 1号館2階1210教室
						閉 会 式 1号館1階 1101教室			

## I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（水産D-1）「水中における工学装置に関する講義と実習」							
担 当 課 グ ル ー プ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研 修 目 的	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者</li> <li>・高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等</li> </ul>							
開 催 期 日	令和元年7月30日（火）～令和元年8月2日（金）			4日間				
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	15	人	受講者数	14	人	参加率	93.3%
開 催 場 所	東京海洋大学越中島キャンパス（東京都江東区）							

※ 全体受講定員 215 人、受講者数 193 人 参加率 89.8%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	13	1	0	0	0	0	14
割合 (%)	92.9	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
	14	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・水中ロボットの意義や構造をはじめ、最先端の技術などを知ることができ、非常に有意義な研修であった。</li> <li>・JAMSTEC本部にて世界最先端の研究に触れたり、他校の先生方と交流を深め、知見を広げることができたため。</li> <li>・海洋開発や電気推進などを学べたことで、生徒と一緒に水中ロボットを研究する時に、より明確な方向性や目標などを示せるようになった。今までが理解せずに行ってきたこともあり、この研修で習ったことを学校へ持ち帰り、周知や活用をしていきたい。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を原則とした。</li> </ul>
<p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施経費については引き続き全額派遣者負担を原則とする。</li> <li>・研修内容が「水中ロボット製作」であったために、必要経費が高くなり、受講者負担が大きくなったことで、受講者の確保に苦労した。次回以降は、「指導者を養成する」という趣旨を踏まえ、テーマの見直しを図る。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

令和元年度 産業・情報技術等指導者養成研修日程

(水産, D-1)

団体名 国立大学法人東京海洋大学

日 時	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
7月30日 (火)		開講式 オリエンテーション	(講義) 最先端ROVの見学 JAMSTEC 主任研究員 澤 隆雄 T T 澤田 和之	(講義) 新学習指導要領 文部科学省 教科調査官 西澤 美彦	12:50-13:45 昼 休 み		(見学) JAMSTEC 最先端ROVの見学JAMSTEC 主任研究員 澤 隆雄 T T 北海道函館水産高等学校 教諭 澤田 和之		
7月31日 (水)	(講義) 船体抵抗 東京海洋大学 教授 南 清和	(実習) ROVに必要な加工技術 東京海洋大学 助教 後藤 慎平	(実習) ROVの耐圧処理 東京海洋大学 助教 後藤 慎平	昼 休 み		(実習) ROVの推進システムの製作 東京海洋大学 助教 後藤 慎平			
8月1日 (木)	(講義) 電気推進システム 東京海洋大学 教授 清水 悦郎	(実習) ROVの耐圧処理 東京海洋大学 助教 後藤 慎平	(見学) マリロボットコンテスト大会プレゼン テーション大会	昼 休 み		(見学) マリロボットコンテスト大会実技	(実習) ROVの浮力調整 東京海洋大学 助教 後藤 慎平		
8月2日 (金)		(実習) ROVのシステム制御 東京海洋大学 助教 後藤 慎平		昼 休 み	振り返りと協議 東京海洋大学 助教 後藤 慎平	閉講式			

実施会場：7/30 海洋研究開発機構 横須賀本部

実施会場：7/31～8/2 東京海洋大学 越中島キャンパス

## I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（家庭E-1）「社会の変化に対応した衣食住、ヒューマンサービス等の生活産業に関する講義と実習」						
担 当 課 グ ル ー プ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室						
研 修 目 的	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。						
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者</li> <li>・高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等</li> </ul>						
開 催 期 日	令和元年8月5日（月）～令和元年8月8日（木）				4日間		
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	26	参加率	130.0%
開 催 場 所	全国高等学校長協会家庭部会事務局（東京都千代田区）						

※ 全体受講定員 215 人、受講者数 193 人 参加率 89.8%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	26	0	0	0	0	0	26
割合 (%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	26	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4日間、大変有意義な講習ばかりでした。普段の学校内だけではお聞きできないお話、たくさんの専門知識、いろいろな地域から来ている先生方にも巡り会うことができ、参加する機会をいただけたことに感謝いたします。</li> <li>・ それぞれの分野でのスペシャリストの先生方からご指導いただき、興味深い内容ばかりでした。また、元校長先生のお話や、現役の先生の実践事例は、すぐに取り入れていきたいと思えるヒントがたくさんあり、とても有意義な研修となりました。事務局の先生方にも大変お世話になり、ありがとうございました。</li> <li>・ 研修会場が3箇所に分かれていたため、移動に多少の不安がありましたが、研修を終えてその意味を深く感じました。私たちの研修のために、これほど多くの素晴らしい講師の方々と環境を与えて頂いたことに深く感謝いたします。今後は学んだことを後進に伝えていきたいと思えます。事務局の皆さまには、4日間という長い期間、お世話いただき有難うございました。</li> <li>・ 各県の先生方との協議も、講義の中でもっとできたらよかったです。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実施経費については、引き続き全額派遣者負担を原則とした。</li> </ul> <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実施経費については引き続き全額派遣者負担を原則とする。</li> <li>・ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

# 令和元年度 産業・情報技術等指導者養成研修日程

(家庭科 E-1)

全国高等学校長協会家庭部会

月日(曜)	午前1(9時30分～11時)		昼休み 12:30	午後1(13時30分～15時00分)		午後2(午後15時00分～16時30分)		実施会場
	9:30	10:00		11:00	12:00	13:30	15:00	
8月5日 (月)	【開講式】 文部科学省教科調査官 市毛 祐子	【講義】 「家庭科における 授業改善の視点」 文部科学省教科調査官 市毛 祐子	【講義】 「家庭科教員に望むこと、教師としての心構え ～地域連携を通して～」 元校長 渡辺 美智子	【講義】 「家庭科における消費者教育の指導法の工夫」 横浜国立大学 教授 松葉口 玲子	【講義・演習】 「暮らしやすく安全で環境に配慮した住空間の 計画と主体的学習」 日本女子大学 教授 平田 京子			全国 高等学 校等協 会 家庭部 会(千代 田区)
8月6日 (火)	【講義】 「現代の食生活の課題、日本の食文化と しぎたりの関わりについて」 東京誠心調理師専門学校 教授 鈴木 歩	【講義・実習】 「おいしさの科学と調理」 東京誠心調理師専門学校 教授 鈴木 歩	【講義・演習】 「盛り付けのしぎたりとテクニック、 テーブルコーディネート」 東京誠心調理師専門学校 教授 鈴木 歩	【講義・演習】 「盛り付けの実践、調理実習の評価について」 東京誠心調理師専門学校 准教授 松井 昭亮			東京誠 心調 理師 専 門学 校 (大田区)	
8月7日 (水)	【講義】 「日本のアパレル業界の 動向とEC展開」 杉野服飾大学 准教授 五月女 由紀子	【講義】 「テキスタイルの魅力」 杉野服飾大学 講師 田口 雅子	【講義】 「日本の『きもの』と伝統文化」 杉野服飾大学 教授 梅谷 知世	【演習】 「色彩に関する演習」 杉野服飾大学 准教授 桐山 征士	【演習】 「ファッションとプロダクトデザイン」 杉野服飾大学 教授 肉丸 美香子			杉野 服 飾 大 学 (品川区)
8月8日 (木)	【講義・演習】 「保育の指導法の工夫」 実践女子大学 教授 松田 純子	【講義】授業実践事例 「地域と共に支え合う生活産業人育成に向けた 取り組み」 千葉県立船山総合高等学校 教諭 筒井 智会	【まとめ・研究協議】 「研修のまとめ」 文部科学省教科調査官 市毛 祐子	【まとめ・研究協議】 「研修のまとめ」 文部科学省教科調査官 市毛 祐子	15:15	15:45	【閉講式】	全 国 高 等 学 校 等 協 会 家 庭 部 会 (千代 田区)

## I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（看護F－1）「保健医療福祉の変化に対応した看護実践力を育成する授業に関する講義と演習」						
担 当 課 グ ル ー プ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室						
研 修 目 的	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。						
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者</li> <li>・高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等</li> </ul>						
開 催 期 日	令和元年8月26日（月）～令和元年8月28日（水）				3日間		
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	11	参加率	55.0%
開 催 場 所	日本福祉大学東海キャンパス（愛知県東海市）						

※ 全体受講定員 215 人、受講者数 193 人 参加率 89.8%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	11	0	0	0	0	0	11
割合 (%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	11	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護教育の現状・課題を踏まえた研修内容であり、今後活用できると思いました。</li> <li>・シュミレーション教育について、しっかり学習することができた。他校の先生との交流ができ、良かったです。自分の置かれている環境や立場を見直すことができました。</li> <li>・他校の先生方と意見交換ができ、共感ができることが多くありました。また、実際にグループワーク等を行うことで、学生の立場を理解しながらシュミレーション教育のポイントもつかむこともできました。改めて学生に何を学ばせたいか、考える必要性を学びました。すばらしい環境で学ぶことができ、充実した3日間でした。ありがとうございました。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を原則とした。</li> </ul> <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施経費については引き続き全額派遣者負担を原則とする。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり



# 令和元年度 産業・情報技術等指導者養成研修日程

(看護, F-1)

団体名 日本福祉大学

日時	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
8月 26日 (月)	受付	開講式	講義(90) 看護教育の現状と課題	山口	昼食(交流会)	司会 山口	学内見学	演習(75) (GWと発表) 技術教育が抱える 問題・課題 宮腰・新美・ 山口・荒木	講義(90) 技術教育の考え方と 効果的指導方法	宮腰	講義(90)	技術教育の考え方と 効果的指導方法	講義(90)	技術教育の考え方と 効果的指導方法	宮腰	
8月 27日 (火)		講義(60) シミュレーション 教育の考え方	新美	演習(75) シミュレーション教育 :シナリオ作成	新美・荒木・ 西土・佐藤・加藤	昼食	演習(75) シミュレーション教育 :シナリオのテストラン と発表 新美・荒木・ 西土・佐藤・加藤	講義・演習(90) シミュレーション教育: 病床環境(ベッド)の活用	西原・佐藤・山口	講義・演習(50) シミュレーション教 育の まとめ 新美・山口・ 西原・佐藤						
8月 28日 (水)		演習(90) (GWと発表) 実習教育における 問題・課題 宮腰・新美・ 山口・西土	新美	講義(90) 実習施設で行う 臨地実習教育への 取り組み方 宮腰	新美・荒木・ 西土・佐藤・加藤	昼食	演習(75) (GWと発表) 研修全体の振り返り 宮腰・新美・ 西原・加藤	講義(60) これからの 看護教育 高木	西原・佐藤・山口	閉講式						

実施会場：日本福祉大学東海キャンパス（愛知県東海市）

(備考)

1. 演習時に使用しますので、聴診器とナースシューズを持参してください。また、服装は動きやすいものにしてください。  
(その場での更衣も可能です。)
2. 臨地実習要項を持参してください。(ご自身が担当している教科のものでかまいません。)
3. 1日目の昼食は主催者が準備します。(交流会の費用として、1000円程度のご負担をお願いします。)  
2～3日目の昼食は、ご持参ください。

## I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（情報G-1）「次期学習指導要領に対応した教科『情報』の授業改善に関する講義と実習」							
担 当 課 グ ル ー プ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研 修 目 的	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者</li> <li>・高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等</li> </ul>							
開 催 期 日	令和元年7月29日（月）～令和元年8月2日（金）					5日間		
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	17	人	参加率	85.0%
開 催 場 所	千葉商科大学（千葉県市川市）							

※ 全体受講定員 215 人、受講者数 193 人 参加率 89.8%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	16	1	0	0	0	0	17
割合 (%)	94.1	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	
	17						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・最先端の情報教育に関することをいろいろ教えていただき、大変勉強になりました。また、他の先生方と情報交換をする機会も多くとっていただき、多くの刺激をいただきました。</li> <li>・実習が多く、今後取り入れていきたいと思う事例がありました。全国各地の公立・私立の先生方と、授業などについて話ができただことは勉強になりました。AppleやMicrosoftの企業訪問など、貴重な経験もでき、有意義な研修でした。今後の授業に生かしていきたいと思えます。</li> <li>・情報に関する様々な分野の講義・演習を受講し、今、情報教育に何が必要か、どのように実践していけばよいか、学ぶことができた。学習指導要領の内容をしっかりと理解し、何よりも「生徒」のために情報活用能力を身につけさせる授業を実践していきたい。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を原則とした。</li> </ul>
<p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施経費については引き続き全額派遣者負担を原則とする。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

# 令和元年度 産業・情報技術等指導者養成研修日程

団体名 千葉商科大学

(情報;G-1)

日 時	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	12:10	13:10	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
7月29日(月)		受付	開講式 図書館5階 大会議室	講義：学習指導要領 文部科学省初等中等 教育局参事官(高等 学校担当)付産業教 育振興室教科調査官 鹿野 利春 2号館1階212教室	昼休み	アクティブ・ラーニングの視点に立った 授業改善事例と講義・実習 聖心女子大学教授 益川弘如 2号館1階212教室						懇親会 17:10~ The University DINING
7月30日(火)		コンテンツ分野の実践例と実習 畿央大学客員研究員 竹中 章勝 3号館2階第9コンピュータ実習室			昼休み	ネットワークの基礎・応用 秋田県立仁賀保高等学校教諭 早藤 素史 2号館1階214教室						
7月31日(水)		Apple訪問・見学 意見交換・情報収集 Apple 江守 恒明			昼休み	Microsoft訪問・見学 プログラミング研修・意見交換 Microsoft 佐藤 正浩						
8月1日(木)		AIプログラミング 京都府立京都すばる高等学校教諭 福江 努 3号館2階第9コンピュータ実習室			昼休み	計測・制御 埼玉大学教授 山本 利一 2号館1階214教室						
8月2日(金)		プログラムによるデータ解析 千葉県立千葉高等学校教諭 大橋 真也 3号館2階第9コンピュータ実習室			昼休み	振り返りと協議 千葉商科大学教授 永井克昇 2号館1階214教室		閉講式 1号館1階 1101教室				

実施会場：千葉商科大学

## I 研修概要

研修名	産業・情報技術等指導者養成研修（技術・家庭（技術）Ⅰ－１）「技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力の育成を目指した技術分野の指導と評価」							
担当グループ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研修目的	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者</li> <li>・高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等</li> </ul>							
開催期日	令和元年年7月22日（月）～令和元年年7月26日（金）			5日間				
受講人数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	13	人	参加率	65.0%
開催場所	宮城教育大学（宮城県仙台市）							

※ 全体受講定員 215 人、受講者数 193 人 参加率 89.8%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	11	2	0	0	0	0	13
割合 (%)	84.6	15.4	0.0	0.0	0.0	0.0	
	13						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・学習指導要領の改訂において、どのようなことに配慮して授業を進めていけばよいか理解できる教材を多く紹介していただいた。自分は現在の立場で行えることを考え、取り組んでいきたい。</p> <p>・普段の研修では行うことができない内容が盛りだくさんであり、非常に有意義な研修となった。技術の授業で指導すべき内容が全て押さえられており、特に5日間で行った実習で制作したものは、生徒にもやらせてみたいと思った。様々な教材の提示はとても参考になった。工夫を凝らした講義をして頂き、先生方には非常に感謝しています。ありがとうございました。</p> <p>・今回の研修では、特に2つのことを学ぶ機会となり、とても有意義でした。1つ目は、自分自身が忘れていた基本的な知識や、生徒に教える上で+α知らないといけない知識の補充ができたこと。2つ目は、これからの技術の授業で扱う内容について触れることができたことです。3Dプリンタや双方向性で扱う題材など、普段の授業ではそこまでいかなかった内容を学びました。今回学んだことを周りの教師や自分の生徒に還元していきたいです。ありがとうございました。</p>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を原則とした。</li> </ul>
<p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施経費については引き続き全額派遣者負担を原則とする。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

# 令和元年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(技術・家庭(技術), I-1) 団体会名 国立大学法人 宮城教育大学

59	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
7月22日 (月)	受付 9:00-9:50	開講式 9:30-9:50	(講義) 技術教育における学習評価 10:00-11:30	昼休み	(講義/実習) 材料加工技術の理解を深める題材の検討(切削用具の整備・木材小作品) 1 12:30-14:00	(講義/実習) 材料加工技術の理解を深める題材の検討(切削用具の整備・木材小作品) 2 14:10-15:40	(講義/実習) 材料加工技術の理解を深める題材の検討(切削用具の整備・木材小作品) 3 15:50-17:20		
7月23日 (火)	(講義/実習) 生活や社会を支える情報技術(情報モラル・サイバーセキュリティ) 9:00-10:30	(講義/実習) 材料と加工の技術の原理・法則(加工技術の活用に関する発想) 1 10:40-11:40	昼休み	(講義/実習) 材料と加工の技術の原理・法則(加工技術の活用に関する発想) 2 12:40-13:40	(講義/実習) 電気エネルギー活用のための原理と法則 1 13:50-15:20	(講義/実習) エネルギー活用のための原理と法則 1 13:50-15:20	(講義/実習) 3Dプリンタの教育利用に関する取り組み 15:30-17:00		
7月24日 (水)	(講義/実習) 電気エネルギー活用のための原理と法則 2 9:00-10:30	(講義/実習) 情報の技術の授業設計 10:40-12:10	昼休み	(講義/実習) 計測・制御のプログラミング 13:00-15:00	(講義/実習) 双方向性のあるコンテンツのプログラミング 15:10-17:10				
7月25日 (木)	(講義) 生物育成分野の目的・作物栽培技術の基礎 9:00-10:30	(講義/実習) 作物管理実習を通じた作物成長の原理・法則の理解 10:40-12:10	昼休み	(講義/実習) 生活を支える省エネルギー技術 1 13:00-14:00	(講義/実習) エネルギー変換における力学的な機構に関する問題解決の工夫 14:10-15:40	(講義/実習) エネルギー変換における水圧駆動機構に関する問題解決の工夫 15:50-17:20			
7月26日 (金)	(講義/実習) 生活を支える省エネルギー技術 2 9:00-10:30/10:40-12:10		昼休み	(講義/実習) 課題解決型の制御学習 1 13:00-14:30	(講義/実習) 課題解決型の制御学習 2 14:40-15:40	閉講式 15:50-16:20			

実施会場：宮城教育大学 (宮城県仙台市)

## I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（技術・家庭（技術）I-2）「情報技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力の育成を目指した技術分野の指導と評価」							
担 当 課 グ ル ー プ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研 修 目 的	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者</li> <li>・高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等</li> </ul>							
開 催 期 日	令和元年8月5日（月）～令和元年8月9日（金）					5日間		
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	11	人	参加率	55.0%
開 催 場 所	鳴門教育大学（徳島県鳴門市）							

※ 全体受講定員 215 人、受講者数 193 人 参加率 89.8%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	10	1	0	0	0	0	11
割合 (%)	90.9	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
	11						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・今、技術課の教員として、指導内容について一番考えているプログラミングについて、じっくり取り組むことができ、とても有意義な研修でした。指導すべき内容についても自己流で考えている部分が多々あり、教えるべき内容を丁寧に説明していただいたり、今後の授業の方向性についてアドバイスをいただき、とてもありがたかったです。ありがとうございました。</p> <p>・学習指導要領から題材・評価づくりの研修をはじめとし、D分野の素材の研究成果や最近のトレンドなど、興味深い内容が多く、意義のある研修でした。特に初日の午後からの研修のネイピア棒については、計算機の演算を回路上で実現させるための根拠を学ばせて頂き、改めて技術の歴史的な発展、基本的な自然法則の重要性に気づかせて頂きました。</p> <p>・日頃から教材研究に時間をかけられない状況の中、この5日間で新学習指導要領の実施に向けて課題を明確にすることができた。この研修がなければ、知らないこともそのままになっていたと思います。この研修で得ることのできたことを伝達していきたいと思っています。</p>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を原則とした。</li> </ul>
<p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施経費については引き続き全額派遣者負担を原則とする。</li> <li>・I-2は隔年で開催することとしているが、受講者がI-1と分散してしまうために、どちらも定員割れしてしまった。今後も隔年開催をする必要があるか、ニーズを踏まえて検討したい。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

## 令和元年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(技術・家庭(技術), I-2)

団体名: 鳴門教育大学

日 時	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
令和元年 8月5日(月)	9:30- 10:00 開 講 式	(講義 10:00-12:00) これからの技術教育ー学習指導 要領の改訂を踏まえてー		昼休み	(講義 13:00-14:30) 技術教育における学習評価		(実習 14:30-17:00) 情報機器の変遷を踏まえた小学校 から高等学校に至る情報教育教材		
8月6日(火)	(実習 9:00-12:00) 小学校からの接続を意識した計測・制御プログラミング		昼休み		(実習 13:00-17:00) 小学校からの接続を意識した計測・制御プログラミング				
8月7日(水)	(実習 9:00-12:00) 高等学校への接続を意識した双方向性プログラミング		昼休み		(実習 13:00-17:00) 高等学校への接続を意識した双方向性プログラミング				
8月8日(木)	(実習 9:00-12:00) 高等学校への接続を意識したファイアウォール構築		昼休み		(実習 13:00-17:00) 高等学校への接続を意識したファイアウォール構築				
8月9日(金)	(研究協議 9:00-12:00) (各班での協議) 技術教育ディスカッション (新しい学習指導要領の実 施に向けて)		昼休み		(研究協議 13:00-15:00) 技術教育ディスカッション (全体発表)		15:00-15:30 閉 講 式		

実施会場: 鳴門教育大学 (徳島県鳴門市)

## I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（技術・家庭（家庭）J-1）「技術・家庭科（家庭分野）における新学習指導要領に関する講義と実習」						
担 当 課 グ ル ー プ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室						
研 修 目 的	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。						
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者</li> <li>・高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等</li> </ul>						
開 催 期 日	令和元年7月30日（火）～令和元年8月2日（金）				4日間		
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	23	参加率	115.0%
開 催 場 所	横浜国立大学（神奈川県横浜市）						

※ 全体受講定員 215 人、受講者数 193 人、参加率 89.8%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	17	6	0	0	0	0	23
割合 (%)	73.9	26.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
	23						100.0

2. 研修内容に関する主な意見

・多くの内容をそのスペシャリストに講義していただき、分かりやすく、今後にどのように生かしていくかまで考えられてよかったです。質問にも快く答えて頂き、ありがとうございました。先生方の明るく楽しい講義で、この4日間をしっかりと過ごすことができました。地域に帰り、返していけるように頑張ります。

・家庭分野における消費生活・環境・食生活・家族関係などの専門的知識を深く学び直すことと共に、新しい視点での学びが多く、とても刺激を受けました。今後、新学習指導要領の指導・評価などを更に理解し、生徒等の深い学びにつながる実践と、同県教員の資質向上のために役立てていきたいです。

・他県の人や研究されている先生方とお会いして、とても有意義な時間をもつことができ、他府県の方々とのつながりができ、自分自身の財産になりました。

## III 研修内容・方法の見直し等

### 前年度を踏まえ

・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を原則とした。

### 次年度に向けて

・実施経費については引き続き全額派遣者負担を原則とする。

・事前に示している日程表から時間を変更することは極力行わないこととする。また勤務時間を考慮したゆとりのある時間配分を実施団体をお願いする。

・受講者以外の者が聴講する際は、必ず事前に機構に申し出ることを徹底するとともに、絶対に受講者の妨げにならないことを条件とする。

・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり



# 令和元年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(技術・家庭)J-1

団体名： 横浜国立大学

日時	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
7月30日 (火)		受付	開講式 10:00 開会 10:02 挨拶 10:12 閉会 オリエンテーション 10:15-10:25	(講義)「新学習指導要領における家庭分野の指導」 (担当)丸山早苗(文部科学省初等中等教育局教科調査官) 教育学部講義棟7号館311室 10:35-12:00	昼食	(講義)「新学習指導要領における家庭分野の評価」 (担当)丸山早苗(文部科学省初等中等教育局教科調査官) 教育学部講義棟7号館311室 13:00-14:00	休憩十分	(講義・演習) 「栄養を考えた献立作成の指導」 (担当)三戸夏子(横浜国立大学准教授) 教育学部講義棟7号館311室 14:10-17:10	
7月31日 (水)	(講義・実習)「幼児理解と幼児との触れ合い活動」 (担当)園田菜摘(横浜国立大学教授) 教育学部講義棟7号館311室 森のルーナ保育園 9:00-12:00			昼食	(演習)「幼児の観察・触れ合い活動のまとめと発表」 (担当)園田菜摘(横浜国立大学教授) 教育学部講義棟7号館311室 13:00-15:30	休憩十分	(演習) 「3学年間を見通した全体的な指導計画」 グループ討議 (担当)青木美穂(横浜市立境木中学校副校長) 教育学部講義棟7号館311室 15:40-17:10		
8月1日 (木)	(講義・実習)「高齢者の身体の特徴と介護の基礎」 (担当)工藤由貴子(日本女子大学大学院客員教授) 介護老人保健施設 スカイ 9:00-12:00			昼食	(演習)「高齢者との関わり方について」 のまとめと発表」 (担当)工藤由貴子(日本女子大学大学院客員教授) 教育学部講義棟7号館311室 13:00-14:00	休憩十分	(講義・演習)「消費生活・環境」における指導の工夫 (担当)鈴木真由子(大阪教育大学教授) 教育学部講義棟7号館311室 14:10-17:10		
8月2日 (金)	(実習)「調理科学の視点を重視した実習指導」調理実習 (担当)杉山久仁子(横浜国立大学教授) 教育学部第1研究棟312室 調理学実験実習室 9:00-12:00			昼食	(講義) 「食育における食品安全性」 (担当)山本和貴(農業・食品産業技術総合研究機構 食品総合研究所 食品高圧技術ユニット長) 教育学部講義棟7号館311室 13:00-14:25	休憩十分	(講義)「技術・家庭科(家庭分野)における指導の充実」 (担当)杉山久仁子(横浜国立大学教授)、園田菜摘(横浜国立大学教授)、三戸夏子(横浜国立大学准教授) 教育学部講義棟7号館311室 14:35-16:00	休憩十分	閉講式 16:10 開会 16:12 挨拶 16:20 修了証授与 16:30 閉会 アンケート回収 諸連絡

実施会場： 教育学部講義棟7号館311室、教育学部第1研究棟他

## I 研修概要

研修名	産業教育実習助手研修（工業）「教科『工業』及び工業科教育法に関する講義と実習」							
担当グループ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研修目的	高等学校の産業教育に関する教科・科目を担当する実習助手に対して、職務に必要な最新の知識・技術を習得させ、資質の向上を図ることを目的としている。							
受講対象	高等学校等（特別支援学校の高等部を含む）の当該教科・科目を担当する実習助手で、実習助手として3年以上勤務し、勤務成績の良好な者							
開催期日	令和元年8月19日(月)～令和元年8月23日(金)			5日間				
受講人数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	49	人	参加率	245.0%
開催場所	足利大学（栃木県足利市）							

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	37	12	0	0	0	0	49
割合 (%)	75.5	24.5	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	49						

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・教科に関するエネルギーや情報プログラミングなど、多様な分野を勉強することができました。また、新学習指導要領に対応する授業デザインや指導方法、指導要領の内容も丁寧に解説して下さり、理解を深めることができました。</p> <p>・学習指導要領について、持田先生をはじめ、重点的な事をご説明頂き、再確認や学ぶことができました。また、ソーラークッカーについて学ぶことができ、自然エネルギーを活用した新しい実習ができると思いました。MaBeeeやmicro:bitにおいて、プログラミングが苦手な生徒でも楽しく実施できると思い、是非本校でも取り組みたいと考えました。</p> <p>・研修内容について…IoTの実践とプログラミング（1）と（2）→受講者がプログラミングする場面がなかった。</p> <p>・講義では、まとめとなる部分が時間の関係でないまま終わってしまう、使用機器等の不足や故障などで満足にできなかったのが残念でした。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を原則とした。</li> </ul>
<p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施経費については引き続き全額派遣者負担を原則とする。</li> <li>・定員を大幅に超えて受け入れたために、機器の不足など、どうしても運営面に行き届かない部分が出てしまった。運営に支障がない範囲での受け入れを検討したい。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。</li> </ul>

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

令和元年度 産業教育実習助手研修日程

団体名：足利大学

(工業)

日時	8:30	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	17:50
8月19日 (月)	8:30 開講式	9:00～10:30 (講義) 工業科概論① IoTを支えるセンサー技術	10:00 荘司 和男	11:00 (講義) 工業科教育法① 工業教育の現状	12:00 池守 滋	13:00 昼休み	14:00 (講義) 工業科概論② 技術者倫理	15:00 (講義) 工業科概論③ 世界の再生可能エネルギー利用	16:00 根本 泰行	17:00 (演習) 工業科実践① 再生可能エネルギーの活用	17:50 野田 佳雅
8月20日 (火)		9:00～10:30 (講義) 工業科教育法② 学習と評価	10:00 池守 滋	11:00 (講義+演習) 工業科実践② micro:bitプログラミング (1)	12:00 荒井 武彦	13:00 昼休み	14:00 (講義+演習) 工業科実践③ micro:bitプログラミング (2)	15:00 (講義+演習) 工業科教育法③ 実習の授業デザイン (1)	16:00 池守 滋	17:00 (講義+演習) 工業科教育法④ 実習の授業デザイン (2)	17:50 池守 滋
8月21日 (水)		9:00～10:30 (講義) 工業科実践④ 太陽熱利用技術	10:00 池守 滋	11:00 (演習) 工業科実践⑤ ソーラーカーの製作 と性能評価(1)	12:00 荒井 武彦	13:00 昼休み	14:00 (演習) 工業科実践⑥ ソーラーカーの製作 と性能評価(2)	15:00 (講義) 工業科概論④ ロボットの利用について	16:00 池守 滋	17:00 (講義) 工業科教育法⑤ 次期学習指導要領改訂 の趣旨	17:50 持田 雄一
8月22日 (木)		9:00～10:30 (講義) 工業科教育法⑥ 次期高等学校学習指導要 領の教科「工業」の各科目	10:00 池守 滋	11:00 (講義+演習) 工業科教育法⑦ 実習の授業デザイン (3)	12:00 池守 滋	13:00 昼休み	14:00 (講義+演習) 工業科実践⑦ IoTの実践とプログラミング (1)	15:00 (講義+演習) 工業科実践⑧ IoTの実践とプログラミング (2)	16:00 平石 広典	17:00 (講義) 工業科教育法⑧ 工業に関する先進的な 取組	17:50 池守 滋
8月23日 (金)		9:00～10:30 (講義) 工業科概論⑤ 鉄の橋(橋梁に関する 概論)	10:00 池守 滋	11:00 (講義) 工業科概論⑥ マイクロプロセッサの構 造と消費電力	12:00 西 剛同	13:00 昼休み	14:00 (講義) 工業科概論⑦ 技術史	15:00 (講義) 工業科概論⑧ 環境問題と自然エネル ギー	16:00 平石 広典	17:00 (講義) 工業科実践⑧ 閉講式	17:50 牛山 泉

実施会場：足利大学 大前キャンパス(栃木県足利市)

## I 研修概要

研 修 名	産業・理科教育教員派遣研修							
担 当 課 グ ル ー プ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研 修 目 的	産業教育・理科教育に関して優れた調査研究課題を有する者について、産業教育・理科教育に関する研修を行うにふさわしい大学又は施設に派遣し、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術等を修得させ、もって産業教育・理科教育担当教員の資質を向上し、その指導力の強化を図ることを目的とする。							
受 講 対 象	小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の産業教育又は理科教育を担当している教職員並びに教育行政機関において産業教育又は理科教育を担当している職員							
開 催 期 日	年間を通して（3ヶ月、6ヶ月、12ヶ月）					日間		
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	100	人	受講者数	24	人	参加率	24.0%
開 催 場 所	国立大学法人宇都宮大学、国立大学法人群馬大学ほか							

## II アンケート結果の状況

### 1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	22	1	0	0	0	0	23
割合 (%)	95.7	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
	23	100.0					

### 2. 研修内容に関する主な意見

・大学の授業やゼミ、実験授業を通してできるだけ実践的な内容について研修を深めることができた。  
 ・最先端の教育機関に身を置き、日常の教科指導と進路のつながりについて知ることができました。多くの研究者にお気遣いいただき、実験や発表など貴重な経験を得ることができました。  
 ・教科の実技指導に直ぐ結びつく実技術を十分に身につけられた。また、研修先において学校教職員、公務員以外の職種の方と交流を持つことができ、物の見方や価値観の幅を広げられた上、今後の重要なアドバイザーになってもらえる人脈を得られた。

## III 研修内容・方法の見直し等

### 前年度を踏まえ

・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。

### 次年度に向けて

・本研修は各受講者により受入機関・研修期間が異なるため、状況に応じて個別に実施の可否を判断し、柔軟に対応する。  
 ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入する。  
 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等の変更がありうる。

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成31年（令和元年）度 産業・理科教育教員派遣研修 研修派遣一覧

都道府県	派遣人数	No	派遣元	派遣先	派遣時期	期間
			所属	機関名		
栃木県	7	1	小山市立間々田中学校	宇都宮大学	H31.4.1～R1.9.30	6ヶ月
		2	塩谷町立玉生小学校	宇都宮大学	H31.4.1～R1.9.30	6ヶ月
		3	鹿沼市立西中学校	宇都宮大学	R1.10.1～R2.3.31	6ヶ月
		4	那須烏山市立烏山中学校	宇都宮大学	R1.10.1～R2.3.31	6ヶ月
		5	栃木県立栃木農業高等学校	つくば国際ペット専門学校	R1.6.1～R1.8.31	3ヶ月
		6	栃木県立宇都宮商業高等学校	大原簿記学校 東京水道橋校	R1.10.1～R2.3.31	6ヶ月
		7	栃木県立真岡北陵高等学校	大原簿記情報ビジネス医療福祉専門学校宇都宮校	R1.10.1～R2.3.31	6ヶ月
群馬県	1	8	群馬県立渋川工業高等学校	群馬大学	H31.4.1～R2.3.31	12ヶ月
長野県	2	9	長野県千曲市立屋代中学校	信州大学	R1.5.1～R1.8.31	4ヶ月
		10	長野県伊那市立春富中学校	信州大学	R1.6.1～R2.1.31	8ヶ月
愛知県	5	11	愛知県立小牧工業高等学校	学校法人 神野学園 中日本航空専門学校	R1.5.1～R1.7.31	3ヶ月
		12	愛知県立小牧工業高等学校	学校法人 神野学園 中日本航空専門学校	R1.5.1～R1.7.31	3ヶ月
		13	愛知県立刈谷工業高等学校	アイシン精機株式会社 人事部 アイシン高等学園	R1.10.1～R1.12.26	3ヶ月
		14	愛知県立半田商業高等学校	星城大学	R1.7.1～R1.9.30	3ヶ月
		15	愛知県立守山高等学校	名古屋大学	H31.4.1～R1.9.30	6ヶ月
京都府	1	16	京丹波町立下山小学校	大阪大学大学院	H31.4.1～R2.3.31	12ヶ月
大阪府	1	17	大阪府立園芸高等学校	兵庫県立淡路景観園芸学校	H31.4.1～R2.3.31	12ヶ月
和歌山県	1	18	和歌山県立南部高等学校	国立大学法人和歌山大学	H31.4.1～R2.3.31	12ヶ月
山口県	1	19	山口県立山口農業高等学校	山口県農林総合技術センター	R1.12.1～R2.2.29	3ヶ月
高知県	1	20	高知県立高知農業高等学校	高知大学	H31.4.1～R2.3.31	12ヶ月
福岡県	1	21	福岡県立朝倉東高等学校	福岡工業大学	H31.4.1～R2.3.31	12ヶ月
佐賀県	2	22	佐賀県立牛津高等学校	中村学園大学	H31.4.1～R2.3.31	12ヶ月
		23	鹿島市立西部中学校	国立大学法人佐賀大学	H31.4.1～R2.3.31	12ヶ月
熊本県	1	24	熊本県立鹿本農業高等学校	株式会社 中九州クボタ	H31.4.1～R2.3.31	12ヶ月